



14.5  
103



始





35432



和歌山縣史蹟名勝天然記念物調査會報告 第四輯



14.5  
103

貴族院
函
号
冊



81W09483

### 緒言

本書ハ客年三月第三輯發刊以降調査委員ヨリ提出セラレタル調査報告ヲ集録シタルモノニシテ編輯ノ形式ハ凡テ第三輯ニ準シタリ即チ調査報告ハ之ヲ史蹟、名勝、天然記念物ノ三種ニ別チ更ニ之ヲ海草、那賀、伊都、有田、西牟婁、東牟婁郡ノ順ニ排列シ又別ニ調査委員ノ報告ニアラサルモ田口本縣測候所長ノ寄稿ニ係ル高松根上リ松ノ成育狀況調査ト本年三月二十六日開會ノ本縣史蹟名勝天然記念物調査會通常會ニ於ケル協議事項ヲ採録シタリ想フニ光輝アル國史ノ趾蹟ヲ尊重シ自然ノ寵光ニ基ク名勝並ニ天然記念物ヲ保存シ之レ



ニ依リテ國土愛護ノ情操ヲ旺ナラシメ國民性ノ涵養ニ資セシムル  
 ハ頗ル喫緊ノ要事ニ屬シ而カモ此レカ實績ヲ舉ケ効果ヲ完カラシ  
 ムルニハ法律制度ニ倚ルノ外主トシテ國民各自ノ自覺的發露ニ埃  
 タサルヘカラス茲ニ本書ヲ刊行シテ汎ク縣下各學校並ニ公衙ニ頒  
 ツニ當リ縣民一致克ク此ノ意ヲ諒トシテ縣下斯種ノ保存顯彰ニ關  
 シ更ニ一段ノ力ヲ盡サレムコトヲ望ム

大正十四年三月

和歌山縣



次 蹟

一	熊野九十九王子社趾	一
二	武内宿禰誕生井	二四
三	小倉村古墳	二七
四	森田節齋翁墓	二八
五	祇王舞田	二九
六	虎御前墓	三三
七	高麗陣敵味方戦死者供養碑	三五
八	大津籠城戦死者追弔碑	三八
九	淺野長矩供養碑	四二
一〇	箕島町古墳	四五



一	芳養王子社趾	四七
二	出立王子社趾	四九
三	八上王子社趾	五〇
四	稻葉根王子社趾	五一
五	神倉山	五三
六	中世熊野三山行幸啓御泊所趾	五五

名 勝

一	國主淵	五七
二	白良濱	五九
三	扇ヶ濱ノ松林	六二
四	與根河ノ池	六三

天然記念物

一	三寶蜜柑ノ原木	六六
二	椿ノ巨樹	六九
三	かきかづらノ北限及び群落	七〇
四	しらかしノ巨樹	七三
五	くろがねもちノ巨樹	七五
六	桂樹	七七
七	龍門山ノ磁石巖	八一
八	とがさはら	八二
九	高野くみ	八四
一〇	高野山植物目錄	八六
一一	膽八樹ノ老木	一二四
一二	やつしろらん	一二六
一三	辨慶松	一二七
一四	幽靈松	一二八



一五	ほんぐうしだ	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	一二九
一六	をがたまのき	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	一三〇
一七	竹柏ノ老樹	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	一三一
一八	浮島	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	一三二
一九	ゆのみねしだ	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	一三四
二〇	那智山並ニ附近ノ植物目錄	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	一三六
二一	根上松ノ成長ト氣候的變化	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	一三八

寫眞版

- 一 熊野九十九王子社趾(山口王子外十社)
- 二 武内宿禰誕生井
- 三 小倉村古墳
- 四 森田節齋翁墓
- 五 虎御前墓
- 六 高麗陣敵味方戦死者供養碑
- 七 大津籠城戦死者追弔碑
- 八 浅野長矩供養碑
- 九 芳養王子社趾
- 一〇 出立王子社趾
- 一一 八上神社
- 一二 稻葉根王子社趾



- 一三 神倉山 (其一 其二)
- 一四 國主淵 (其一 其二)
- 一五 白良濱
- 一六 扇ヶ濱ノ松林
- 一七 三寶蜜柑ノ原木 (其一 其二)
- 一八 椿ノ巨樹
- 一九 かぎかづらノ群落
- 二〇 くろがねもちノ巨樹 (其一 其二)
- 二一 桂樹 (其一 其二 其三)
- 二二 龍門山ノ磁石巖
- 二三 とがさはら (其一 其二)
- 二四 高野くみ (其一 其二)
- 二五 やつしろらん (其一 其二)
- 二六 辨慶松

- 二七 幽靈松
- 二八 竹柏ノ老樹 (其一 其二)
- 二九 浮島
- 三〇 ゆのみねしだ (其一 其二)



和歌山縣史蹟名勝天然記念物調査會報告 第四輯

史蹟

一 熊野九十九王子社址

委員 勝田良太郎報告

本居内遠ノ著セル和歌ノ浦鶴ニ王子ノコトヲ記シテ曰ク

王子ノ名目ハ元僧家ヨリイヒ出セルコトニテ本社ノ内若一王子アルヨリナルベシ之ヲ天照大神ナ  
リト云ヘド何ノヨシモナキ稱ナリ九十九王子ナド古ク諺ニイフハ唯數多キヲイフニテ必ズ實數ニ  
アラズ山城ヲ出マシテ御幸ノ道路ニナベテアリ皆臨幸ノ御休所毎ニ祭り熊野本社ヲカリニ稱シ勸  
請セルヨシニテ多クハ地名ヲオキテ某王子トイフ中ニ地名ナラヌモイササカアリ云々  
神祇辭典ニ熊野九十九王子ヲ説明シテ

往古熊野街道ノ要地ニ祀ラレタリシモノ熊野御幸全盛ノ頃京ヨリ熊野マデノ間隨所ニ之ヲ置カレ



タリ古クハ末社ト稱セラレシモ本宮ニ對シテ被管ノ關係ニアリシモノト必ズシモ然ラザルモノトアリ當時佛教趣味ノ盛ナリシ世相ノ下ニ物語ノ道俗往返ノ途次深ク渴仰シ熊野三山ノ隆昌ト共ニ其ノ信仰又頗ル盛ナルモノアリシガ其ノ後漸次衰頽シテ諸社王子ハ或ハ位置ノ變遷所在ノ湮滅等ニヨリ僅ニ地名ニノミ其ノ遺跡ヲ留ムルニ至レリ云々

紀伊續風土記ニ熊野御幸ト題シテ

熊野御幸屢々アリシ頃其ノ道間ニ王子社トイフガ多クアリ今俗ニ九十九王子ノ社アリト云フ九十九ハ其ノ大數ニテ正シク何十社アリト云フコト詳ナラズ(中畧)此記王子ノ名スベテ七十餘見エタレドモ他ノ古書ニ見エテ此記ニ洩レタルモ多ク今社アリテ此記ニナキモ多シ。サテ奉幣御拜等ノサマ嚴ナルト疎ナルトアリ詳ニ御幸記ニ見エタリ。コレハ御幸ノ御時道中ニテ熊野ノ神ヲ遙拜セサセ給ハン爲ニ場ヲ設ケラレシナルベシ。元ヨリ社アルハ之ヲ用ヒラレ或ハ新ニ社ヲ建テラレシモアリ總テ王子ト稱シ地名ヲ配シテ某王子ト呼ビナセルナリ。按スルニ宇多上皇御幸ノ頃ハ末ダ道間ニ王子社アリシサマ見エズ。増基ガ庵主ニ

いほぬしに御山につくほごに木のもごこにたむけの神多ければ水のみにごまるとアレバ此頃ハ水飲ノ邊ニ多ク小社アリケムヲ御幸記ニハサルサマニ見エズ今モ水飲王子ノ外ナ

キヲ思ヘバ以前ハ諸王子社末社多ク此所ニアリシヲ御幸盛リニナリテ追々ニ其ノ道路ニ移シ配リテ事ヲ弘クセシナルベシ。サレバ白河上皇御幸ノ頃ヨリ專ラ王子ノ説行ハレテ道間ニ多ク建ツルコト、ハナレルナルベシ云々

宮地文學博士ノ説ニ曰ク

熊野九十九王子ヲ典籍ノ上ニ徵シテ其ノ最初ニ表レシモノヲ求ムルニ王朝ノ季マデニハ藤代、楯屋、切目、磐代、瀧尻、近露、發心門ノ七社ナリ。次デ建仁元年ノ御幸記ニ至リ其ノ數漸ク具ハリ實ニ六十一社ノ多キニ達ス。サレド思フニ實ハ王朝ノ季ニ於テ略其ノ形ヲ整ヘタリシモノナルベク只記録ノ具備セザルガタメニ之ヲ徵スルコトノ難キナランカ大鳥居、井口等新王子ト云ヒテ新設ニ係ル社ノ存セルヲ示スニアレバ自ラ以外ノ諸社ガ相當ノ年代ヲ有セシ事推量セラルベシ云々

此クテ同博士ハ建仁ノ御幸記ヲ基トシ室町時代以前ノ文献ニ具ヘタルモノニシテ攝津ニ四社、和泉ニ十八社、紀伊國ニ七十二社、合計九十四社ヲ列擧セラル即チ左ノ如シ

【攝津】 久保津王子 阪口 王子 郡戸 王子 阿部野王子  
【和泉】 境 王子 大鳥居王子 篠田 王子 平松 王子



井口 王子	池田 王子	淺宇河王子	鞍持 王子
胡木新王子	鶴原 王子	佐野 王子	靱井 王子
麻戸 王子	信達 王子	一ノ瀬王子	長岡 王子
地藏堂王子	馬目 王子		
中山 王子	山口 王子	川邊 王子	中村 王子
吐前 王子	和佐 王子	平緒 王子	奈久知王子
柏原 王子	松阪 王子	松代 王子	菩提房王子
板戸 王子	藤代 王子	塔下 王子	橋下 王子
所阪 王子	一壺 王子	塔下 王子	山口 王子
糸我 王子	逆様 王子	久米崎王子	井關 王子
川ノ瀬王子	馬留 王子	沓掛 王子	内畑 王子
高家 王子	田藤次王子	愛徳山王子	九海士王子
岩内 王子	鹽屋 王子	上野 王子	津井 王子
斑鳩 王子	切部 王子	中山 王子	磐代 王子

【紀伊】

千里 王子	三鍋 王子	芳養 王子	出立 王子
秋津 王子	丸 王子	三栖 王子	八上 王子
稻葉根王子	一ノ瀬王子	鮎川 王子	瀧尻 王子
大門 王子	重照 王子	大阪本王子	近露 王子
比曾原王子	繼櫻 王子	中ノ河王子	小廣 王子
岩神 王子	湯河 王子	猪鼻 王子	發心門王子
水飲 王子	菟殿 王子	伏拜 王子	湯峰 王子
濱 王子	佐野 王子	市野々王子	多富氣王子

以上列記セル如ク王子社ハ難波ノ地ニ始ル。即チ京都ヲ發スルヤ陸路鳥羽ニ至リ此ヨリ船ニ乗リテ淀河ヲ下リ川尻ナル窪津ニ着ス久保津王子コ、ニアリテ之ヲ熊野第一王子トシ（今ノ八軒屋ニ當リ王子ノ舊跡ハ座摩神社ノ御旅所トナル）此レヨリ今ノ大阪ヲ横斷シテ天王寺西門前ニ至リ阿部野街道ヲ南行シ住吉ヲ經テ和泉ノ海岸ニ出デ大凡今ノ鐵道線路ト併行シテ和泉ト紀伊ノ國境ナル雄ノ山峠ヲ越ヘ愈々本縣ニ入ル此クテ今ノ山口村大字瀧畑ヨリ南行シ川永、小倉、和佐、両山東、安原、龜川、大野ノ各村ヲ經テ内海町大字藤白ニ至リ今ノ熊野街道ニ合ス大樣熊野古道ニシテ所謂小栗街



道ト稱スルモノナリ其ノ間ニ王子社ヲ存スルコト十有四今其ノ遺趾ヲ列記シイヅレモ由緒著キ史蹟  
ナレバ速ニ相當保存ノ道ヲ講ゼラレムコトヲ望ム

六

山口王子社址

- 一所在地 海草郡山口村大字湯屋谷字山ノ下一一八番地
- 一地目 官有地第一種
- 一地積 三畝七步
- 一管理者 海草郡山口村 山口神社々掌
- 一由來現狀等 紀伊風土記ニ

王子權現社 湯屋谷村ノ北ニテ山ノ麓ニアリ土人傳ヘテ是レ熊野九十九所王子ノ一ナリトイ  
ヘリ定家卿ノ熊野御幸記ニ出タル山口ノ王子コレナリ一ニハ三橋ノ王子トモイフトイヘリ

紀伊名所圖繪ニ

山口王子 湯屋谷村ニアリ九十九王子ノ其ノ一ナリ御幸記ニ見エタリ  
十數年前マデハ無格社トシテ存在セシガ明治四十二年神社合併ノ聲喧カリシ頃山口村ニ於テハ



陸社子玉邊川



陸社子玉口山



村内ニ散在セル數多ノ神社ヲ悉ク大字谷字平山ナル日吉神社ニ合併シテ一村一社トナシ社名ヲ山口神社ト改メシガ當王子社モ同年二月二十五日ヲ以テ此ニ合祀セラレタリ、跡地ハ幸ニ其ノ儘保存セラレ、モ社殿ハ壞レ土塀ハ崩レ全ク荒廢ニ任セル狀ハ觀ルモノヲシテ懷古ノ情ニ堪ヘザラシム最近同地ノ青年會ニ於テ周圍ニ鐵條ヲ繞ラシ安ニ境内ニ入ルヲ防止セリ

### 川邊王子社址

- 一所在地 海草郡川永村大字川邊字稻井六一番地
- 一地目 官有社地
- 一地積 千八百十五坪
- 一所有者 官有
- 一管理者 海草郡川永村 力侍神社々掌
- 一由來、現狀等 紀伊續風土記ニ

八王子社 力侍神社 川邊村ノ乾二町半許ニアリ八王子社舊ハ上野村ニ在シ力侍神社舊ハ神波村ニ在シシニ中古力侍神社ヲ上野村八王子ノ境内ニ遷シ奉リ後又兩社トモ此地ニ遷シ奉レ



リ因テ両社一境内ニ並ビ祀レドモ神ノ來由各異ナリ(中略)按ズルニ當社ハ熊野御幸記ニ載  
スル所ノ川邊王子ニシテ僧心敬ガササメコトノ自跋ニアル八王子ノ社コレナリ云々  
紀伊名所圖繪ニ

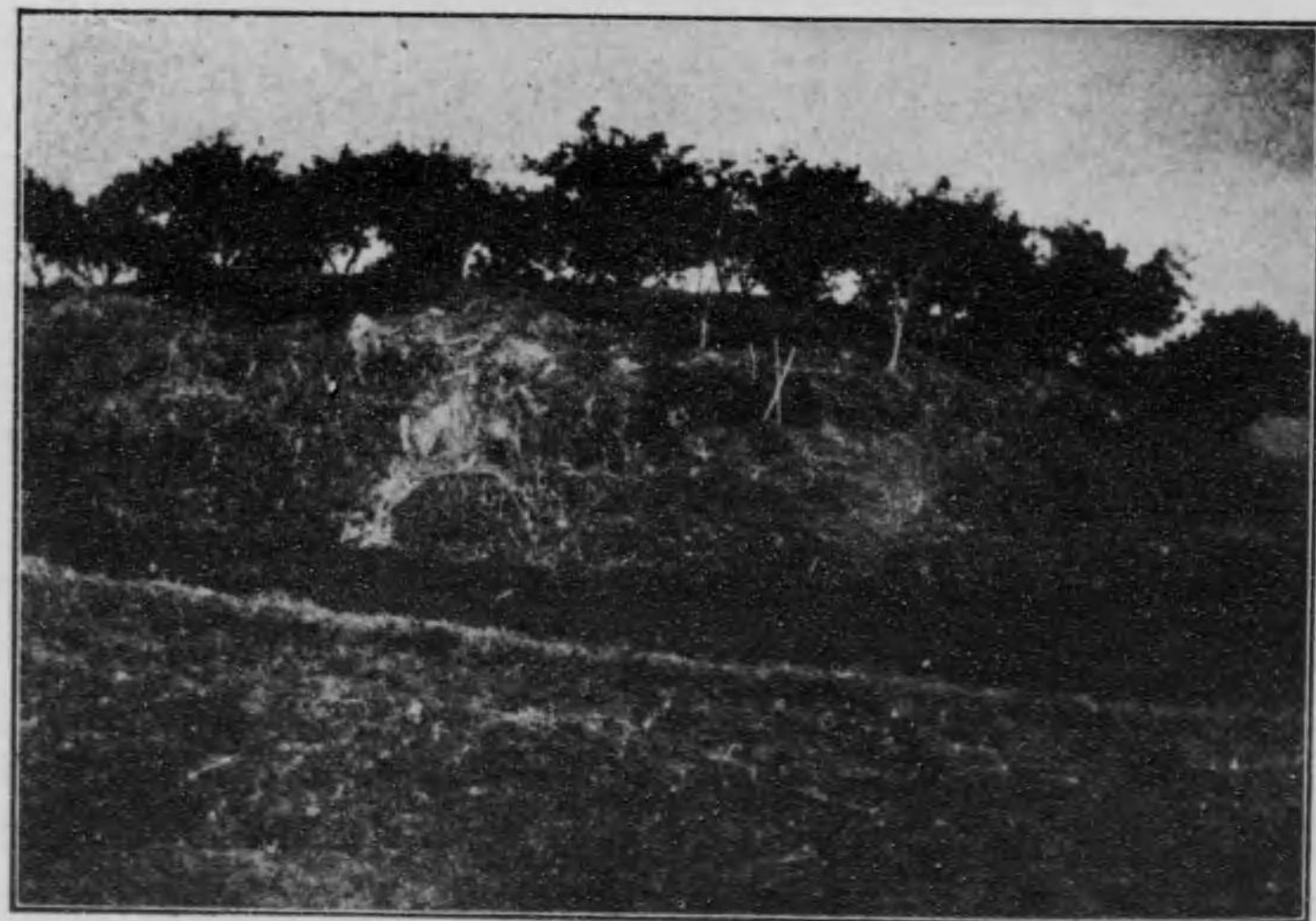
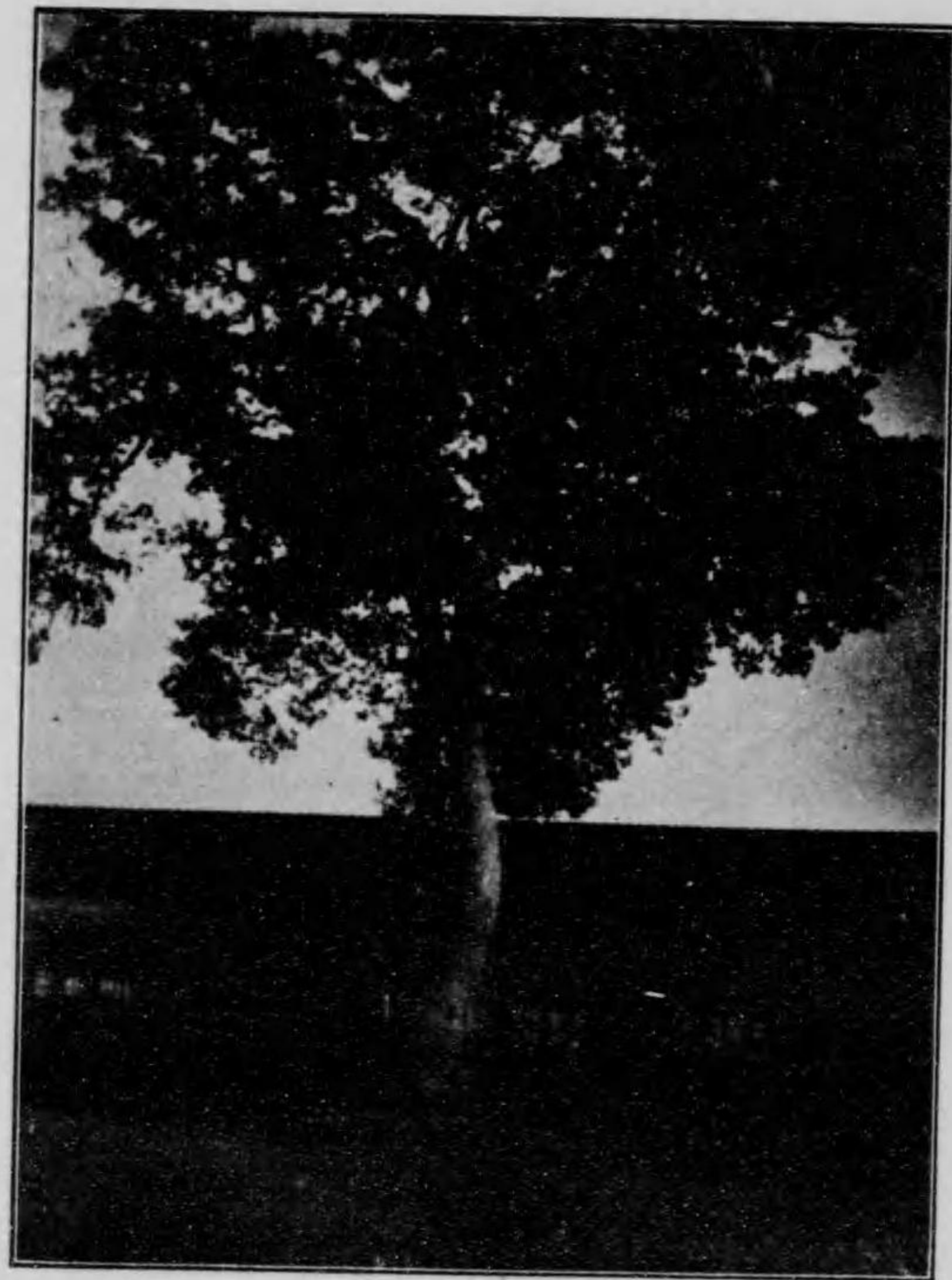
川邊王子 川邊村ノ東ニアリ九十九王子ノ其一ニシテ御幸記ニ出タリ  
現在村社力侍神社トシテ保存セラル

中村王子社址

- 一所在地 海草郡川永村大字楠本字南ノ口二八六番地
- 一地目 宅地
- 一積 二百六十二坪
- 一所有者 海草郡川永村有
- 一管理者 海草郡川永村長
- 一由來、現狀等 紀伊續風土記ニ

楠大明神社 楠本村ノ南ニアリ熊野御幸記ニ中村ノ王子トアルハ此社ナルベシ

中村王子社址



吐前王子社址



紀伊名所圖繪ニ

中村王子社 今王子權現トイフ川邊王子社ノ東ニアリ御幸記ニ云フ建仁元年十月八日參ニ川邊王子。次參ニ中村王子。次入ニ晝養飯屋。所從等無ニ沙汰。其所甚荒。於此所ニ有ニ非時水垢離。相ニ待御幸ニ甚遲。忠信少將參會。小時先參ニ此王子。

昔時境内ニ楠ノ大樹アリ此レ村名楠本ノ起リシ所以ニシテ元ハ中村ト呼ビシ故當社モ中村王子ト稱スルナリ楠神社ハ最近マデ存在セシガ明治四十四年五月力侍神社ニ合併セラレ其ノ跡地ハ川永尋常高等小學校並ニ川永村役場ノ敷地トナリ今校庭ニ矗立スル楠ノ大木ハ地上五尺ノ處ニテ周圍一丈三尺高サ十四間アリ此レ前記古楠ノ藁ニシテ樹齡約五百年ト稱セラレ古ヲ偲ブ唯一ノ記念物ナリ

吐前王子社趾

一所在地 那賀郡小倉村大字吐前字御幸堂七三七番

一地 目 田

一地 積 二十四歩



一所有者 那賀郡小倉村大字吐前 宮本市太郎  
一由來、現狀等 紀伊續風土記ニ

吐前王子社 吐前村ノ北二町許ニアリ土人王子權現ト呼ブ御幸記ニ吐前王子トイフハ是ニテ  
九十九王子ノ一ナリ森ヲ土人御幸道トイフ古ノ熊野御幸ノ道次ナリ古ハ森モ大ナリシニ漸々  
農民ニ掠メラレテ小クナリ且中ヲ絶レテ森ニトナリタリ云々

紀伊名所圖繪ニ

吐前王子社 吐前村北一町許ニアリ土人おかうごうノ森ト云フ御幸ノ森トイフヲカタナマレ  
ルナラン倭名類聚抄ニ埴崎トアリ云々

續風土記ニ森ヲ土人御幸道ト云フトアリ名所圖繪ニハおかうごうノ森ト云フトアレド現在土地  
ノ人ハおこんごト呼ビ土地ノ字名トナリテ御幸堂ト書ス

續風土記ニアル如ク森ハ中斷セラレテ大小二トナリ大ナル方ハ大字吐前字御幸堂七三五番ニシ  
テ四畝歩アリ昔時御幸堂トイフ堂宇アリシモ嘉永年間暴風ノタメニ破壊セラレテ爾來建立ナク  
跡地ハ御幸堂境内地トシテ官有ナリシガ明治四十五年七月二十七日無償讓與ヲ受ケテ同村光恩  
寺ノ所有ニ歸シ今ハ之ヲ開墾シテ蜜柑畑トナセリ

小ナルハ之ヨリ十四五間ヲ隔テタル東方ニアリテ地積二十四歩、元此ニ無格社王子社トシテ一  
坪バカリノ小祠アリシガ明治四十三年村社小倉神社ニ合祀シ其ノ跡地ハ明治四十四年十一月十  
日個人ニ賣却セラレ從來小高キ處ナリシニ地均シヲナシテ周圍ノ田ニ併合シ今ハ御幸堂七〇二  
番一段五畝二十二歩ノ中ニアルヲ以テ舊位地ハイヅレノ處ナルカ一見シタル處ニテハ判明シ難  
シ

和佐王子社 其一

一所在地 海草郡和佐村大字布施屋字松垣内七〇八番地

一地目 山林

一地積 二十歩

一所有者 海草郡和佐村大字布施屋 中西市松 矢川雅治郎 吉田義廣

一由來、現狀等 紀伊續風土記ニ

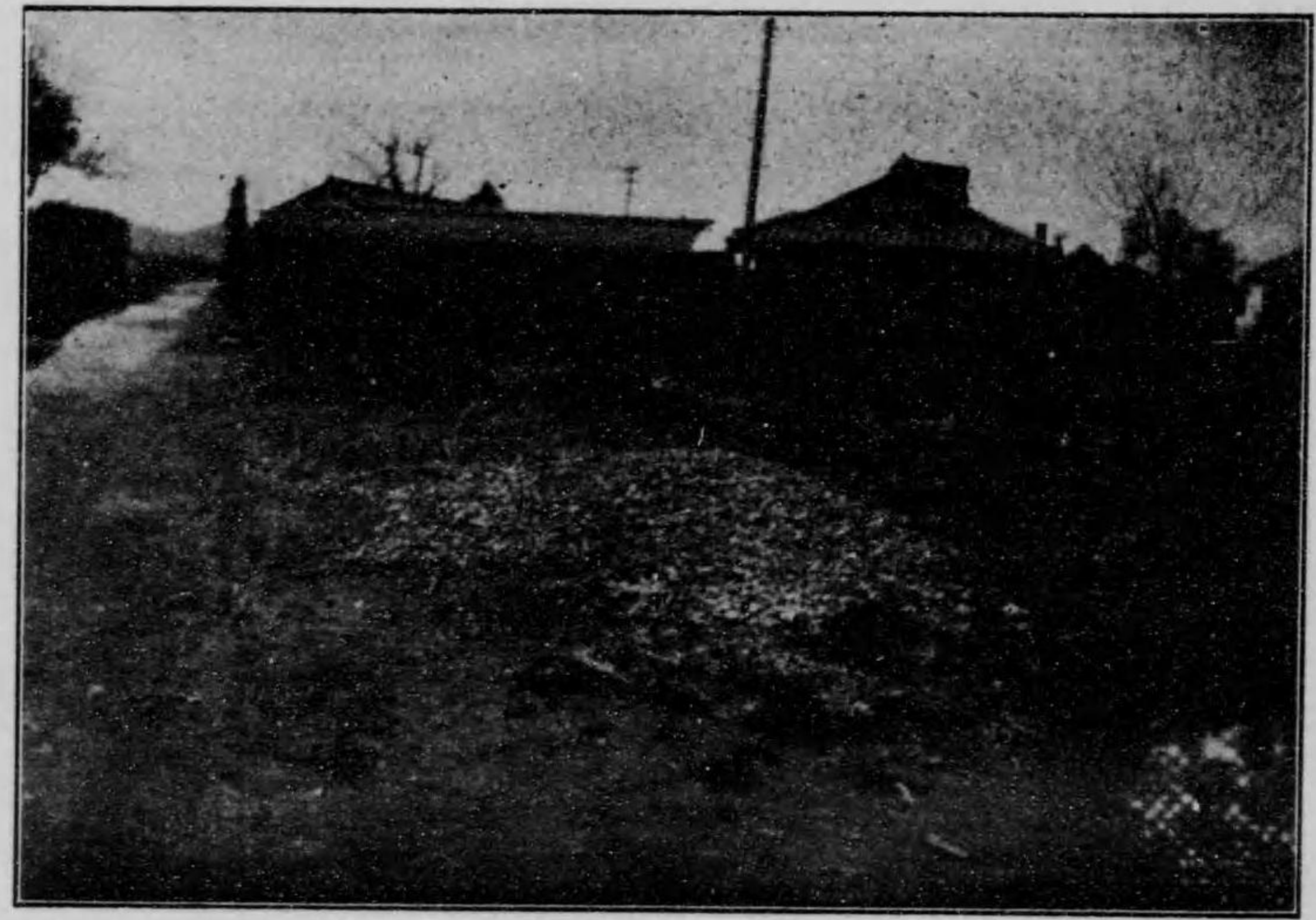
王子權現社 昔ハ村ノ西七町小栗街道ニアリ今村中ニ移ス和佐ノ王子ト稱ス寛文記ニ云フ和  
佐王子二社一ハ坂本ニアリ一ハ川端ニアリ川端ニアリトイフハ即チ是ナリ森古松多シ云々



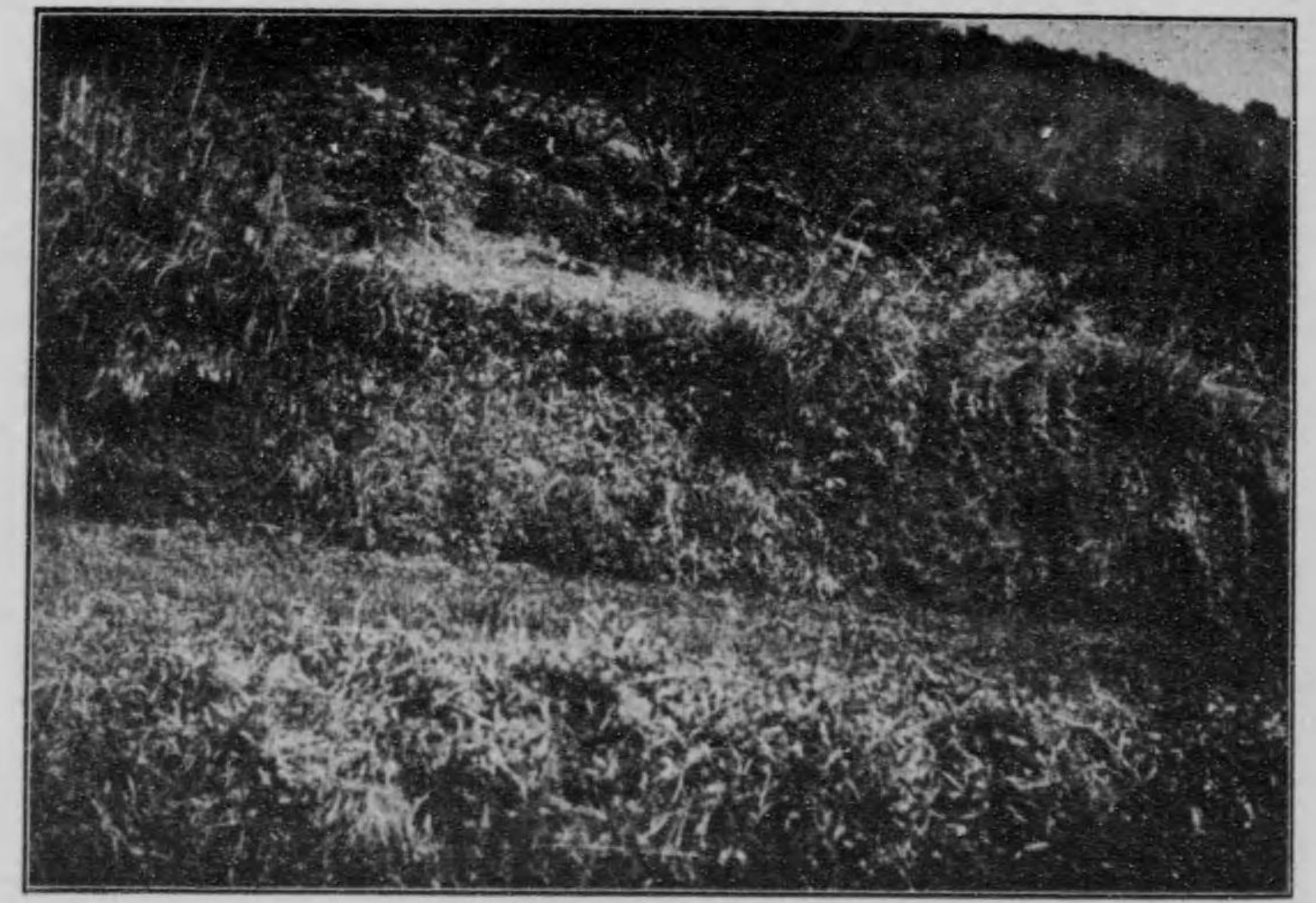
神社ハ明治四十三年マデ存在セシガ同年一月村社高積神社ニ合併シ社地ハ元官有ナリシガ當時無償ニテ神社ニ下付セラレ神社ハ基本金造成ノタメ更ニ之ヲ拂ヒ下ゲテ今ハ個人ノ所有ニ歸シ社殿ハ勿論土塀等ハ撤廢セラレ樹木ハ悉ク伐採セラレタレバ一点古ノ俤ヲ存スルモノナク初メテノ者ニハ迎モ其ノ位地ヲ知リ難シ大字布施屋ニ於テハ之ヲ以テ青年會場ノ建設地ニ充ツルノ議アリト云ヘリ

和佐王子社址 其二

- 一所在地 海草郡和佐村大字禰宜字權現二六〇番地
  - 一地名 山林
  - 一積 一畝六步
  - 一所有者 海草郡和佐村大字禰宜 南出吉之助
  - 一由來、現狀等 紀伊續風土記ニ
- 王子權現社 禰宜村ノ南二町許小栗街道字坂本トイフニアリ因テ阪本王子ト稱ス社ナシ碑ヲ建テ和佐王子ノ四字ヲ彫ム寛文中(約二百六十年許前)建ル所トイフ寛文記ニ云フ和佐王子二社一ハ阪



川端王子社址



阪本王子社址



本ニアリ一ハ川端ニアリ阪本ニアリト云フハ即チ是ナリ云々  
風土記ニアル如ク當時既ニ廢社ニ歸シ又同記ニ和佐王子ノ四字ヲ刻セル碑石ヲ建ツトアレド何  
時ノ頃ニカ破毀セラレテ今ハ其ノ影モナク土地ノ人々ニ尋ヌルモ知ルモノナシ此所モ川端王子  
ト同ジク元官有社地ナリシガ明治四十四年八月同村ニ於テ神社統一ノ際賣却セラレテ個人ノ私  
有ニ歸シ今ハ蜜柑畑トナリテ全ク古ノ傳ヲ存セズ阪本ノ名ハ蓋シ矢田峠ノ麓ナルヨリ起レルモ  
ノナラント

平緒王子社址

- 一所在地 海草郡東山東村大字平尾字須松五六二番地
- 一地名 第一種官有地
- 一積 三畝歩
- 一所有者 官有
- 一管理者 海草郡東山東村 村社都麻津姫神社々掌
- 一由來、現狀 紀伊續風土記ニ



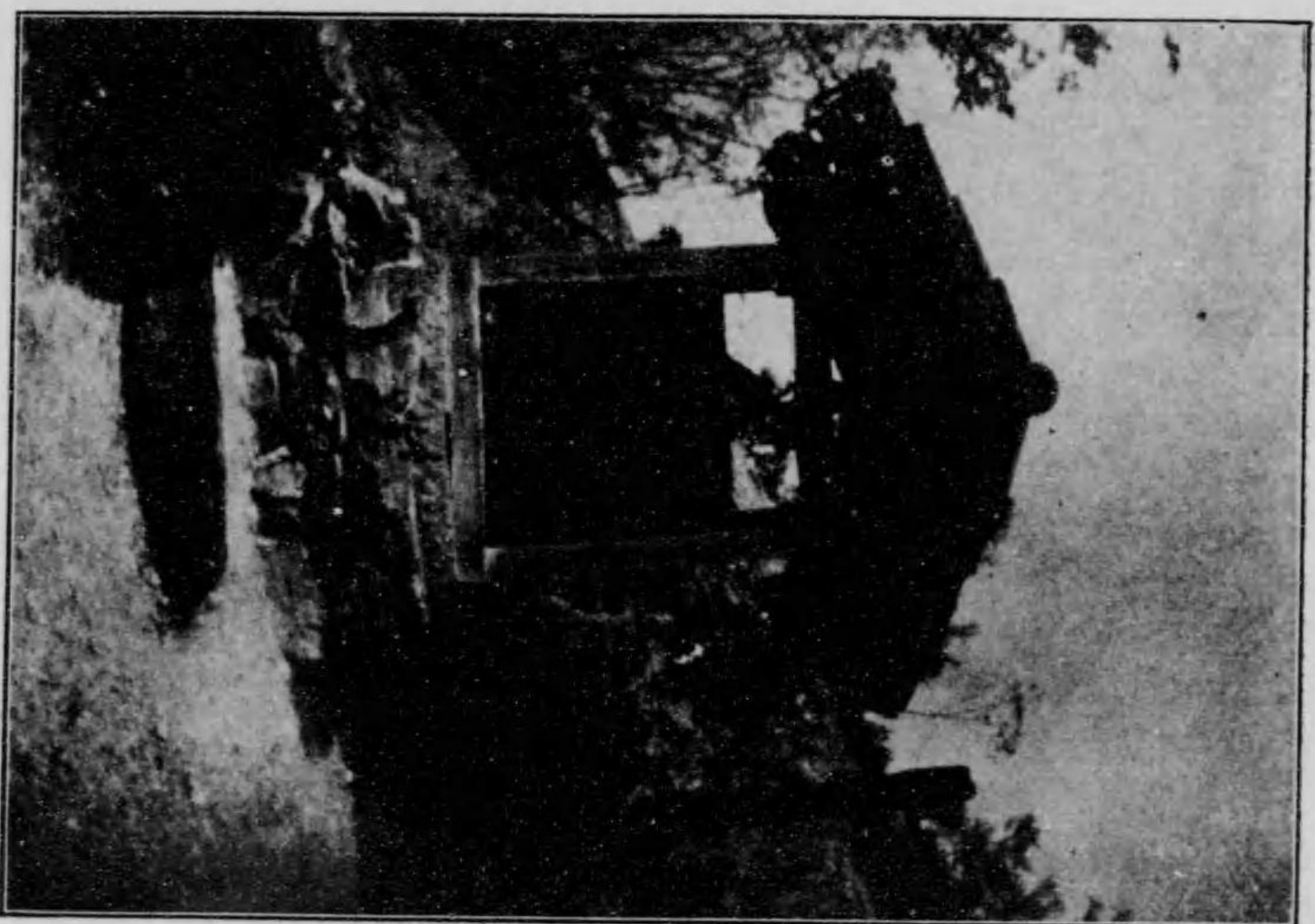
平緒王子社 平尾村中小栗街道ノ西側ニアリ熊野御幸記建仁元年十月八日ノ條ニ 平緒王子  
非ニ道次ニ之間不レ參先達許奉幣トアリ 舊ハ社モ五尺許拜殿モアリ社領モ五段半アリシヲ豊太  
閤南征ノ後衰廢ストイヘリ

神社ハ最近マデ存在セシガ明治四十一年三月村社郡麻津姫神社ニ合併セラレ其ノ跡地ハ幸ニ存  
セラル、モ村ノ小供等ガ遊ビ場トナリ居レリ

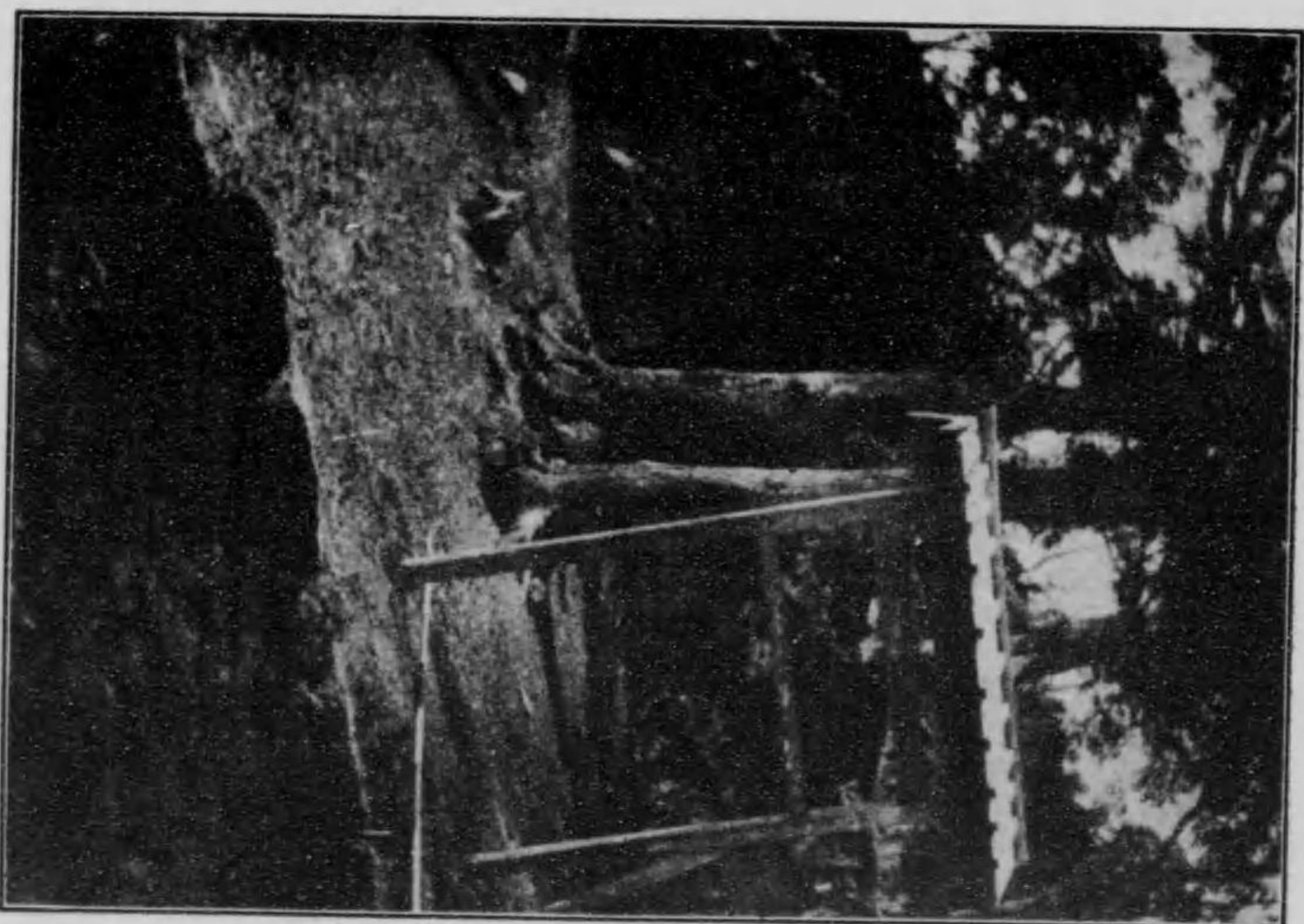
奈久知王子社 社址

- 一 所在地 海草郡山東村大字奥須佐字王子續三番ノ内
- 一 地目 畑
- 一 地積 三步
- 一 所有者 海草郡山東村大字奥須佐三番地 奥本重雄
- 一 由來、現狀等 紀伊名所圖繪ニ

奈久智ノ王子社 奥須佐村ニアリ按ズルニ御幸記ニ 建仁元年十月八日凌ニ遠路山々之道ニ參ニ  
ナクチノ王子ニ云々ト見エタルハ即チ此ノ處ナリ



社址 王子代松



社址 王子緒平



トアリ然ルニ如何ナル間違ニヤ續風土記ニハ

王子權現社 藥勝寺村ノ巽四町許ニアリ熊野古道ノ向ヒ山ノ麓ニアリ按ズルニ御幸記ニ見エタル奈久知ノ王子則當社ナルベシ

トアリテ安原村大字藥勝寺ニアルヤウ記セルハ審シ

王子社ハ小栗街道ニ沿ヒ土俗王子ノ峰ト稱スル小山ノ裾ニアリ社地ハ維新ノ當時民有トナリテ奥本氏ノ手ニ歸シ舊來ノ小祠ハ其ノ儘存置セシガ明治二十三年ノ暴風ニ破壊セラレ爾來同家ノ井戸端ニ祀リ置キシガ大正十年更ニ舊位地ヨリ少シ離レタル所ニ小祠ヲ造リテ原形ニ復シ其ノ際元御神体ヲ納メタルヲ焼却セシガ何トモ云ヘヌ好キ香氣ヲ放チタリト云フ想フニ用材ハ樟ニテ其ノ香ニアラザルカ

### 柏原王子社址

一所在地 海草郡安原村大字藥勝寺字王子谷

一地目 山林官有地

一地積 不詳



一由來、現狀等 紀伊續風土記ニ

廢柏原王子社 小名柏原ニ王子ヶ谷トイフアリ又王子ヶ谷池トイフ小池ニツアリ古王子ノ社アリシ地ナリトイフ云々

前記ノ如ク柏原王子社ハ早クヨリ廢絶ニ歸シ唯其ノ蹟ヲ地名ニ留ムルノミ風土記ニハ「小名柏原ニ王子ヶ谷トイフアリ」トアレド柏原ハ現時大字松原ニ屬シ王子ヶ谷ハ大字藥勝寺ニ屬シテ柏原ニアラザレバ此ノ邊符合セズ

王子社ハ何分古クヨリ廢絶ニ歸シタルコト、テ今俄ニ其ノ址ヲ確定シ難ケレドモ風土記ニ所謂王子ヶ谷池ト云フ小池ニハ今モ現存シ一ハ字王子ヶ谷四一六番地ニアリテ面積八畝十二歩、一ハ王子ヶ谷四一九番地ニアリテ面積二十一歩、里人ハ之ヲ藥勝寺ノ二ツ池ト稱ス

松阪王子社址

一所在地 海草郡龜川村大字且來字王子ノ前

一地目 山林

一地積 調査未了

一所有者 海草郡龜川村大字且來 辻正太郎

一由來、現狀等 續風土記ニ

王子ヶ谷 且來村領熊野古道ノ西ニアリ道ノ東ヲ王子前トイフ寛文記ニ八幡ノ末社ノ内ニ王子ノ社退轉トアリ御幸記ニ見エタル松阪王子ノ廢址ナルベシ云々

紀伊名所圖繪ニ

大野阪 又小野坂トモ云フ同村ヨリ北ニアリ且來ヨリ大野ノ郷へ越ユル昔ノ熊野往還ナリトイヘリ此峠ヨリスコシ北ニ古松アリコ、ニ大野阪ノ王子ノ社アリシガ今ハナシ定家卿ノ記ニハ「松阪王子、次ニ藤白鳥居ノ王子」トシルス

小栗街道ニ沿ヒ小野坂ノ北數丁ノ處ニ約數坪ノ平地アリ昔時此ニ神殿アリシナランモ早クヨリ廢絶ニ歸シ風土記ニハ八幡ノ末社ノ内ニ退轉トアリ其ノ上ノ約一間程高キ所ニ名所圖繪ニ記セル古松アリシガ明治ノ初年村民ニヨリテ伐採セラレ今ハ六十歳以上ノ老人ニ非ザレバ之ヲ知ルモノナキモ當時餘程ノ老木ナリシト云ヘリ

松代王子社址



- 一所在地 海草郡大野村大字大野中字松代一〇五五番地
- 一地目 宅地
- 一地積 七十九坪
- 一所有者 海草郡大野村 春日神社
- 一管理者 海草郡大野村 春日神社々司
- 一由來、現狀等 紀伊續風土記ニ

松代王子 春日山ノ裾ニアリ社廢ス公命アリテ石ヲ立テ表章ス 熊野御幸記云十月八日參松代王子ニ次參松代王子ト見エタリ 寛文記ニ井田村松代橋トイフアリ其邊ニ王子屋敷トイフアリトアリ

紀伊名所圖繪ニ

松代王子 春日山ノ麓ニ今碑石アリ御幸記ニ云フ松阪王子、次參松代王子ニ云々又文明舊記ニ云フ小野阪王子次ニ喜坊王子次ニ松代王子云々  
 春日山一ニ三上山ト云フ源平盛衰記ニ三位中將維盛三上トイフ處へ出デ給ヒ藤白ノ王子ニ參リシバシ法施ヲタテマツリ給フ(下畧)

以上ニヨレハ天保ノ頃既ニ社ハ廢セラレ其ノ趾ニ表章トシテ碑石ヲ建テラレタルガ今モナホ現存セリ但シ前記両書共ニ春日山ノ麓トアレド先年山腹ニ移サレテ今ハ舊位置ヨリ數十間ノ上ニアリ

又社趾ノ前ヲ流ル、細流ハ一名松代川ト云ヒ前記寛文記ニアル如ク今モ社趾ノ邊ヲ王子屋敷ト稱シ其ノ南ニ架セル橋ヲ松代橋ト稱スコノ橋ニ關シテ一二ノ傳説アルモ此ニ省略ス

菩提房王子社趾

- 一所在地 海草郡大野村大字大野中字南ノ前九五番地先
- 一地目 畦畔
- 一地積 五坪
- 一由來、現狀等 紀伊續風土記ニ

廢菩提房王子 中村ト鳥居村トノ界熊野古道ニ字「ぼだい」トイフアリ其ノ廢跡ナラン 王子社ノ中ニハ早クヨリ衰頽ニ歸シテ所在明ナラズ唯地名ニ殘レルヲ以テ之ニヨリ其ノ遺跡ヲ探ルニ過ギザルモノアリ當菩提房王子モ亦其ノ一ニシテ土俗今モコノ邊ヲぼだいト稱スル故之



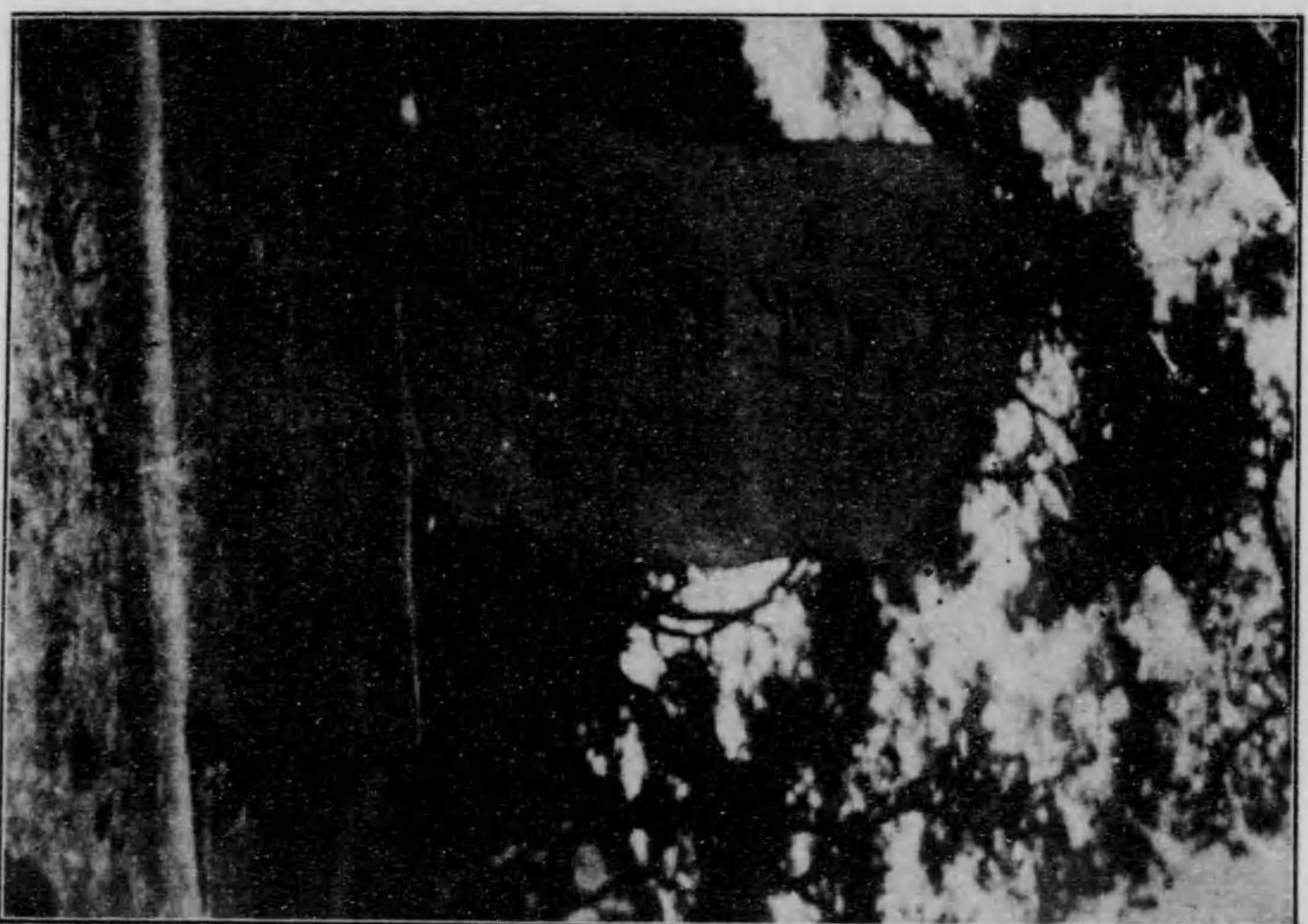
ヲ推定シタルノミ

傳ヘ云フ昔時大野莊春日神社ノ燒失スルヤ伯耆國ヨリ御神体ノ代トシテ佛像ヲ奉リタリ然ルニ  
同社ニ於テ受納ナカリシカバ地ヲぼだいニ定メ寺ヲ造リテ之ヲ祀リシニ其後寺ハ廢絶シテ跡ヲ  
留メザルモ佛像ハ今モ同村釋迦寺ニ現存セリト云フ現時ぼだいニ破壞セラレタル石佛様ノモノ  
數個アリ或ハ前記寺院ト何等カ關係アルヤモ知レズ暫ク疑ヲ存シテ他日ノ調査ニ待ツ

稗戸王子社址

- 一所在地 海草郡内海町大字烏居字北浦
- 一社目 社有地
- 一積目 一畝十四步
- 一所有者 海草郡内海町 村社藤白神社
- 一管理者 内海町 村社藤白神社々掌
- 一由來、現狀等 紀伊續風土記ニ

聖護院三寶院兩門跡入峰ノ時拜セラル、社ナリ後烏羽院熊野御幸記ニ稗戸ノ王子トアル是ナ



社址子玉戸稗



社址子玉房提菩



リ云々

紀伊名所圖繪ニ

鳥居村ニアリ鳥居ノ王子トモイフ九十九王子ノ其一ナリ云々

明治六年四月村社ニ列セシガ同四十二年五月九日村社藤白神社ニ合祀セラレテ廢社トナリ今ハ其ノ跡ニ一基ノ石碑ヲ建テ「菟戸神社々社」ノ六字ヲ刻ス

藤白王子社

- 一所在地 海草郡内海町大字藤白字玉子免四四八番地
- 一 地 目 官有地第一種
- 一 地 積 六百七十九坪
- 一 所有者 海草郡内海町 村社藤白神社
- 一 管理者 海草郡内海町 藤白神社々掌
- 一 由來、現狀等 紀伊續風土記ニ

藤白若一王子權現社 後鳥羽院熊野御幸記ニ於ニ王子御前ニ有ニ御經供養等トアル即是社ナリ



當社勸請ノ由來詳ナラズ相傳ヘテ熊野一ノ鳥居ト稱ス意フニ熊野ノ盛ナリシ時此地ニ大鳥居ヲ建テ熊野一ノ鳥居トシ遂ニ熊野神ヲ遷シ祭リシナラン大鳥居天文十八年ニ損失スト寛文記ニ見エタリ云々

同神社ニ寶物トシテ保管セル藤白社記ニ曰ク

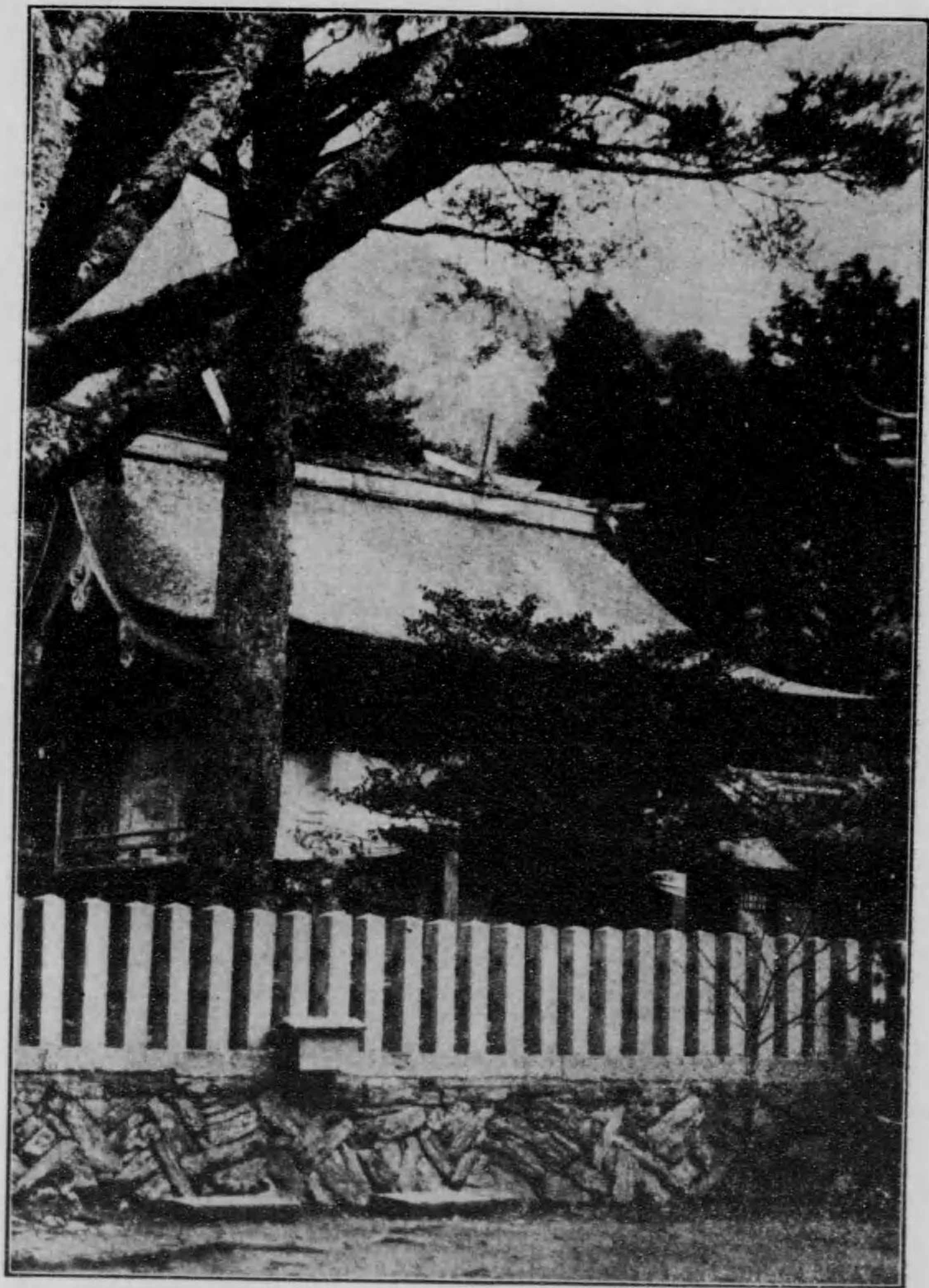
聖武天皇爲ニ勅命。天平元年行基僧正。詣ニ熊野三山權現。而令祈ニ王子誕生。命高野之皇女是也。母后光明皇后。新欲遷ニ熊野三山權現名草郡藤代。於ニ玉江之岡上。儲ニ山洞之流ニ云々

紀伊名所圖繪ニ曰ク

當社ノ鎮座至ツテ久遠ナリ昔ヨリ世々ノ帝王熊野三山へ行幸アリシカドモ御幸路ハ嶮難ニシテ末代后妃夫人ノタメニ此ニ勸請ナサシメ給ヒシトモイフ御幸記ニ曰ク京都東山若王寺ノ社ヨリ熊野山マデ九十九所ノ王子社ヲ建テ、御幸ノ御憩所トシ給ヒ是即チ熊野三所大權現ノ遙拜ノ地ナリトゾ

後鳥羽院御幸記ニ

九日天晴。朝出立。頗遲之間。已於ニ王子御前。有ニ御經供養等ニ云々。雖ニ營ニ參白拍子ニ之



藤 白 神 社



間上。雜事人多立隔無路。強不能參。遂電攀昇藤代阪云々

トアリ更ニ同日藤代王子和歌會ヲ催シ深山紅葉。海邊冬月ヲ題トシ御製二首以下二十四首ノ詠進アリ

深山紅葉 御製

烏羽玉の夜の錦を龍田姫

たれみ山木もひこり染めけん

海邊冬月 御製

浦さむく八十島かけてよる浪を

吹上の月に秋風ぞふく

現ニ其ノ寫ヲ寶物トシテ當社ニ保存シ又記念ノタメ右御製ヲ藏メ奉リタリト云フ御歌塚並ニ宇多、花山、白河三法皇熊野御幸ノ際記念トシテ建テ給ヒシト云フ高サ四尺許ノ五重石塔二基ハ今モ現存セリ

當社ハ昔時社殿壯麗ニシテ社領モ多カリシガ戰國ノ兵亂ニ衰替シテ後昇平ノ世トナリ漸クニ今ノ姿トナレリト明治六年村社ニ列セラレ同四十二年糺神社ヲ本殿ノ右ニ稗戶神社ヲ左ニ合祀シ



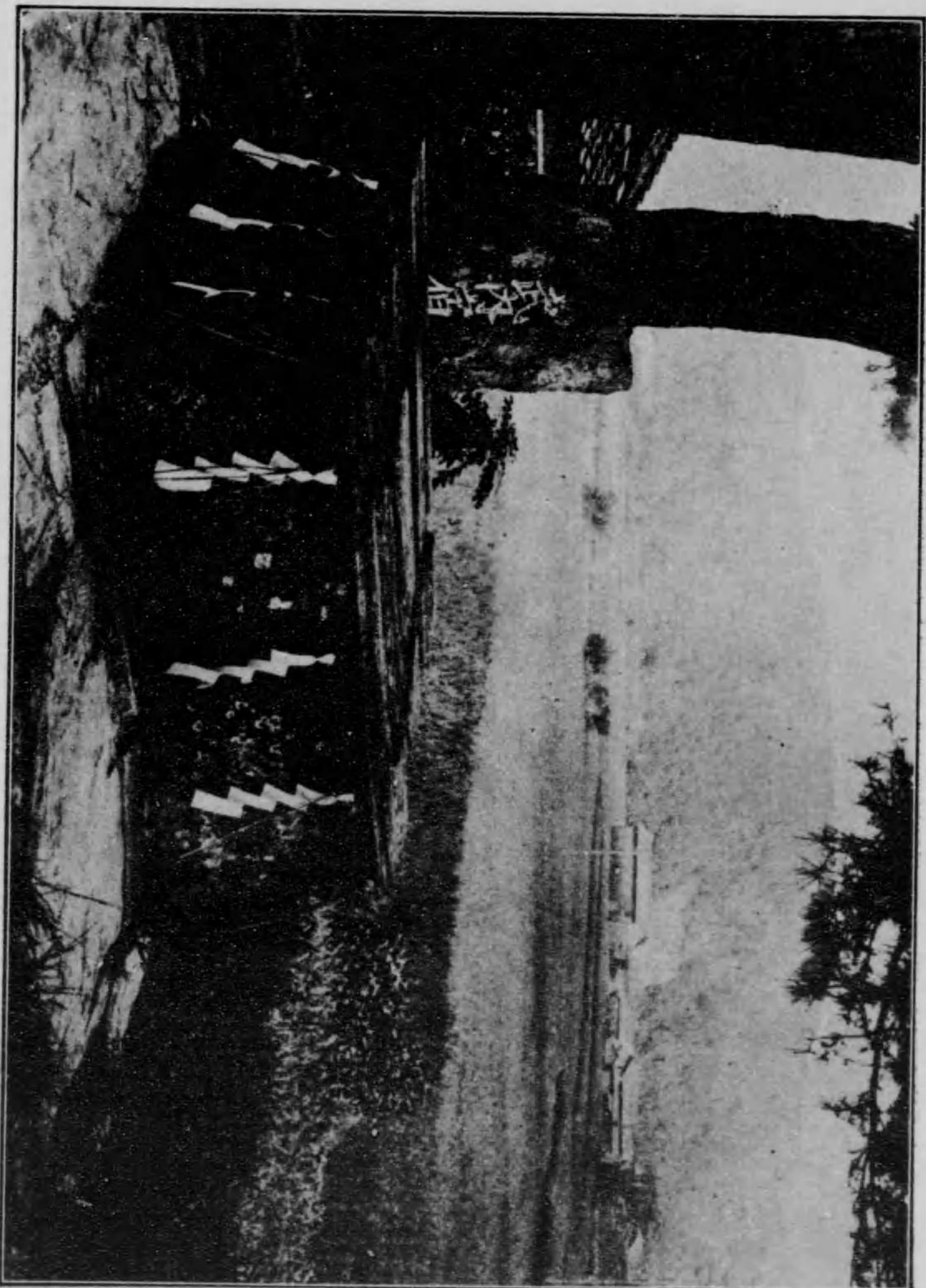
タリ當社ハ所謂五體王子ノ第一ニシテ最モ由緒ノ多キ神社ナレバ目下其筋ヘ昇格ノ申請中ナリト云フ

二四

## 二 武内宿禰誕生井

委員 勝田良太郎報告

- 一所在地 海草郡安原村大字松原字間谷<sup>マダニ</sup>八十三番地
- 一地目 官有社地
- 一地積 五畝二十七步
- 一所有者 官有
- 一管理者 海草郡安原村長
- 一現狀 里道ニ沿ヒ三方人家ヲ繞ラシタル矩形ノ地ニ老松數株空ヲ蔽ヒ樹下ニ一ノ井アリ水面マデ三尺、水深四尺許、水常ニ清ク澄ミテ如何ナル時モ濁ルコトナシト云フ。昔ハ四圍ニ垣ヲ施シ又井ヲ鎖シテ人ノ妄ニ汲ムコトヲ許サザリシト云フモ今ハ何等ノ設備ナク兒童ノナスガ儘ニ任セテ全ク遊び場所トナレリ



武内宿禰誕生井



一由來傳説 紀伊續風土記ニ曰ク

日本記ニ景行天皇三年春二月寅朔ト幸ニ于紀伊國ニ將ニ祭ニ祀群神祇ニ而不レ吉乃車駕止レ之遣ニ屋主忍男武雄心命ニ令レ祭爰屋主忍男武雄心命詣レ之居ニ于阿備柏原ニ而祭ニ祀神祇ニ仍住九年則娶ニ紀直遠祖菟道彥之女影媛ニ生ニ武内宿禰ニ

トアルハ即チ此ノ地ナリ

天和二年記ニ此所ヲ位高キ屋敷トイヒ傳フトアリ此時兵亂ウチ續キ其事蹟湮没ストイヘドモ猶位高キ屋敷ト云ヒ傳フルヲ見レバ此地武雄心命住居ノ地ニテ武内宿禰誕生ノ舊蹟ナルコト明ナリ

此地境内東西十間東北十五間松樹茂生ス其内ニ井アリ亭保年中官命アリテ井邊ニ甃ヲナシ井欄ヲ鎖シテ平日汲ムコトヲ許サズ傍ニ碑ヲ建テ、「武内宿禰誕生井」ト刻ス境内四圍籬ヲ施シ人ノ妄ニ入ルコトヲ許サズ公子御誕生ノ時ハ此井水ヲ御産湯ニ用ユルヲ例トス云々

紀伊名所圖繪ニモ

松原村ノウチ柏原トイヘル方十間バカリノ松林アリテ其中ニ武内宿禰誕生井アリ側ニ碑ヲ立テ、之ヲ標ス相坂村八幡宮社司之ヲ支配ス是即チ昔ノ阿備ノ柏原ニシテ宿禰誕生ノ地ナリ。



宿禰ハ世ニ聞エシ長壽ノ人ナレバ今モ高貴ノ御方御産アラセタマフ每ニ必ズ此ノ水ヲクミテ  
産湯ニ用ヒ給フコト此ノ吉例ニヨレバナリ

此ノ如ク此地ハ屋主忍男武雄心命ノ住居セシ地ニシテ即チ武内宿禰ノ誕生地ナリト古來稱セラ  
レ今モ現ニ同村八幡神社ニ左記ノ古文書ヲ保存セリ

紀伊國阿備柏原者往昔武内大臣誕生之地也。事載在日本書記景行帝卷焉。大臣者人皇第八  
世孝元天皇之後也。父曰屋主忍男武雄心命。母曰山下影媛。是紀伊國第六世紀直祖菟道  
彦之女也。當國名草郡安原莊有柏原村。此地有古井之存焉。土俗相傳此處即武内之舊  
宅。而大臣降誕之時浴此井水。世人不知其故。享保十五年庚戌國君源公歎遺趾之絕。  
乃命有司。浚井琢石。以避汚穢。禁亂入。時人僉汲之。以爲浴兒之水。蓋慕武  
内之壽也。嗚呼繼絕興廢。國君之志實可敬也。圓融院天元年中國造第三十八世無男子。  
故養行義。讓國造職行義。則武内二十一世之後。而予家三十三世之祖也。是故予亦聞  
之以喜焉。因記事之始終。以與八幡祠官芝崎氏云。

享保十六年辛亥二月

紀伊國造右京大夫從五位下紀朝臣俊範識

一 保存ノ要件 此ノ如ク古來著名ノ史蹟ナルヲ以テ當村ニ於テモ數年前ヨリ毎年豫算中ニ此レガ  
保存費ヲ設ケ其ノ蓄積ヲ待ツテ境内ノ修理ヲ行ハントスルノ企アルモ金額至テ少ク果シテ幾年  
後實現サレ得ベキカ豫想シ難キヲ以テ其ノ計畫ニ基キ此ノ際速ニ國費ニヨリ相當保存ノ道ヲ講  
ゼラレンコトヲ望ム

### 三 小倉古墳

委員 重田重一報告

- 一 所在地 那賀郡小倉村大字田中字東國一八五番地及四六八番地
- 一 地目 一八五番地ハ畑 四六八番地ハ山林
- 一 地積 一八五番地ハ三段十七步(元山林ニテ明治三十九年開墾)
- 一 所有者 一八五番地ハ那賀郡小倉村 上山捨次郎  
四六八番地ハ那賀郡小倉村 南中 秀吉
- 一 現狀 畑中ニ發掘セラレタルモノニケ所 山林中ニ露出セルモノニケ所  
塚ヲナセルモノ約十ヶ所アリ 塚ノ形狀及構造等ハ岩橋干塚ノモノニ酷似セリ

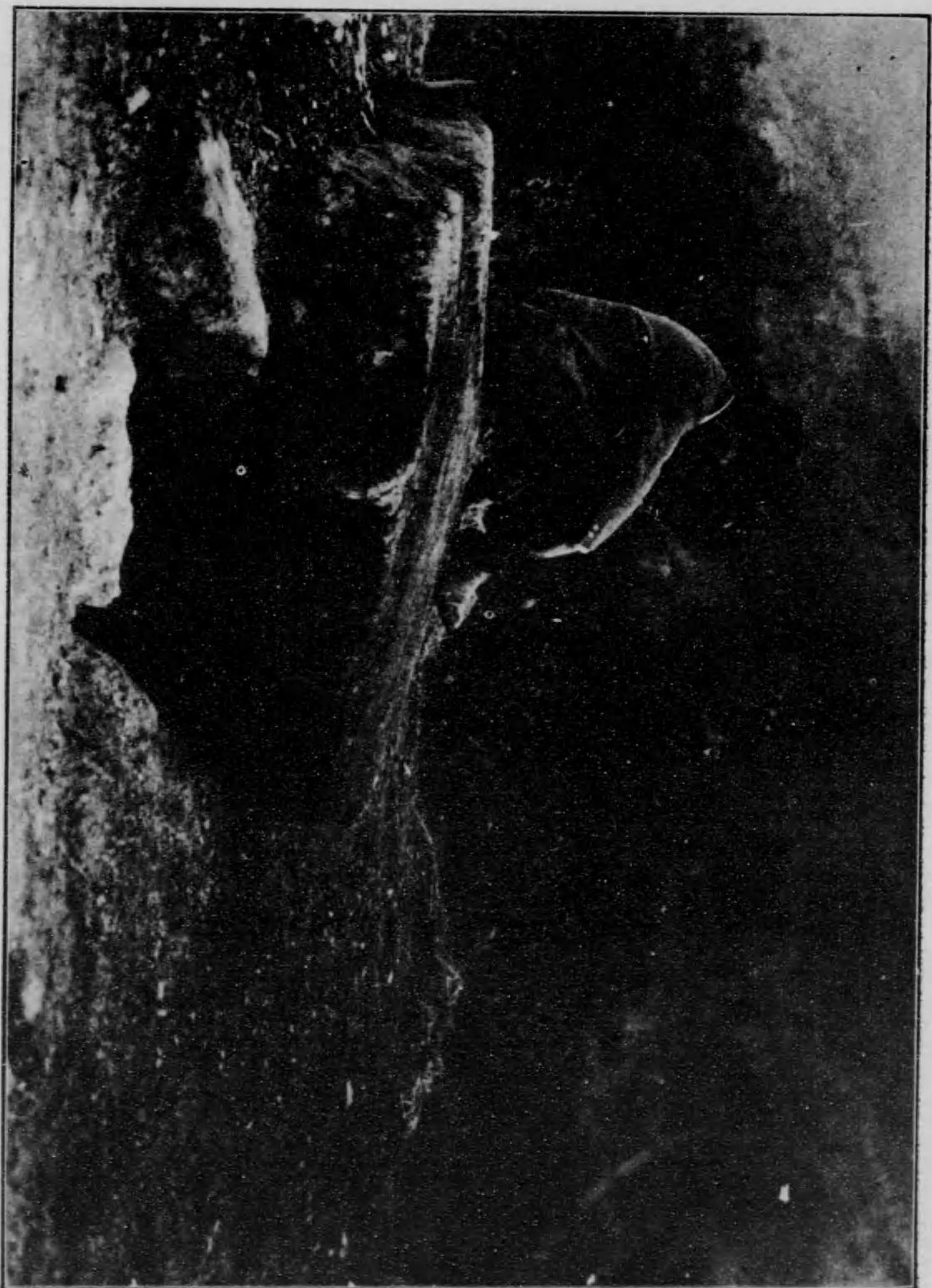


一保存ノ要件 此ノ附近ハ次第ニ開墾セラレテ畑地トナリツ、アル狀況ナリ既ニ發掘セラレタルモノモ其ノ埋藏物ハ徒ニ破壊セラレテ何等考古ノ資料トシテ利用セラレザリシハ遺憾ナリトス  
今後開墾許可ノ際ハ特ニ此ノ点ニ留意セラレンコトヲ希望ス

#### 四 森田節齋翁墓地

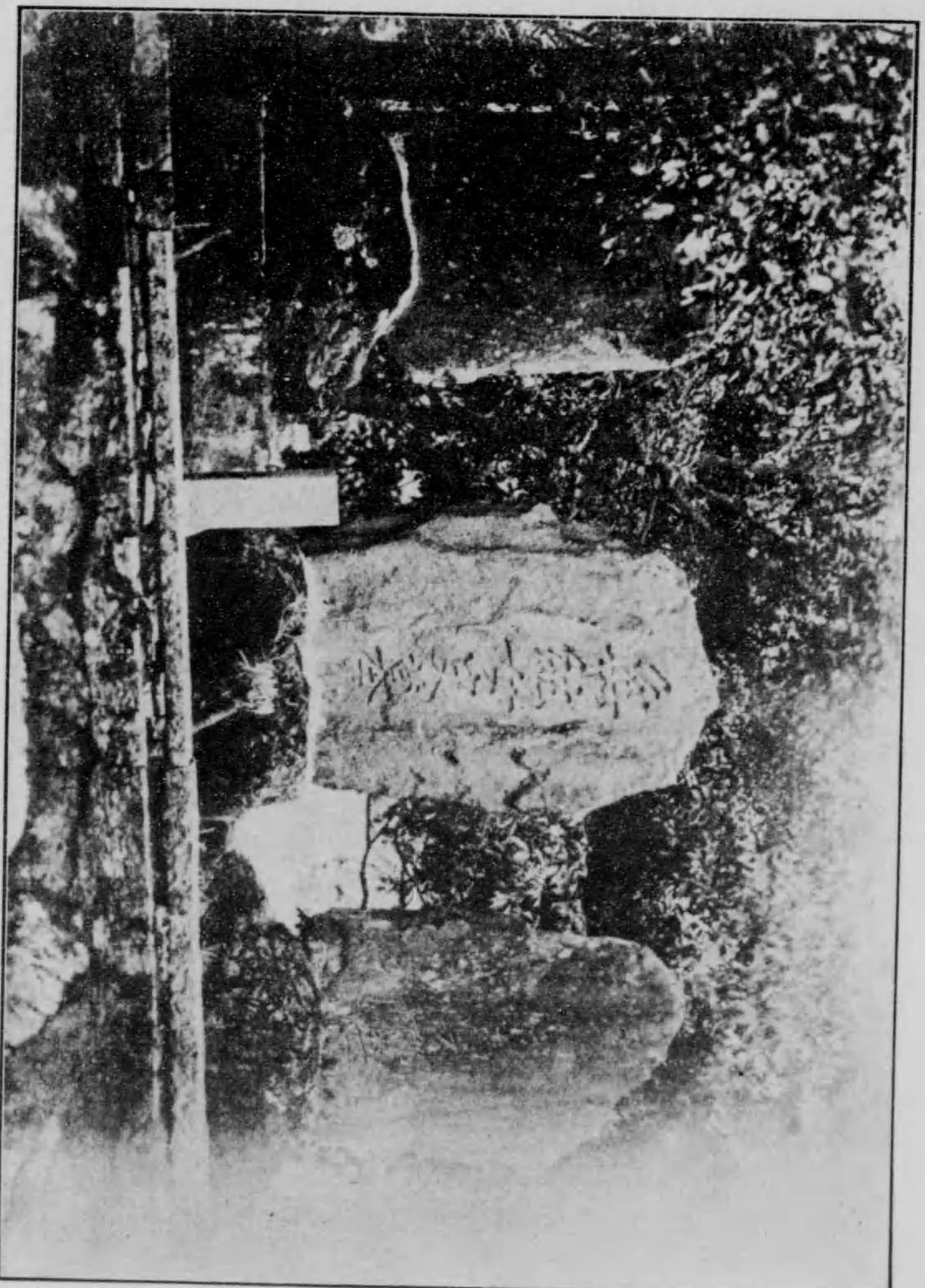
委員 重田重一報告

- 一所在地 那賀郡龍門村大字荒見字木ノ下二二二番地
- 一墓地 墓地
- 一積 九十二坪六合
- 一所有者 那賀郡龍門村 北 淳子(保田龍門氏令室)
- 一管理者 那賀郡龍門村 北 淳太郎
- 一現狀 北氏累代ノ墓地ノ一部ニ森田節齋先生及ビ其ノ室無絃女史並ニ一子司馬太郎氏三基ノ綠泥片岩ニ彫メル墓石アリ
- 墓ハ北向ニシテ向ツテ左ハ節齋翁先生墓(明治元戊辰七月二十六日) 中央ハ無絃女史墓 向ツテ



小倉村古墳





節齋親子墓 (向中右ハ馬太左ノ墓ナリ)  
節齋親子墓



右ハ森田司馬太郎墓トス

節翁先生墓ハ北淳太郎氏及門人ノ建テタルモノニシテ其ノ文字ハ先生自筆ノ額 節翁先生讀書處ノ四字ヲ寫シタルモノ 無絃女史墓ハ藤澤南岳ノ筆 又司馬太郎氏ノモノニハ倉田績先生ノ撰並ニ書ノ碑文アリ

一由 來 節齋ハ大和五條ノ人ニシテ諱ハ益、字ハ謙藏、文ヲ頼山陽ニ學ブ碩儒ニシテ尊皇ノ志士ナリ、慶應二年六月龍門山下北長右衛門氏ノ食客トナリ愚中庵善通寺ニ隠レ明治元年七月病歿ス享年五十八ナリ門人等北氏ノ塋域ニ葬ル 明治戊申從四位ヲ贈ラル「犬ノ説」其ノ他多數ノ遺墨ハ北氏ニ所藏セリ

翁ノ門人ニシテ神戸在住ノ武岡豊太氏ハ先生ノタメニ記念碑ヲ建テント志シ各地ニ遊説シテ既ニ碑文ハ土屋鳳州氏ノ手ニ成リ篆額ヲ久邇宮殿下ニ請ヒ奉レル由史蹟保存ノタメ慶ブベシ

### 五 祇 王 舞 田

委 員 重 田 重 一 報 告

一 所 在 地 那 賀 郡 粉 河 町



一現

狀

縣立粉河高等女學校ヨリ東方一帶洪積層ノ高臺地域ハ水蝕ニヨリテ南北ニ並走セ

ル數條ノ谷及ビ峰ヲ形成セリ 谷ハ海拔五十米峰ハ高キ所ニテ百米位、而シテ學校ヨリ東方三

ツ目ノ谷ハ即チ小字名ヲ舞田ト呼ブ所ニシテ小田井ノ小流ヲ限リ南ハ花山、白河兩法皇熊野行

幸ノ御時飯宮トセラレシ御跡ト稱スル御所ノ芝ノ地ニシテ其ノ北ハ即チ祇王ノ舞田ナリ 谷ヲ

縦走シテ王子村井田ヨリ粉河町中ノ方ニ通スル小徑アリ

現時其ノ谷筋ハ水田ニシテ西峰ハ山林、東峰ハ蜜柑山ナリ人家ニ遠ク離レ又遺跡トシテ何等ノ

証徴スベキモノナケレドモ謠曲籠祇王ヨリ推シテ此ノ地ヲ祇王ガ父ノ罪ヲ赦サレンガタメニ歌

舞セシ地ナリト言ヒ傳フ、ナホ宇ノ内、立聞ノ藪等ノ地名モソノ附近ニ殘レリ

一由來傳説

謠曲籠祇王ヨリ抄出ス

ワキ「是は紀州粉河の何がしにて候、さても此隣郷に林の何がしと口論し、敵味方に討ち討  
たる、事數を知らず……」

シテサシ「是は此程都に住む祇王と申す女にて候、此程清水に籠りて候へば鄙の住居に年よりた  
る父を持ちて候ふが何事の科やらん、所の主より召こめられ籠者とやらん聞は候ふ程に  
急ぎ下りて今一目、見參らせばやと思ひつ……」

ワキ「惣じて囚人のゆかりなごとて參りたる者を對面の事は堅く禁制にて候へども、祇王御

前の御事は天下にかくれもなき舞の上手にて候ふ程に、舞をまうて御見せ候はゞ、大法

を破つて父御に引合せ申さうするにて候」

シテ「悲しやな親子の契りの對面なるを、舞はじ申さば父に逢ふこごかなうまじければ、仰

せには従ふべけれども先づ、父に引合せて給はらば、其後舞をまはうするにて候」

尉「今は早切るべきに定まりて今日の夕べと聞は候處に嬉しくも來り給ふ物かな、跡の取

りおき最後の仕儀といひ、あまりにたよりもなかりつるに御身の來り給ふを見て、二世

安樂の心まで出て來て候へ……」

シテ「さては人を助け給ひたる御科ならば、かへつて喜びにやなるべし、慈眼視衆生の力を

頼み觀音を念じ給ふべし」

ワキ「如何に祇王御前舞を御まひ候へ」

シテ「さん候父の御ありさまを見るに、涙にかきくれ更に舞ふべき便りなし、然るべくは御

ゆるし給へ」

ワキ「不思議なる事を仰せ候ふ物かな、さては我等を御たばかり候な」



尉 「如何に祇王、何とて辭し申す、父が最期の光陰にも歌舞の菩薩の妙音たるべし……」

地 「雪をめぐらす袂より、涙の雨やまさるらん」

シテ 「何事も世の有様は夢なれや」

地 「うつ、なき今のけしきかな」

シテ 「あら悲しや、みづからを失ひて、父御を助けてたび給へ」

尉 「如何に祇王、何を歎くぞ、今は歎をこめて父が最期の十念をす、むべきを、是なる數珠は黒谷の法然上人より給はりたる御珠數なり、是をおことに與ふるなり、父が形見と思はん時、念佛申し跡を弔ひて得させ候へ」

二人 「數珠と御經をとりちがへ、南無や大悲の觀世音」

地 「慈悲の眼の光にて臨終を守り給へや」 (下畧)

長田村大字長田中阿彌陀堂ハ林氏ノ支配ニシテ祇王祇女ノ墓ハ此ニアリシガ安永年中(今ヨリ百五十年前)住僧大和ノ國ヘ携ヘ行キシト按ズルニ紀伊國名所圖繪ニモ祇王ハモト粉河ノ産ナル由見ユレドモ平家物語ナドニ見ユル平清盛ニ仕ヘシ祇王ト果シテ同一人ナリヤ疑ハシ 新群書類從、西澤

文庫ニモ

城州嵯峨往生院の開山妓王妓女は江州野州郡永原村北村中北村の出所にて惠那九郎時長の娘也

トアリ

一 保存ノ要件 標石ヲ建テ、謠曲籠祇王ノ舞田ハ此ノ地ヲ背景トセルコトヲ表明シタシ

六 虎 御 前 墓

委 員 重 田 重 一 報 告

一 所 在 地 那賀郡池田村大字池田新五番地 三熊山陽瀧院權現寺境内

一 地 目 山林

一 地 積 二百五十七坪ノ内約十四坪

一 管 理 者 那賀郡池田村大字池田 權現寺住職小野啓典

一 由 來 傳 説 大磯虎母ハ大磯ノ長者某ノ女ニシテ父ハ伏見大納言ナリ虎ハ歌ヲ善クシ容貌美ナリ、曾我祐成屢々大磯ニ遊ビ虎ヲ見テ之ヲ悦ブ虎亦相愛ス、祐成讐ヲ報シテ鬪死スルニ及ビ箱



根山ニ登リ僧行實ニ請テ祐成ノ冥福ヲ修シ遂ニ尼ト爲リ信濃善光寺ニ往ク年十九、寛元三年正月紀州熊野ニ没スト年七十一。(大日本史抄録)

寺記ニ依レバ虎御前ハ曾我兄弟ノ死後其ノ遺骨並ニ遺物ヲ携ヘテ遙々熊野ニ詣デ之ヲ奉納セント志シ、大磯ヲ出テ二十餘日ヲ費シテ紀伊路ニ入りシトキ俄ニ病ニカ、リ、今ハ容易ニ歩ヲ運ビ難シ、偶々此ノ地ニ熊野權現ヲ祀リシ社アルヲ聞キテ、虎ウレシト思ヒ辛フジテ當寺ニ詣テ合掌シテ程ナク息絶エタリ、里人及ビ寺僧之ヲ葬リ碑ヲ建ツ、後文明元年(死後二百二十四年)寺僧願海阿闍梨曾我ノ遺骨ヲ高野山ニ納メタリト

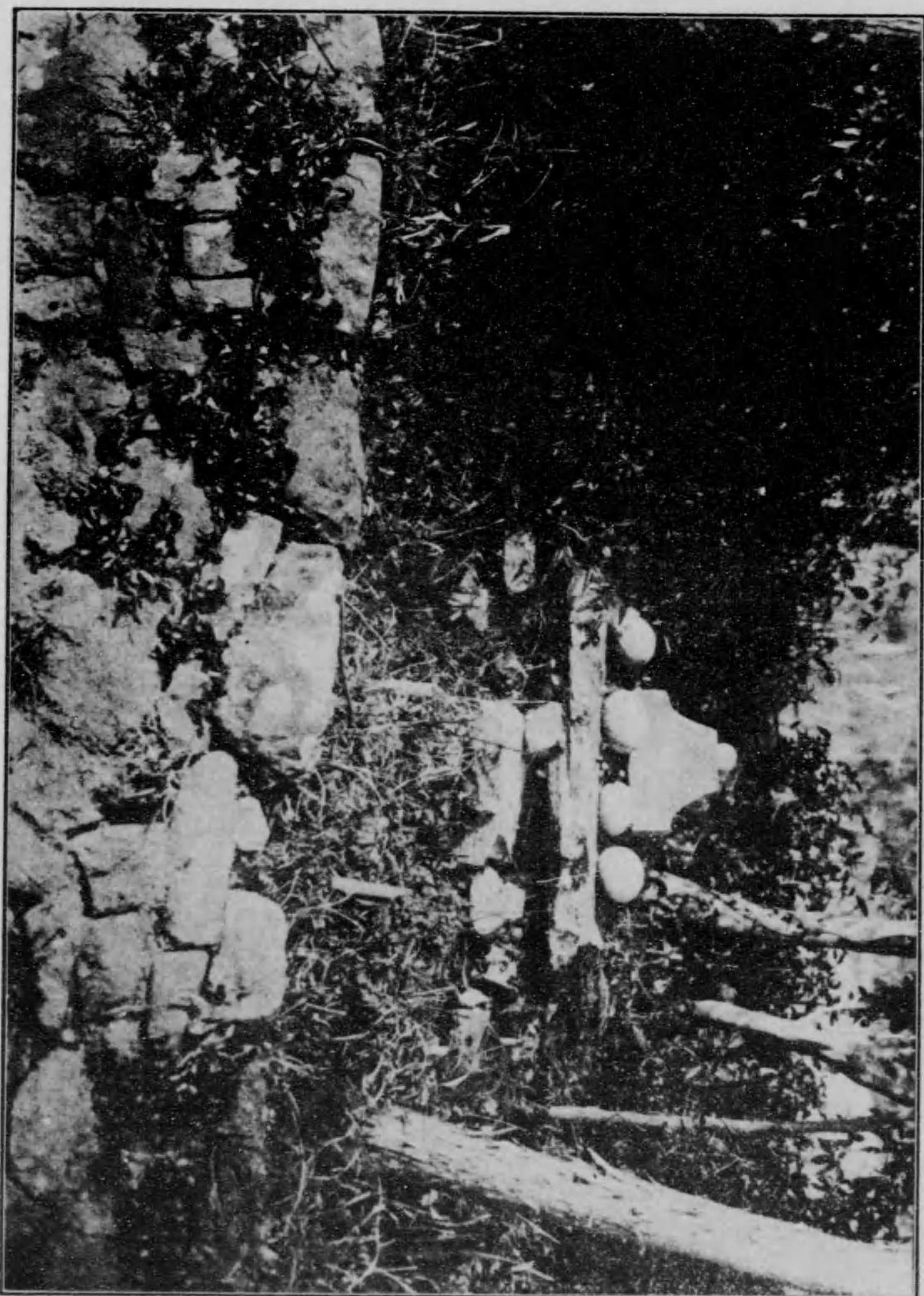
寺ノ東方丘上ニ虎御前ノ墓アリ、碑面ニ玉浦禪定尼ト鐫ルト紀伊名所圖繪ニアレド、今殘存セルハ笠石ノミ

一現

狀 寫真版ニ見ユル如ク一個ノ笠石ト五個ノ球形ノ小石ヲ一枚ノ綠泥片岩ノ臺石ノ上ニ載セタルノミ 寺寶トセルモノニハ

曾我兄弟ノ守刀二口 一口ハ九寸五分無銘ニシテ、他ノ一口ハ一尺二寸信舎ト銘アリ  
曾我十郎祐成自詠自筆ノ歌

けふとて、めぐりあはずはおぐるまの



虎御前墓



この世のうちになしとしれきみ

曾我兄弟ノ位牌

高崇院殿峯岳良雪大禪定門

十郎祐成 建久四癸丑五月二十八日

膺嶽院殿士山良富大居士

五郎時致 建久四癸丑五月二十九日

大磯虎ノ竹杖一本 三尺五寸 煤竹ニ草花及ビ文字ノ毛彫アリ

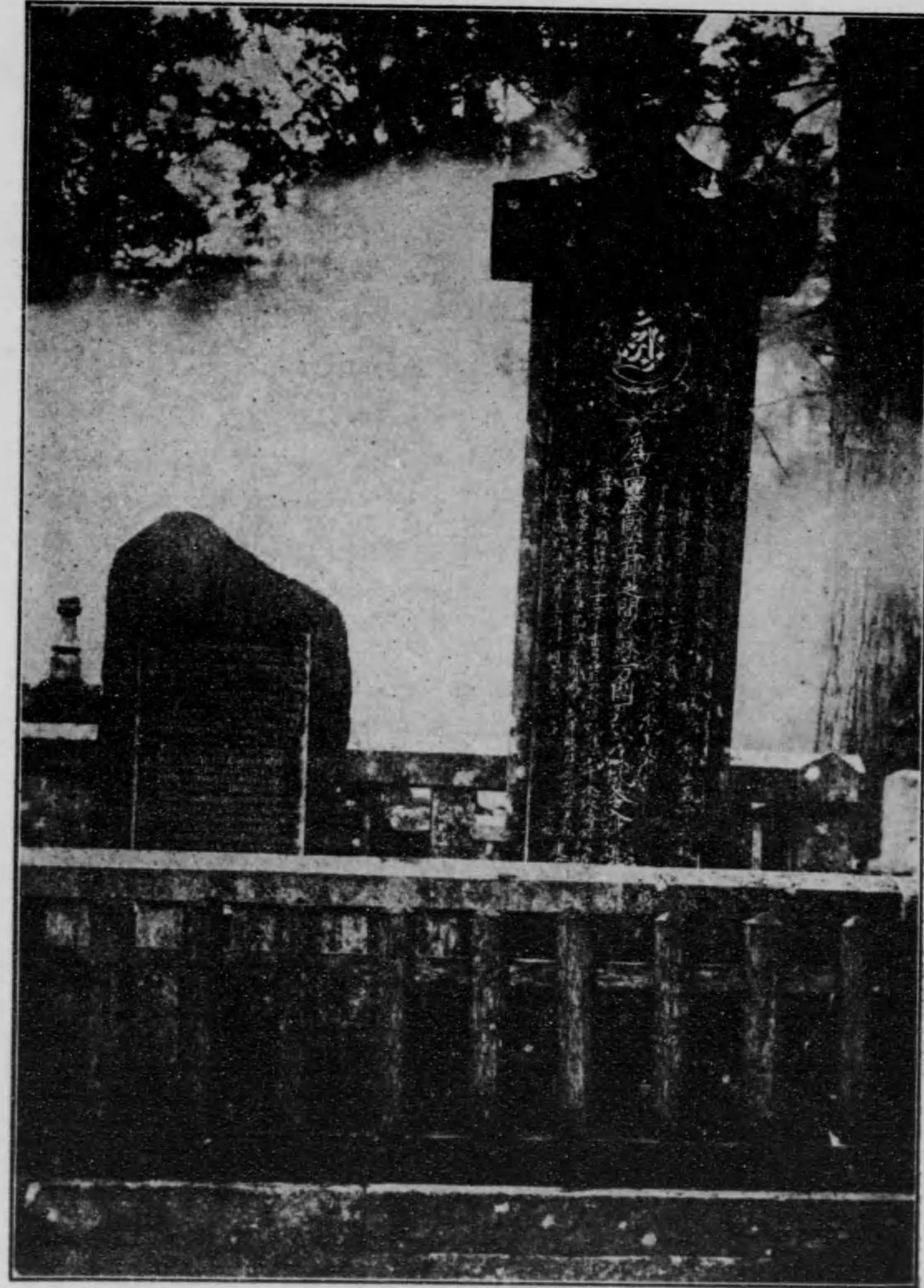
一保存ノ要件 附近ノ空地ハ以前竹藪ナリシガ近年開墾シテ桑畑トナリ、ヤウヤク十四坪バカリ  
ノ地積ハ取殘サレ居レリ、石碑モ十數年前マデハ完全ナリシニ、何時トナク荒廢ニ歸シテ現状  
ヲ呈スルニ至リシハ遺憾ナリトス、圍柵ヲ作リテ保存ヲ要ス

七 高麗陣敵味方戦死者供養碑

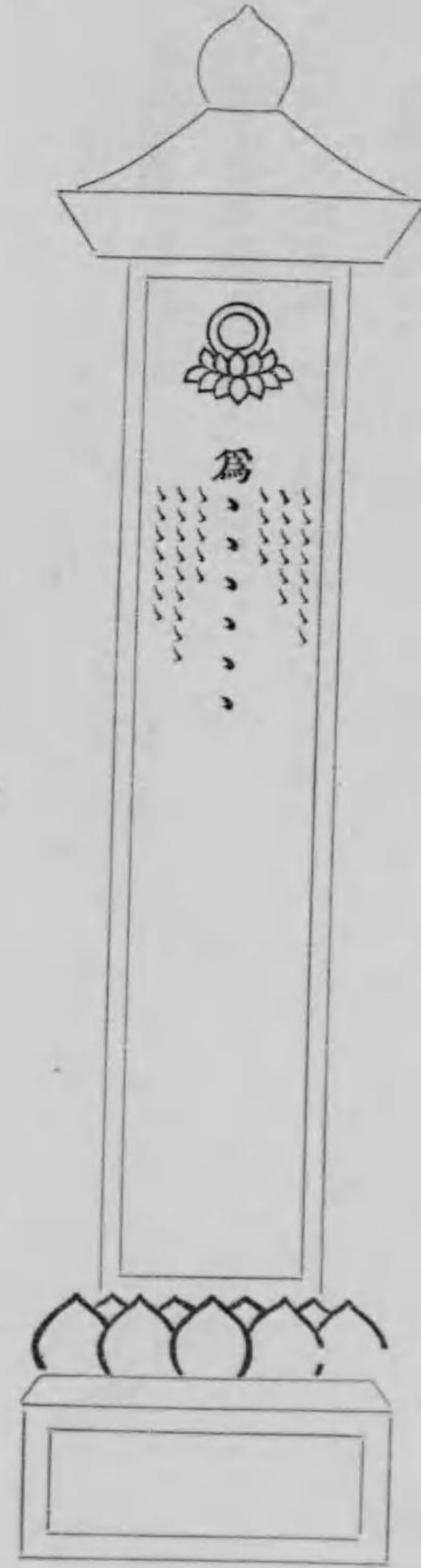
委員 井村米太郎報告

一所在地 伊都郡高野村大字高野山字奥ノ院五百五十三番地ノ内





高麗陣敵味方戦死供養碑



主石 高七尺四寸五分 幅二尺七寸 厚五寸五分乃至一尺二寸  
 蓮臺 高一尺二寸五分 幅三尺五寸五分 奥行二尺七寸  
 臺石 高一尺三寸 幅三尺八寸 奥行三尺一寸

目 墓地(官有地第三種金剛峰寺總境内中)  
 積 二坪三合八勺餘  
 所有者 公爵島津家(舊鹿兒島藩主)  
 管理者 金剛峰寺及蓮金院(正智院ニ攝ス)  
 一物質、形狀等 石造ノ位牌形ニテ笠石、主石、蓮臺及ビ臺石ヨリ成リ總高一丈二尺三寸、更ニ各個  
 ニツキ之ヲ言ヘバ



上ノ圓内ニ梵字ヲ陽刻シ、ソノ下ニ左ノ文ヲ刻セリ

慶長二年八月十五日於全羅道南原表大明國軍數千騎被討捕

討取之内至當手前二十人伐果畢

同十月朔日於慶尙道泗川表大明人八万餘兵擊込畢

爲高麗國在陣之間敵味方閔死軍兵皆令入佛道也

右於度々戰場味方士卒當弓箭刀杖被討者三千餘人海陸之間

横死病死之輩具難記矣

慶長第四<sup>巳</sup>歲六月上<sup>巳</sup>滑 薩州島津兵庫頭藤原朝臣義弘建之

一現 狀 舊鹿兒島藩主島津家ノ兆城ノ一隅ニアリ、表面閔字ノ處損傷アリ其ノ他ハ完全

一由來傳説 慶長征韓ノ役彼地ニ於テ明軍兵ヲ討取リタル者、及ビ味方戰死横死病死者ノ靈魂

ヲ弔ヒ、佛果ヲ得シムル爲メ薩州島津義弘父子ガ建立セシ所ナリ

一徵証物件 豐公征韓ノコトハ史傳ニ詳ナリ

一保存ノ要件 此ノ建碑ハ一面國威ヲ輝カスト俱ニ一視同仁ノ博愛主義ヲ中外ニ示ス一大光輝アル善事ナレバ永ク保存ノ必要アリ、先年中央史蹟名勝天然紀念物調査會ヨリ考查員出張シテ調



三八  
查ラ遂ゲタルニツキ差控ヘ居リシガ未ダ何ノ沙汰ニ接セズ、世間好事者動モスレバ漫リニ搦取  
シ去ルモノアリ爲メニ石面損傷ノ憂アリ速ニ史蹟ニ指定セラレテ嚴重ニ保存セラレンコトヲ切  
望シテ已マズ

### 八 大津籠城戦死者追弔碑

委員 井村米太郎報告

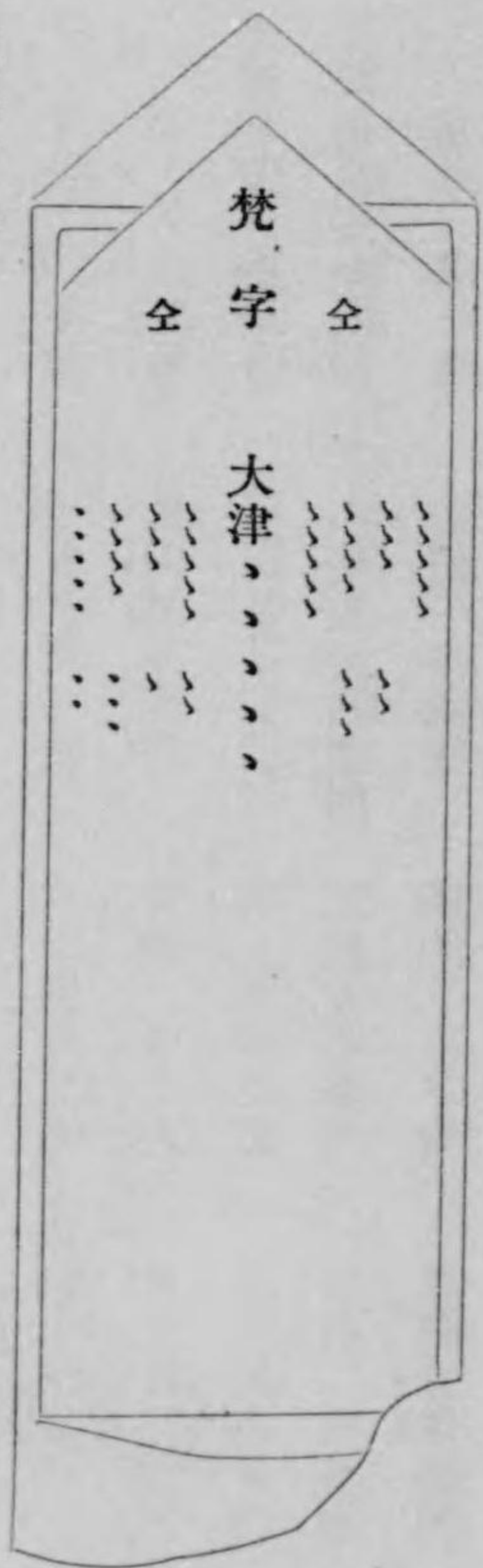
- 一所在地 伊都郡高野村大字高野山字奥ノ院五百四十八番地ノ内
- 一目的地 墓地(官有地第三種金剛峰寺總境内中)
- 一積 二坪五合
- 一所有者 子爵京極家(舊丸龜藩主)
- 一管理者 金剛峰寺及持明院
- 一物質、形状等 原碑ハ一枚石ニシテ劔先札形ヲナシ、高四尺六寸、幅上部ニ於テ一尺八寸八分下  
部ハ一尺八寸、厚三寸八分、臺石ヲ失ヒ且ツ缺損シテ倒壊セシヲ仮ニ立テ置ケリ



大津籠城戦死者追弔碑



碑面全文左ノ如シ



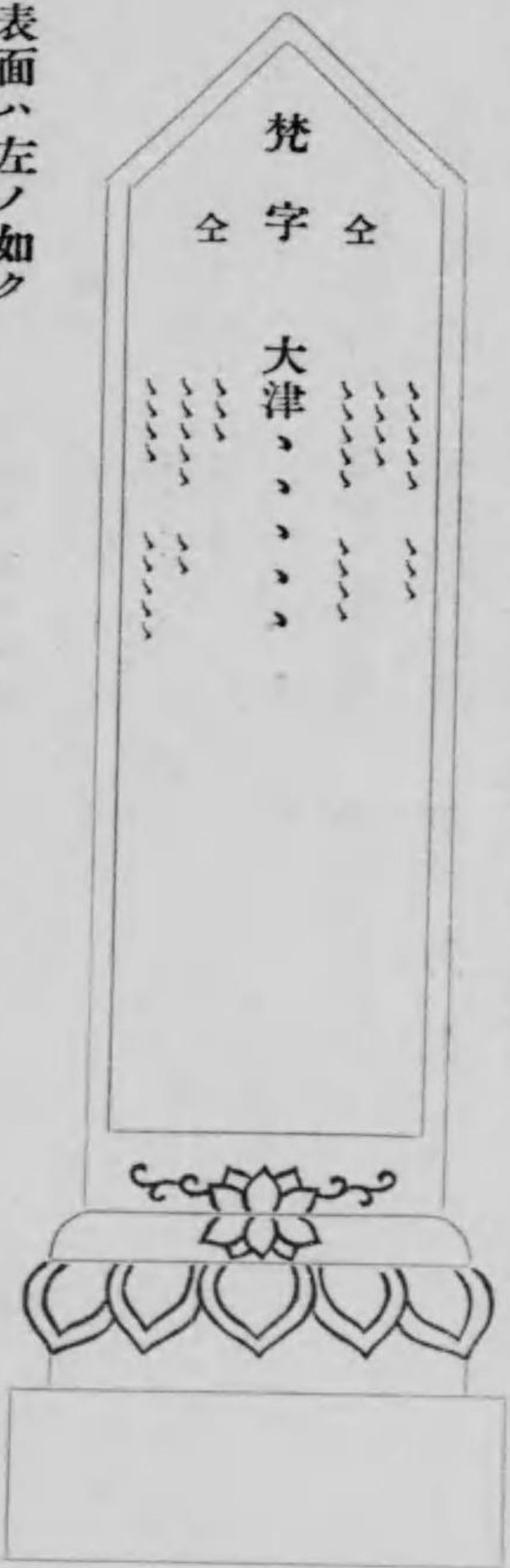
山田三左衛門	磯野八左衛門	林五郎兵衛
尾本善久	尾關甚右衛門	伊藤角久
草山源兵衛	石川久左衛門	河上小左衛門
石黒又兵衛	横山久内	草山八兵衛
大津城中討死之侍衆高次馬廻也		
篠宗兵衛	三浦五右衛門	藤岡又左衛門
萩原佐兵衛	馬淵隠商	中池角兵衛
小川左近右衛門	新保喜右衛門	石川久左衛門



山田 平兵衛 慶長五年庚子九月十三日

再興碑 主石ハ劔先札石ニシテ蓮臺及臺石アリ、總高七尺二寸五分、更ニ各個ニツイテ之ヲイ  
ハバ

主石 高五尺一寸五分 幅二尺四分 厚一尺三分  
蓮臺 高九寸 幅三尺一寸二分 奥行二尺九分  
臺石 高一尺二寸 幅三尺五寸 奥行二尺八寸五分



碑ノ表面ハ左ノ如ク

山田三左衛門 小川左近右衛門 三浦五右衛門 草山 八兵衛  
尾本 善久 山田 平兵衛 馬淵 隠商 藤岡五右衛門

草山 源兵衛 磯野八左衛門 新保喜左衛門 中池 角兵衛

大津宰相高次籠城之節討死忠士等

石黒 又兵衛 尾關甚右衛門 林 五郎兵衛 石川久右衛門  
篠 宗兵衛 香川又右衛門 伊藤 角久 河上小右衛門  
萩原 右兵衛 横山 久内 慶長九庚子九月十三日

以上列名ハ原碑ト順ヲ異ニシ尙ホ◎印ノ處原碑ト文字相違セリ裏面ニハ

源姓京極氏備中守高豊公再興造立

御宿坊 小坂坊祐遍

天和二年壬戌年霜月十三日

トアリ

一現 狀 原碑ハ臺石ヲ亡シテ倒壊セシヲ仮ニ起シ置キタリ、再興碑ハ完全ナリ

一由來及傳説 慶長五年九月關ヶ原ノ役ニ京極高次ハ四面敵國ノ間ニ在テ獨リ關東方ニ與ミシ大

津ノ居城ニ兵ヲ擧ゲテ西軍ノ大敵ニ抗スノ時戰死セシ近臣二十二人ヲ追弔スルタメニ建ツル  
所ノ碑ナリ



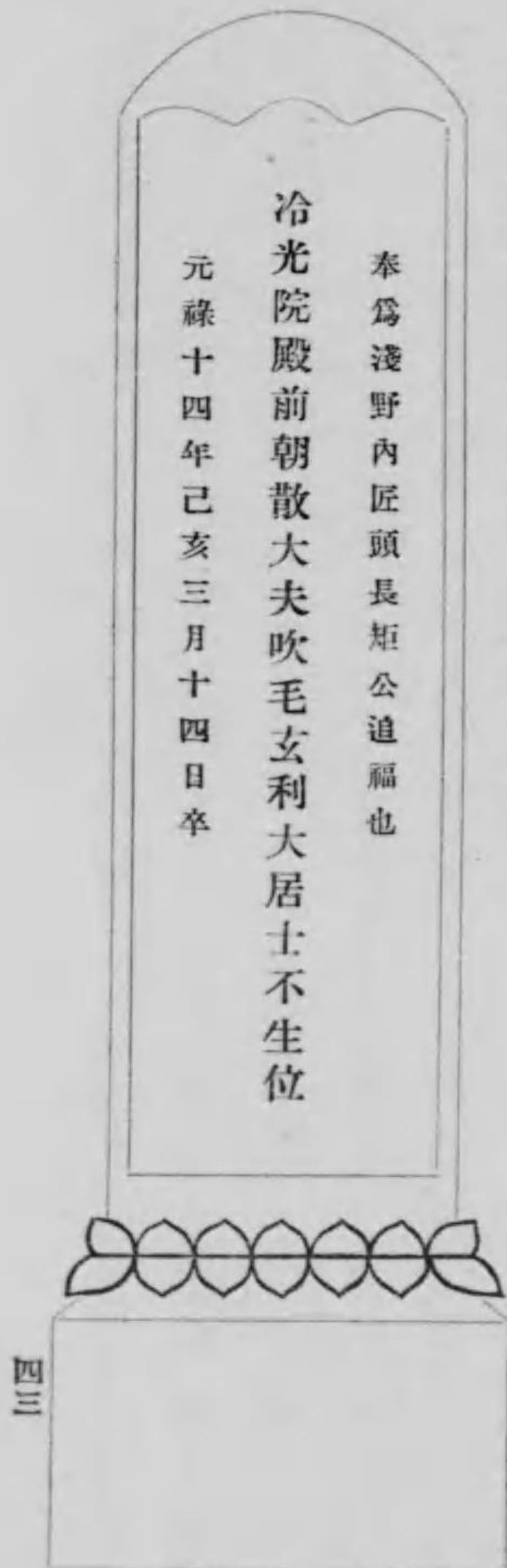
一 徵証物件 京極高次大津合戦ノ事ハ野史等ニ詳ナリ  
 一 保存ノ要件 史書ニハ戦死者一々ノ氏名ヲ見ズ、此ノ碑ニ於テ之ヲ見ル史ヲ補フノ益アリ 高次常ニ能ク下ヲ撫ス、故ニ士卒皆死力ヲ出シ社稷ノ難ニ斃ル而シテ其ノ忠死者ノ追福ヲ修ス君臣ノ義アルハ此ノ如シ永ク保存シテ人心ヲ善導スベキナリ此ノマ、放任セバ或ハ埋没スルニ至ランコトヲ恐ル、早ク修理ヲ加ヘテ保存ノ道ヲ講ズルヲ要ス是レ史蹟ニ指定セラレンコトヲ望ム所以ナリ

(附言) 原碑ハ蓋シ高次高野山ニ隠棲中ノ建立ナルベシ  
 再興碑ハ天和二年十一月十三日トアレバ戦死ヲ去ルコト八十三年ノ後ニ在リ但シ原碑ト再興碑ト両立スルコト其ノ例ヲ見ズ或ハ原碑ガ埋没セシニ因テ再興シタル後ニ原碑ガ發見セラレシモノカ兩碑ヲ對照スルニ原碑ノ文字ハ殆ンド讀ミ難シ再興碑ノ文字ニ因テ纔ニ讀ミ得ルニ過ギズ而シテ列名ノ順序ニ相違アルト四五字魯魚ノ誤リト見ルベキアリ

### 九 淺野長矩供養碑

委員 井村米太郎報告

- 一 所在地 伊都郡高野村大字高野山字奥ノ院五百四十八番地ノ内
- 一 地目 墓地(官有地第三種金剛峯寺總境内中)
- 一 地積 八坪五合
- 一 所有者 ナシ
- 一 管理者 金剛峯寺及悉地院(無量光院ニ攝ス)
- 一 物質、形狀等 石造位牌形ニシテ札石、蓮臺及臺石ヨリ成ル總高六尺、各個ニツイテ之ヲ言ヘバ
  - 札石 高四尺五寸 幅一尺四寸 奥行九寸
  - 蓮臺 高六寸 幅一尺九寸 奥行一尺六寸
  - 臺石 高九寸 幅二尺四寸 奥行一尺八寸



奉爲淺野内匠頭長矩公追福也  
 冷光院殿前朝散大夫吹毛玄利大居士不生位  
 元祿十四年己亥三月十四日卒



一現 狀

モト此ノ碑一基孤立セシヲ近頃高野山中學同志會ハ廣ク寄附金ヲ募リ此ノ金ヲ以テ土臺ヲ築キ上ゲ其ノ上ニ碑ヲ安置シ繞ラスニ石ノ瑞垣ヲ以テシ其ノ域内ニ新タニ大石良雄外四十六士追福ノ石塔一基ヲ造立シ且ツ良雄ノ大叔父タル大石頼母良重ノ碑ガ覺鑿阪ノ邊ニ在リテ破損シタリシヲ此處ニ移シテ修理ヲ加ヘ主從三基並ビ建テ大ニ莊嚴ヲ添フルニ至リタリ

四四

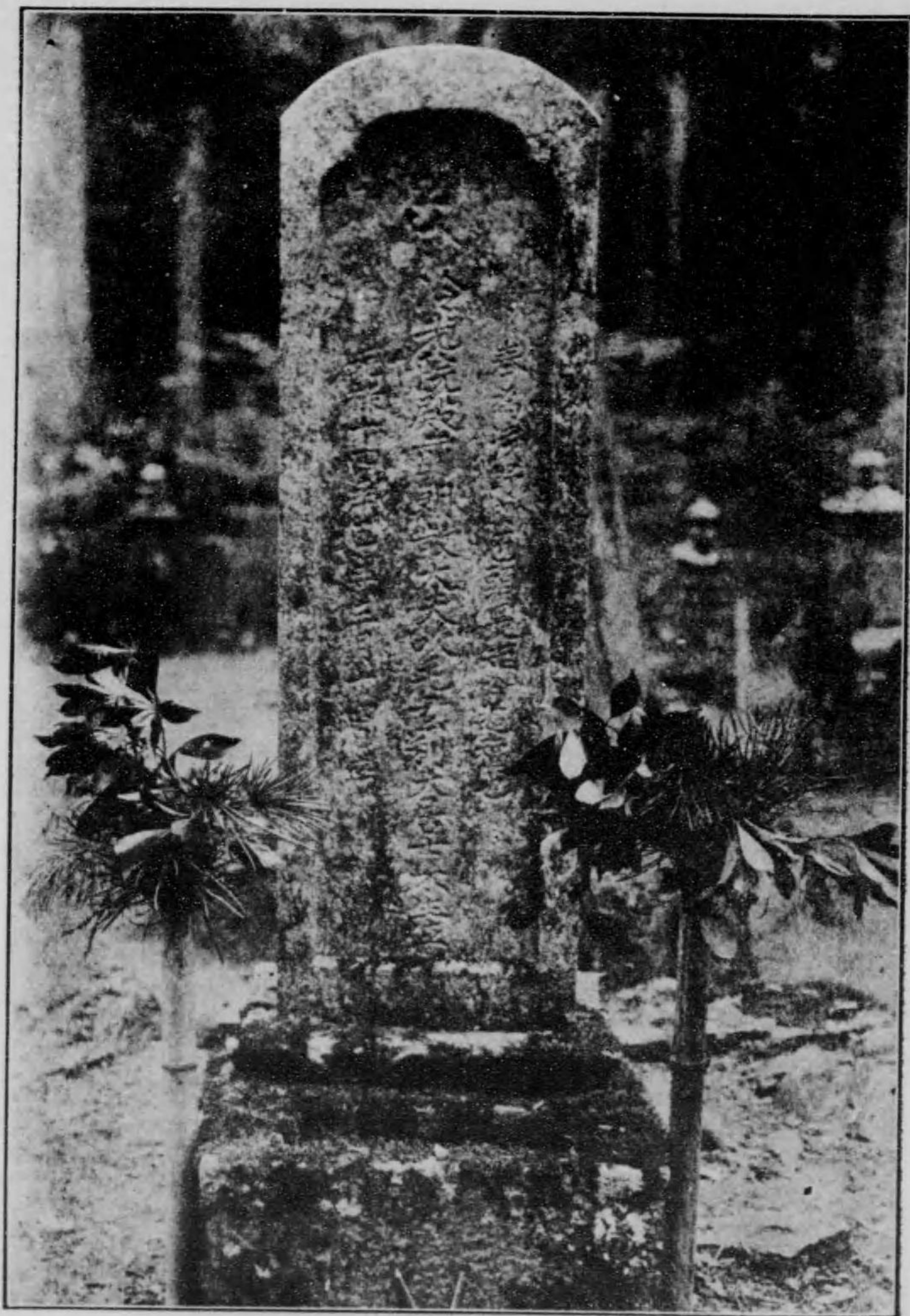
一由來傳説

赤穂義士復讐ノコトハ人口ニ膾炙セルヲ以テ此ニ贅セズ元祿十四年三月十四日淺野長矩自裁セシ其ノ年ノ六月八日大石良雄施主トナリテ建立シタル追福ノ碑ハ即チ此レナリ、當時長矩ノ弟大學長廣ニ家名再興ヲ命セラルベク歎願中ニ屬セリ、ソノ願ニシテ聽許スル所トナラズンバ亡君ノ冤魂永ク不歸ノ鬼トナルベキヲ憂ヘ永代供養ヲ淺野家ノ宿坊タル悉地院ヘ託スベクソノ年五月五日赤穂遠林寺住職祐海ヲ高野山ニ遣ハシ此ノ碑ヲ建立シテ法會ヲ營マシメタリ其ノ時義士中ノ早水藤左衛門、近松勘六ノ兩名ハ同行シテ其ノ事ヲ幹シ法會ニ參列セリ、當時建碑ノ証文ハ早水近松兩人ノ手ニ預リアリシガソノ後復讐ノ前後ニ大石ヘ渡シ遂ニ大石ヨリ淺野後室附用人ヘ差出シタリ

一徵証物件

徵証トシテ古文書ヲ左ニ摘抄ス

一、赤穂御祈願所遠林寺と申寺之住僧祐海と申候出家志の者に候間内藏助差圖にて高野山は淺



淺野長矩供養碑



野家菩提寺悉地院へ又江戸へ差遣し江戸御祈願所鏡照院へ傳を以て護持院大僧正へ大學閉門首尾能御免遊ばされ御奉公も勤り申候にと御世話ながら御取持をも願奉り候旨申候得ば護持院様挨拶も能候に付罷り歸り内藏助を初め皆々へ申聞け候云々(元祿十四年六月赤穂用人記文)

一、近松勘六、早水藤左衛門儀高野山に參詣仕り冷光院様碑を建て申候此節迄て右証文兩人共に所持仕候得共私手前へ差出候御名義御座候故兩人志の段も申上度此度進上仕り候云々

十二月十九日(討入後)

大石内藏助良雄 判

(後室附用)落合與左衛門様人々御中

一保存ノ要件 赤穂義士ハ正氣凛々トシテ天下ノ義氣ヲ鼓舞シ後人ヲ感奮興起セシメ思想善導ノ好龜鑑トス其ノ義士ガ赤誠ヲ籠メテ亡主ノ爲メニ建ヲタル此ノ碑儼然トシテ存シ年々數十萬ノ參詣人ニ感化ヲ與フルコト實ニ多大ナルベシ誠ニ史蹟トシテ保存スベキモノト確信ス

## 一〇 箕 島 古 墳

委員 木下福七報告

一所在地 有田郡箕島町大字箕島字一本松



一 所有者 有田郡箕島町 大浦榮藏

四六

一 發掘ノ動機

大正十四年一月十七日蜜柑畑ノ草ヲ刈リテ樹根ニ培ハントセシニ上部ノ蓋石鍬先

ニ懸リ一小土塊穴中ニ落込ミシヨリ偶然發見セルナリ曩ニ明治十三年頃大浦氏ノ手ニ歸セシ際  
檀畑ナリシヲ開墾セシニ何等手係リナカリシト云フ

一 現

狀

箕島驛ノ西北ヲ距ル二町許、東西ニ連亘セル一帶丘陵ノ中腹ヨリ稍低ク段階ヲナ

セル一小平地ニアリ、美道ノ入口ハ未ダ發掘セザルモ一段低ク南面シテ光線ヲ最モヨク受クル  
暖地ニテ眺望亦頗ル佳ナリ

蜜柑畑ナレバ蜜柑樹密生シ僅ニ古墳ノ地ヲ剩スノミ入口ヲ發掘センニハ一二本ヲ伐ラザルベカ  
ラズ擴穴及美道ノ内部ハ自然ノ平板ナル石ヲ以テ綺麗ニ疊ミ上ゲ大石ヲ用井ズ美道擴穴ノ境ニ  
恰モ門扉ノ如ク大石二枚ヲ以テ塞グリト云フ、上部ハ一部石ヲ除キ去レドモ平板ナル青石及他  
ノ片岩ヲ以テ蔽ハル

當時發掘セラレタルモノハ

一、土器

提瓶二個、坏、高杯、卍等多ク完全ニ存シ最モ立派ナルハ高サ一尺餘アル裝飾付

齋瓶(容液器又ハ花  
生ノ如キモノ)及稍低キ燈臺様ノ如キモノニテ大破損ナク殆ンド完全ニシテ太古ノ祝

甕土器タルハ勿論ナリ

二、人骨 頗ル腐朽壞敗シテ人間ノ俤ヲ留メズ股肱頭骨ノ細片ノミニテ手ヲ觸ルレバ粉末ト

ナリテ剝落ス其ノ容積ヨリ察スルニ一人以上トハ認メ難シ

三、刀劍 最大ナルハ東南隅ニ立テ掛ケアリタレバ兩斷セルモ幅一寸三分長三尺五寸許ノ

直刀ニシテ反ナク棟ヲ認メズ支那製ト思ハレ本邦ニテハ見ラレザル大刀ナリ鑄諸共ニ赤

錆ビテ固着セリ其ノ他普通程ノ大刀三振 鋒尖(鋒ト見ルモ可)一個何レモ錆ビテ頗ル

脆シ

ニシテ他ニ鏡類及勾玉ト覺シキ何等裝飾ニ用ヒタル品ナク無棺ニシテ埴輪ノ形跡モナキヨリ考  
フルニ上古(凡ソ二千年前後  
垂仁朝以前?)ノ豪族ナランモ頗ル高貴ナル方トハ思ハレズ現ニ發見セルハ一ヶ所ナ  
レドモ附近ヨリハ尙ホ必ず同型ノ古墳ヲ發見スルナラン、又墳ノ底即チ床上ヲ徐ロニ搜索セバ  
或ハ玉類ヲ發見スルヤモ知レズ、以上ノ發掘物ハ凡テ箕島町巡查部長駐在所ニ保管セリ

一一 芳養王子社址

委員 宇井縫藏報告

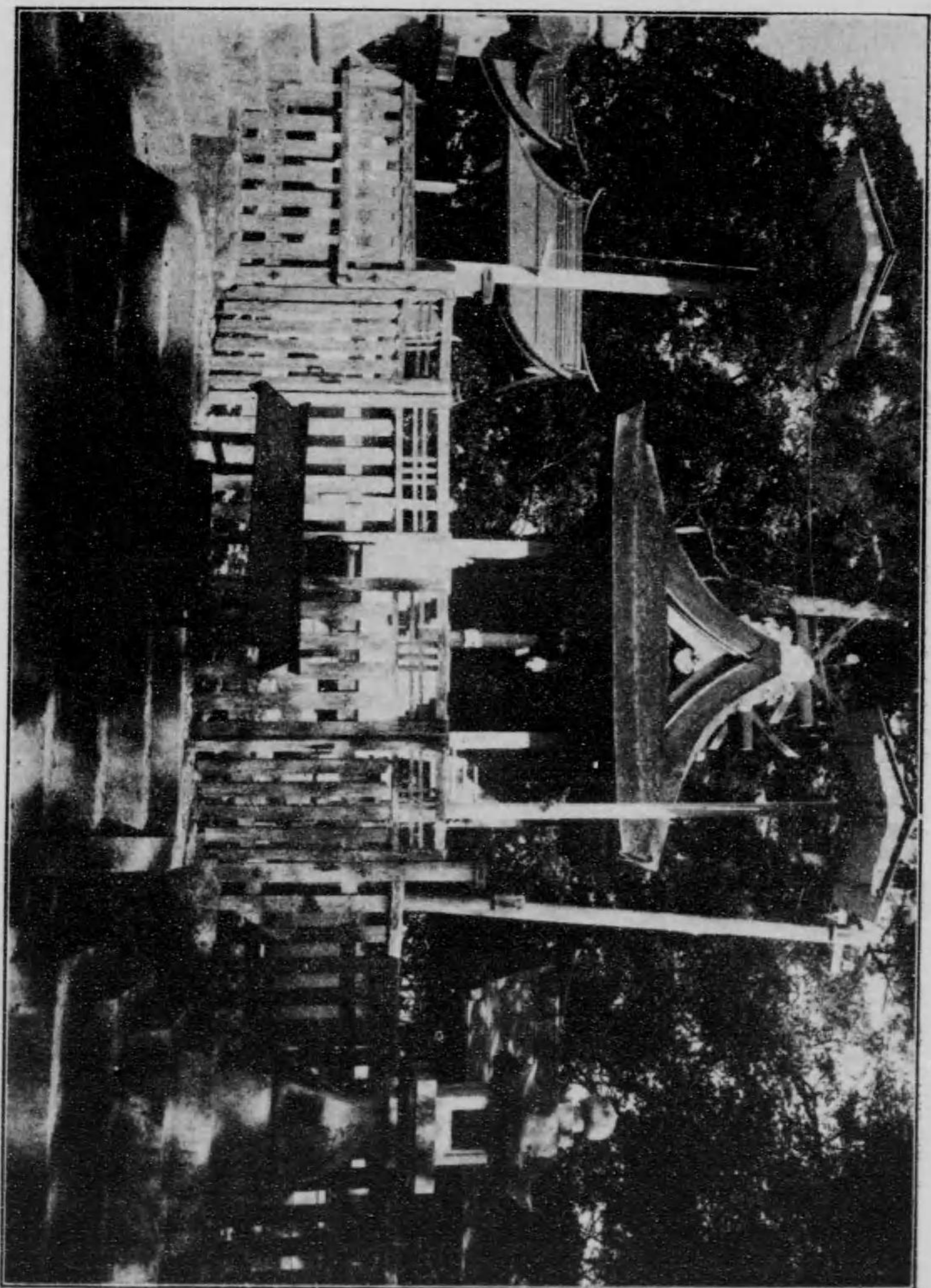
四七



- 一所在地 西牟婁郡下芳養村字西松原一〇三〇番地
- 一地目 山林(官有地第一種)
- 一地積 一段五畝十三步
- 一所有者 官有地
- 一由來傳説現狀等

熊野王子ノ一ニシテ御幸記ニ芳養王子トアルモノ之ナリ、古來若一王子社ト稱シ正勝吾勝々速日天忍穗耳尊ヲ奉祀ス、明治維新後更メテ天照皇大神ヲ鎮メ祭り奉リ社名ヲ大神社ト改ム、明治十年許可ヲ得テ村内各字ニ鎮座セル小社數多ヲ合併シ本殿ノ東西ニ分祀シテ攝社トセリ傳ヘイフ古氏ノ長者ナルモノアリ或夜衣冠束帶セル一人ノ神人來リ告ゲテ曰ク、汝明早天海邊ニ行キテ見ヨ一ツノ神器ヲ得ン速ニ迎ヘ祭り奉ルベシト夢ム、即テ翌早朝海邊ニ到リ見ルニ一個ノ笏河口ノ岩上ニ流レ寄レリ長者直ニ迎ヘ奉リ御神体トシテ祭り奉ル笏ノ流レ寄リタル故事ニ因ミ一ニ「寄言ノ宮」ト稱セリ

一保存ノ要件 現在下芳養村産土神トシテ保存セラレ居ルモ他ノ熊野王子社ト共ニ史蹟トシテ指定スルヲ至當ナリト考フ



社 子 王 養 芳



## 一 二 出立王子社址

委員 宇井縫藏報告

- 一 所在地 西牟婁郡田邊町大字元町字出立三二七番地
- 一 地目 山林
- 一 地積 四畝十二步
- 一 所有者 西牟婁郡田邊町
- 一 由來傳説現狀等

モト若一王子社トモイヘリ紀伊續風土記ニ「若王子社、村中ノ氏神ナリ御幸記ニ出立ノ王子トアルハ即チ當社ナリ、古ハ拜殿回廊等アリシニ天正ノ兵亂ニ悉ク破損セシヲ復興ストイフ」トアリ、傳ヘイフ崇峻天皇元年ノ御勸請ナリト月夜見命ヲ奉祀シ出立王子社ト號シ明治六年五月村社ニ列セシガ同四十年二月二日八立稻神社ニ合祀セラレテ廢社トナリ今ハ「出立神社之跡」ノ一基ノ石碑ヲ殘スニ過ギズ

一 保存ノ要件 カ、ル由緒アル所ナレハ史蹟トシテ指定スベキモノト認ム



### 一三 八上王子社址

委員 宇井縫藏報告

一所在地 西牟婁郡岩田村大字岡字中島一三八二番地

一地 目 山林

一地 積 二段二畝二歩

一所有者 官有地(神社地)

一由來現狀等 紀伊續風土記ニ「八上王子社、三栖莊下三栖村ヨリ越ユル路傍ニアリ、一村ノ産

土神ナリ御幸記ニヤかみ王子トアルハ是ナリ八上ハ谷上ノ義ナルベシ僧西行當社ノ櫻ヲ見テ詠

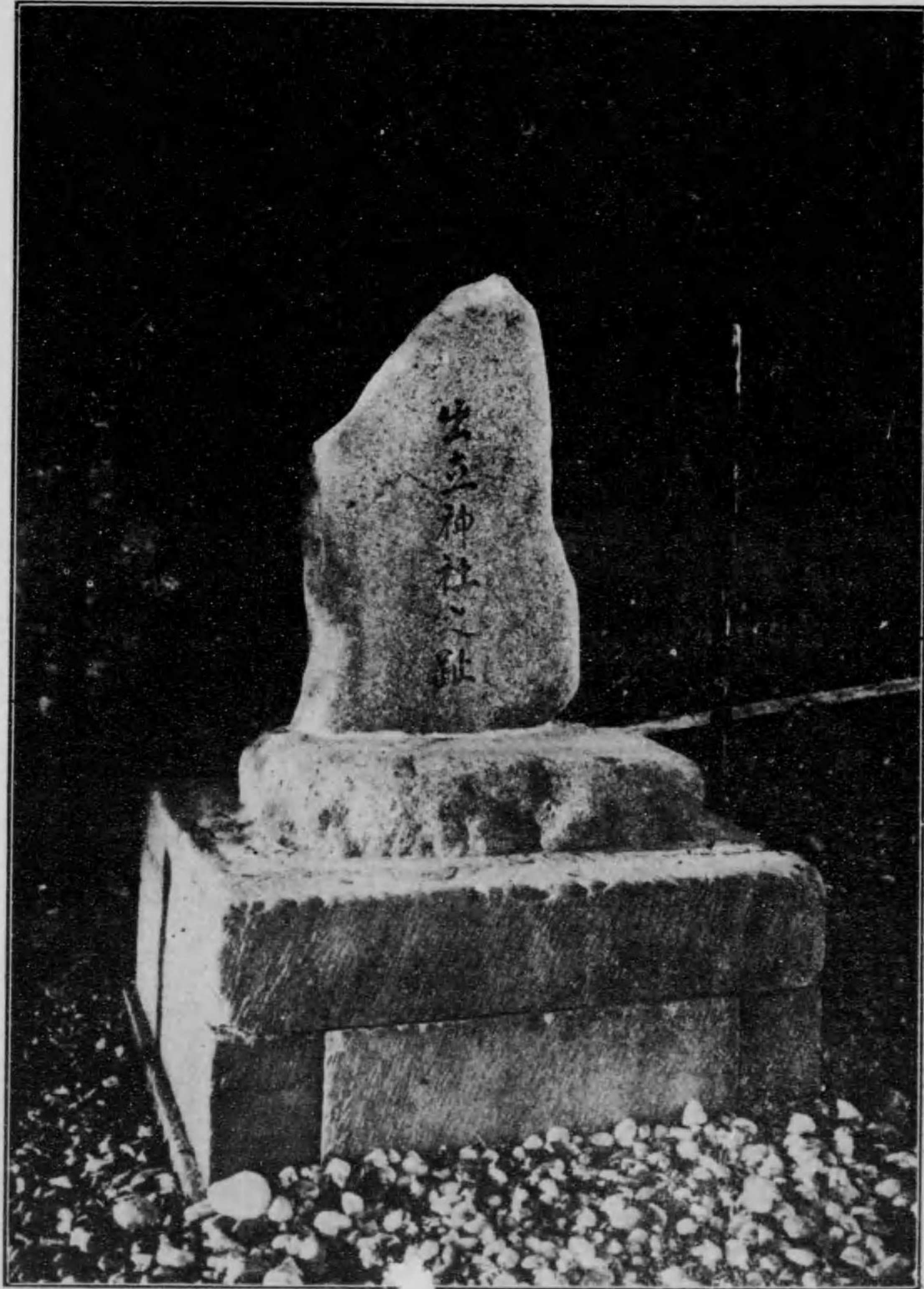
メル歌、山家集ニ載ス境内ニ松ノ大樹アリ」トアリ

山家集ニ

熊野へまゐりけるに八上の王子の花面白かりければ

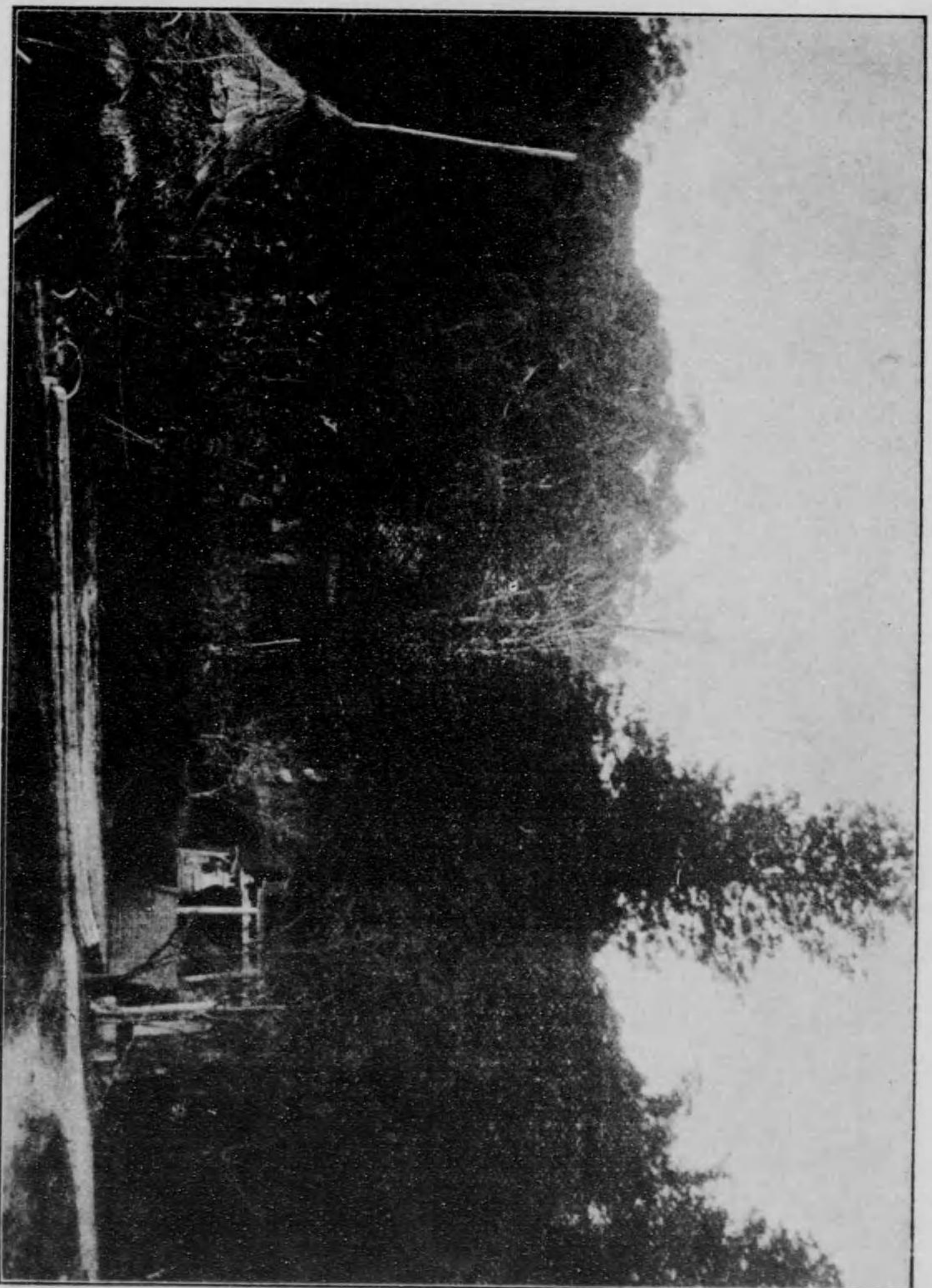
待きつる八上の櫻咲きにけり

あらくおろすな三栖の山風



出立王子社址





八上神社





現在モ元ノ位置ニアリ村社八上神社トイヒ天照皇大神ヲ奉祀セリ

一 保存ノ要件 前述ノ如ク村社トシテ嚴存スルモ將來合祀廢社等ナキヲ保セズ史蹟トシテ指定ノ必要アルモノト考フ

備考 當神社境内ニハ珍植物やつしろらん、むゑふらん、ほんごうさう、しろしやくじやう、みさきのき等ノ自生アリ、天然記念物ノ自生地トシテモ保存ノ價値アルモノト認ム

#### 一四 稻葉根王子社址

委員 宇井縫藏報告

一 所在地 西牟婁郡岩田村大字岩田字王子谷三一〇八番地

一 地目 山林

一 地積 一段一畝一步

一 所有者 西牟婁郡岩田村

一 由來傳説現狀等

紀伊續風土記ニ「稻葉根王子社、村ノ長二十餘町王子谷トイフ所ノ川端ニアリ此地熊野古道ナ



リ一村ノ産土神ニシテ慶長十一年ノ棟札アリ御幸記ニ稻葉根王子トアルハ之ナリ二十二社註式ノ條ニ云、或記ニ曰嵯峨天皇弘仁十二年夏智證大師參熊野以顯密法還向之時過紀伊國石田川下稻羽里之間一人老翁多刈稻荷之二人女亦載稻不知行方失詔其夜大師夢一人ノ老翁者上宮二人女下中社ナリ云々トアリ稻羽里ハ御幸記ニ稻葉根トカケルニ同ジク當所ナルベシ今當社ノ末社ニ稻荷社アルハ此古事ニヨリ祭レルナラントアリ

御幸記ニ「次稻葉根王子。次入晝養宿所。馬自此所停被置。師自是步指渡石田河」云々トアリ、石田河ハソノ側ヲ流ル、岩田川ニシテ富田川ノコトナリ

扶木抄ニ

後鳥羽院御製

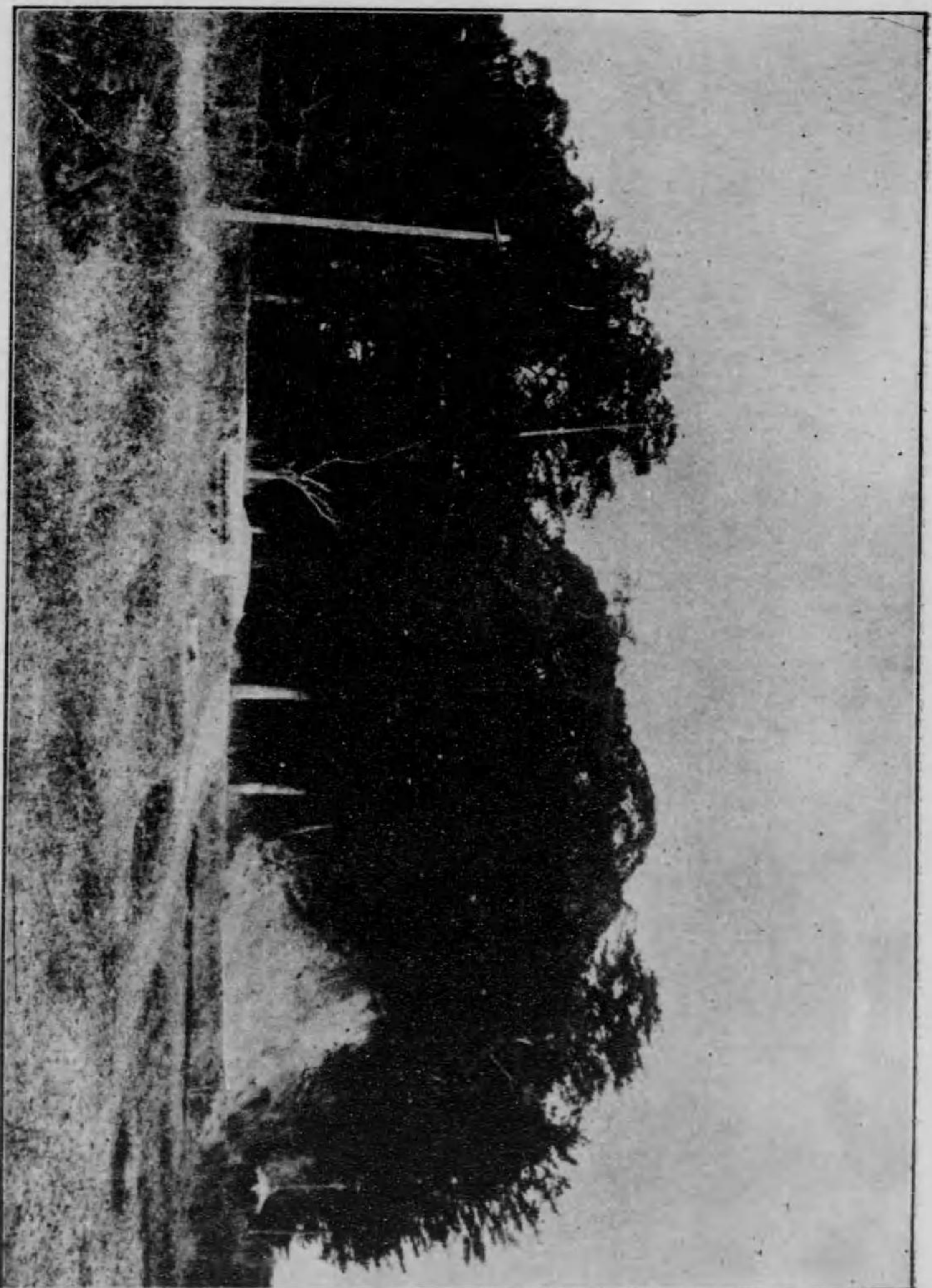
いはだ川谷の雲間にむら消れて

とどむる駒の聲もほのかに

後拾遺集に

華山院御製

熊野にまゐらせ給ひける時岩田川にてよませ給ひける



稲葉根王子社



いはだ川わたる心の深ければ

神もあはれとおもはざらめや

モト岩田神社トイヒ天照皇大神ヲ奉祀セシガ大正四年十一月岩田村大字岩田字上殿ナル無格社  
松本神社（現村社岩田神社）ニ合祀シテ廢社トナリ現今ハ見ル影モナク荒廢シ只境内ノ樹木ノ  
ミ殘リテ僅ニ往昔ノ面影ヲ存セリ

一保存ノ要件 前述ノ如ク由緒多キ遺蹟モ今ヤ湮滅ニ歸セントスルハ悲シムベキコトナリ速ニ史  
蹟トシテ指定シ柵ヲ廻ラシ標石ヲ設ケ保存ノ途ヲ講ゼラレタキモノナリ

### 一五 神 倉 山

委員 田原慶吉報告

- 一所在地 東牟婁郡新宮町字權現山
- 一 地 目 官有社地
- 一 地 積 壹萬壹千四百貳拾坪
- 一所有者 官幣大社熊野速玉神社



一 管理者 官幣大社熊野速玉神社宮司

一 現 狀

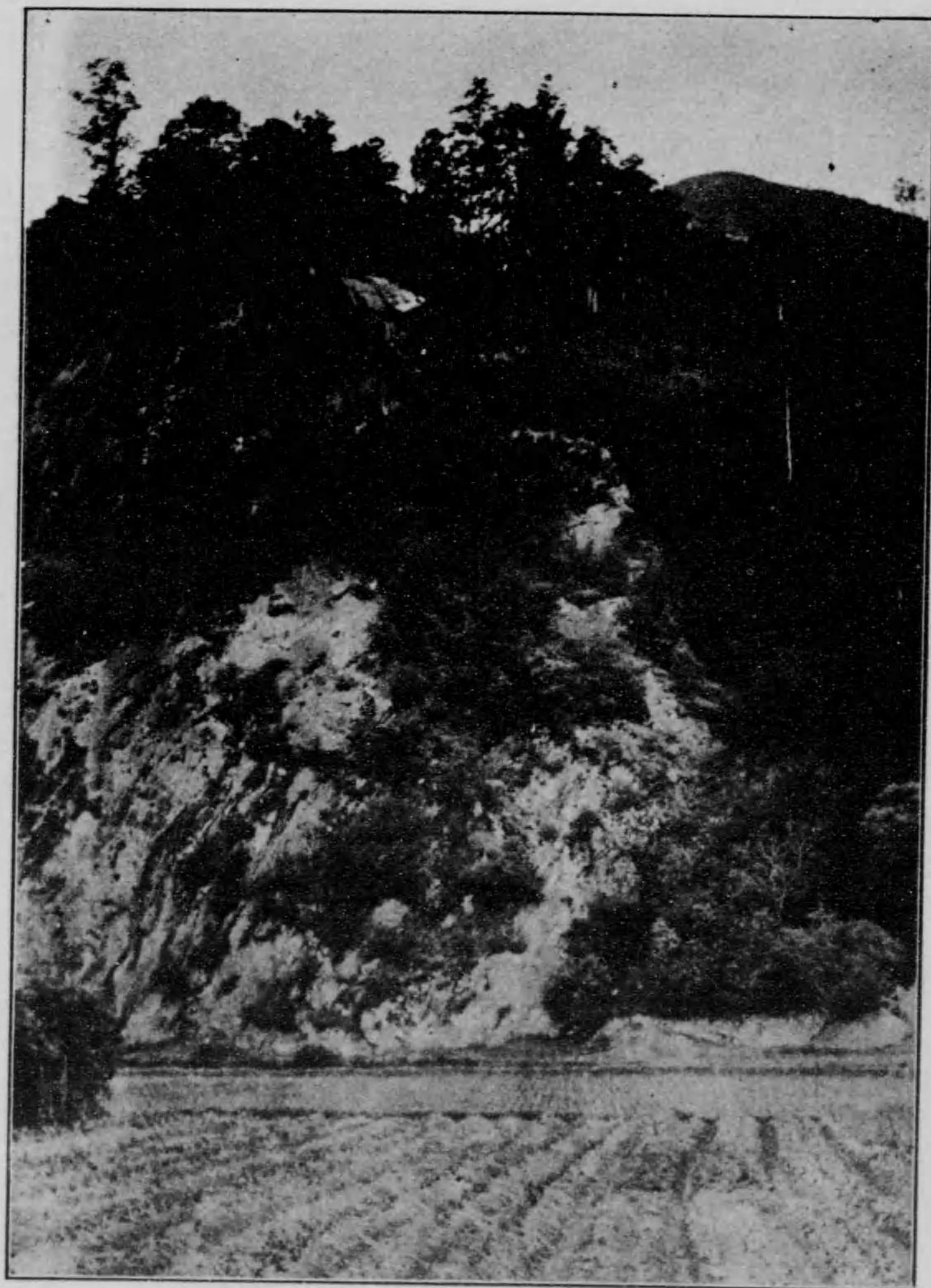
崖頭ニ神倉神社アリテ明治三年マデハ棧造ノ社殿アリシモ其ノ後頽廢ニ歸シ唯斷礎ヲ存スルノミナリシガ明治四十年七月熊野速玉神社ニ合祀セラレタリ 然ルニ大正六年四月四日復舊ノ許可ヲ受ケテ新ニ熊野大社造ノ社殿(面積貳合壹勺)ヲ建設シ翌年二月五日正遷宮ノ式ヲ行ヒ同時ニ玉垣ヲ築造シタリ

一 由來傳説

日本書紀神武天皇記ニ「越ニ狹野ニ到ニ熊野神邑、且登ニ天盤盾」トアリ神邑ハ即チ今ノ新宮町ニシテ天盤盾トハ即チ神倉山ナリ實ニ皇祖登臨天神ヲ祀ラセ給ヒシ神蹟ニシテ高倉下命ノ神劔ヲ授カリシモ亦此ノ地ナリ磴道五百三十八級ハ建久四年源賴朝ノ寄進築造セルモノナリト云フ

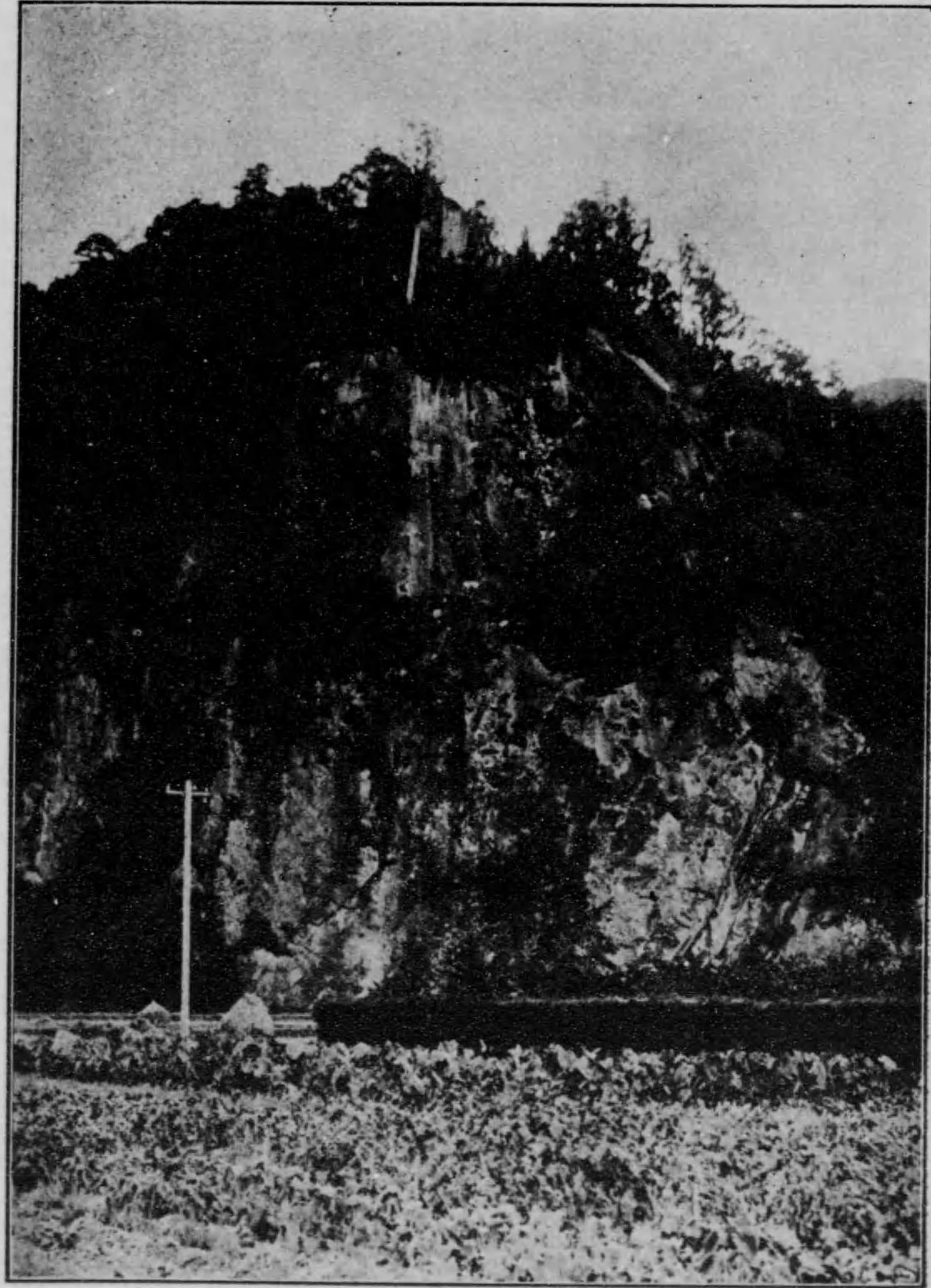
此ノ神社ノ火祭ハ毎年舊正月六日(今ハ二月六日)ニ行ハレ俗ニ御燈祭ト唱ヘ數百千ノ男子松明ニ火ヲ点シテ山上ヨリ競ヒ下ル壯快ノ祭儀ナリ熊野年代記ニ「敏達天皇甲午正月二日神倉ニ於テ光明ヲ放ツ翌年正月六日夜火祭始ル」トアルハ其ノ起源ナルベシ

備考 神倉山ニ就テハ本縣史蹟名勝天然記念物調査會報告第二輯史蹟第三十九ニ田原委員ノ報告ヲ載セタルモ今回寫眞ヲ得タルヲ以テ其ノ説明ニ供センタメ重ネテ之ヲ登載ス但シ東牟婁



神 倉 山





山 倉 神



郡役所ヨリノ報告ニ基キ一部變更シタル所アリ

一六 中世熊野三山行幸啓御泊所跡

委員 小野芳彦報告

(一) 本宮御泊所跡

- 一所在地 東牟婁郡本宮村大字本宮
- 一目的地 宅地 舊社家竹ノ坊 邸宅
- 一所有者 東牟婁郡本宮村
- 一現狀 今ハ本宮尋常高等小學校トナリ御成御殿等疾クニ取り拂ハレテ其ノ俤ヲ留メズ

(二) 新宮御泊所跡

- 一所在地 東牟婁郡新宮町二番地(上本町ノ内速玉町全体)
- 一目的地 宅地 舊新宮權現本願靈光庵(單ニ庵主ト呼バル) 邸宅



一所有者 東牟婁郡三津野村大字赤木 浦木清十郎  
 一現 狀 御成御殿庭園等明治維新後庵主家衰微ニ及ビ(時ノ當主梅本五十穗主氏下里村ニ  
 轉居シ三十餘年前死亡ス)取リ拂ハレ今ハ赤木浦木家ノ有トナリ六十餘戸ヲ包括スル速玉町ト  
 呼ブ一廓ヲ形成セリ

(三) 那智御泊所跡

一所在地 東牟婁郡那智村大字市野々字那智  
 一地名 宅地 舊社家 イ、實方院(現當主米良トベスシ)邸宅  
 舊社家 ロ、尊勝院(現當主潮崎八百主)邸宅  
 一所有者 イ、佐藤義福(米良氏他ニ轉居) ロ、潮崎八百主  
 一現 狀 兩邸宅トモ旅館トナリ (イ)ヲ龜井屋トイヒ (ロ)ヲ觀瀑亭トイフ觀瀑亭ハ猶若  
 干當時ノ俤ヲ留メアリ

名勝

一國主淵

委員 重田重一報告

一所在地 那賀郡中貴志村大字國主  
 一地名 積 淵ノ全長約三町 幅員五十間許  
 一現 狀 國主淵ハ舟戶驛ヨリ東南約五十町ノ處ニアリ對岸ハ東貴志村大字井ノ口字帆布ニ  
 面シ北野上村大字七山、牛鼻ニ於テ貴志川ノ清溪星川ト合流シテ紺碧ノ水ヲ湛フ而シテ其ノ風  
 致ヲ一層雅麗幽邃ナラシムルモノハ右岸ニ削立セル巨巖老樹並ニ左岸一帶ノ國主神社ノ鬱蒼タ  
 ル森林及ビ深淵ノ傳説是レナリ、此ノ地方ハ太古代結晶片岩系ニ屬シ此ノ附近ノ岩石多クハ綠  
 泥片岩、紅簾片岩及ビ雲母片岩等ヨリ成ル  
 國主神社神官中西七郎氏ノ語ル所ニ依レバ近年河底次第ニ淺クナリ古來淵底龍宮ニ通ズルト稱  
 セシ所謂龍宮淵ノ部分ハ明治十六年ノ旱魃ニモ岸ノ下ハ深キ洞窟トナリ居リ水深三十尺位ハア



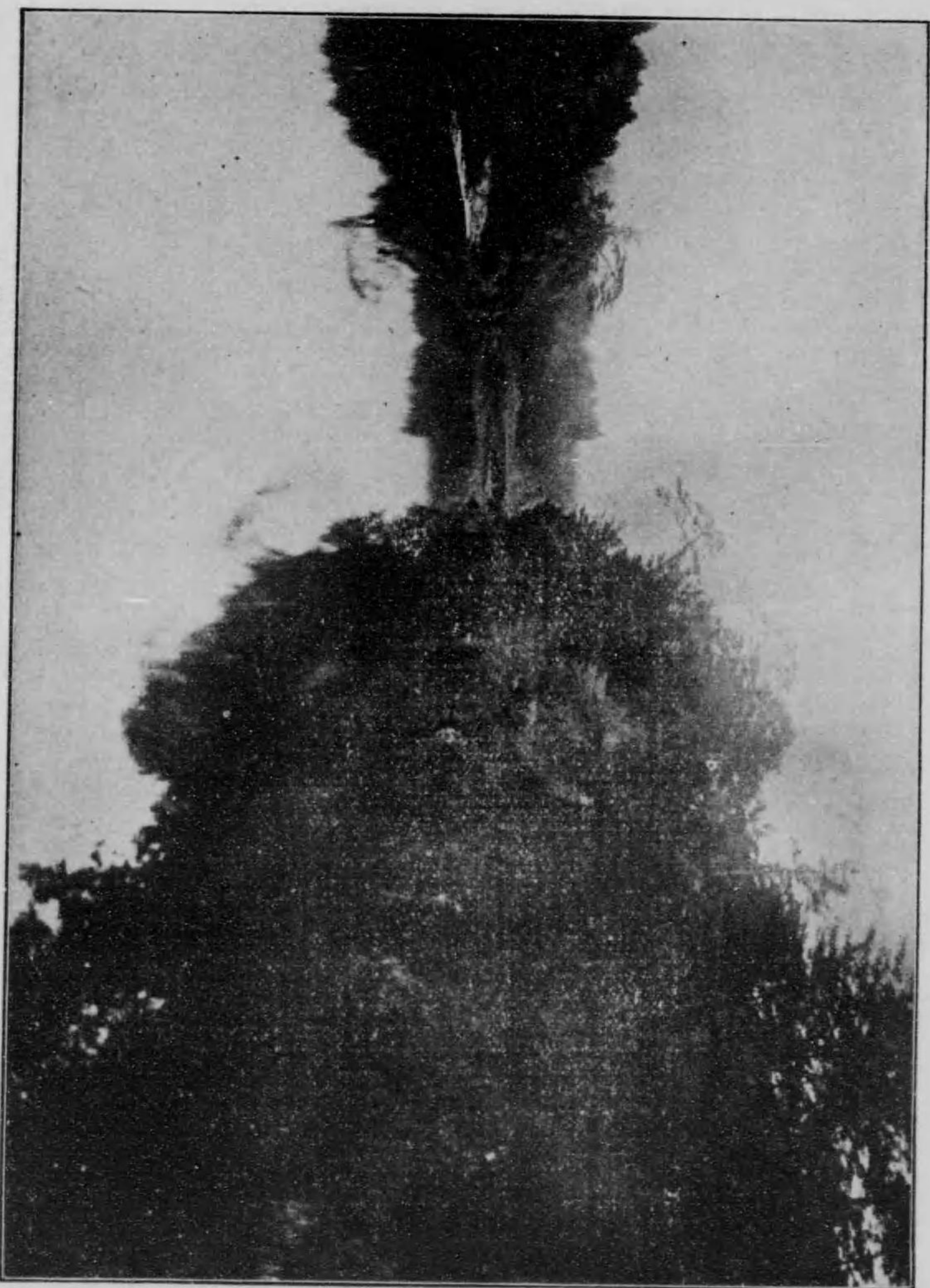
リシガ其ノ後益々埋没シテ今ハ洞穴モ殆ドナク水深僅ニ二間位トナレリト  
 河底ニ隆起セル鞍掛岩ハ名所圖繪ニハ方七丈許トアルモ今ハ長サ十間餘巾二三間ニ過ギズ南岸  
 ナル遙拜所ノ所在地ハ第二種官有地ニシテ面積一段三畝二十歩（東貴志村大字井ノ口字帆布五  
 九〇番地）河岸ニ高サ五十尺許ノ烏帽子岩ナルモノ聳立シ岩上ニ四本ノ老松（最大ノモノ幹ノ  
 周圍八尺、四本ノ内一本ハ枯死セリ）及周圍七尺ノ老檜アリ、岩上ニハひとつば其ノ他地衣苔  
 類ノ古色蒼然タルモノ着生スレドモ附近ハ荆・笹・芝生ノ荒廢セル原野ナリ、最近東貴志村長鈴  
 木氏ハ公園地トシテノ施設ヲナサンガタメ官有地使用ノ許可ヲ受ケ同地在郷軍人會及ヒ青年會  
 ノ活動ニヨリテ道路ヲ拓キ櫻樹ヲ植エ着々改善ノ歩ヲ進メラレツ、アルハ喜ブベシ、許可期限  
 ハ大正十三年一月ヨリ大正二十二年三月マデトス

一傳

說

貴志ノ大飯トテ一萬三千本ノ串ニ白米十二俵ヲ握飯トシテ挿シタル供物ヲ神前ニ  
 奉獻シ其ノ一部ヲ深淵ニ投ジテ龍神ヲ祭リタリト云フ 大飯ノ圖ハ明治十七年三月中西才松氏  
 ガ國主神社へ寄進セル中島壽雄畫師ノ描ケル幅三尺長二間ノ彩色畫ハ同神社ニ保存セリ 紀伊  
 名所圖繪所載ノモノト併セテ考古ノ一資料タルヲ失ハズ

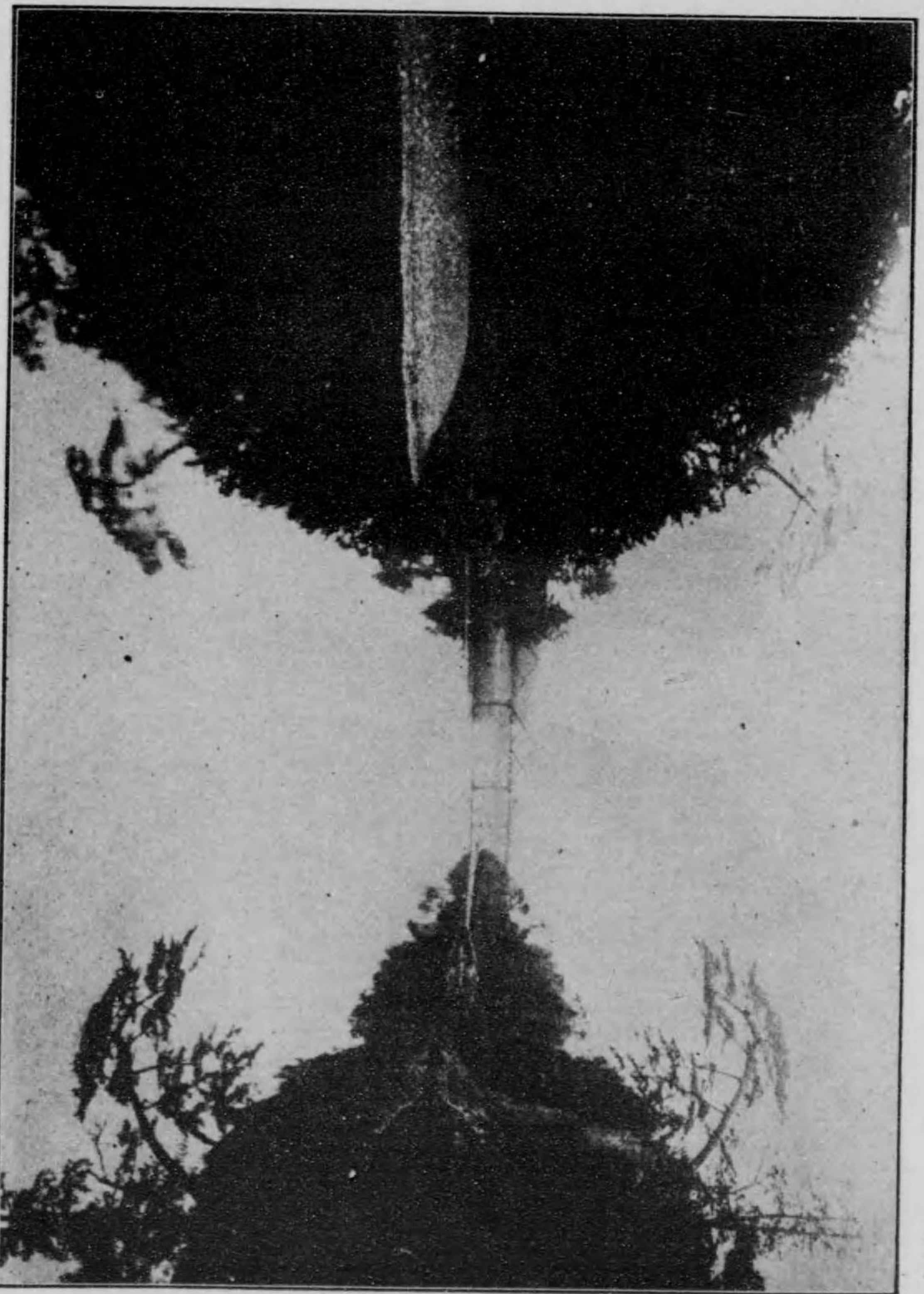
文祿年中大旱ニ際シ雨祈祭ヲナシテ靈驗著シク淵中ニ於テ三面ヲ得タル傳説ニツイテハ那賀郡



（ハ岸右テ向ノキルモ影攝リヨ上橋井浦）  
 （攝取石ノ鼻牛ハ上洲ノ奥中、内境社神）

（一其） 淵 主 國





(リ了所拜達ニ處ルアノ樹老岸右、々望ヲ橋井諸リヨ流上) (二共) 洲 主 國  
リリナ林森ノ社神主國ハ岸左、岩子嶋島ハ殿巨ルセ立直)



誌下卷七九頁ニ詳ナリ

一 保存ノ要件 淵ノ下流諸井橋ヨリ上流正面ニ當レル北野上村七山ノ牛鼻ハ近時岩石ヲ探掘セル  
タメ其ノ破片深淵ヲ埋メ且ツ風致ヲ害スルコト尠シトセズ、其ノ附近桑櫟等ヲ植樹セルモノア  
レドモ森嚴ナルコノ境域ヲ漸次俗化スルモノトシテ惜ムベシ、左岸二千七百三十二坪ハ大國神  
社ノ境内ニシテ櫻樹多ク老松繁茂セルモ右岸ハ僅ニ前記遙拜所ノ一官有地ヲ除ケバ全部私有地  
ニシテ約十五筆九個人(詳細ノ調査アレドモ略ス)ノ田畑或ハ山林ニ屬スルヲ以テ一朝ニシテ如  
何トモスベカラザルモ沿岸ノ樹木ヲ伐採セザルコト風致林ヲ獎勵スルコト岩石ノ採取ヲ禁ズル  
コト等ハ魚族ノ保護ト相待ツテ名勝保存ノタメ必要ナリト信ズ

二 白 良 濱

委員 宇井縫藏報告

一 所在地 西牟婁郡瀬戸鉛山村字下堀續八百六十四番地及同番地先  
一地 目 風潮林ノ海岸地  
一 大体ノ地積 約五町步



一所有者 官有地

一由來現狀等 白良濱ハ一名銀沙歩トイヒ瀬戸鉛山村ノ瀬戸ト鉛山トノ間ニ亘レル一帯ノ海濱ニシテ第三紀砂岩ノ分解ヨリ來レル石英砂ヨリ成リ皎然トシテ恰モ積雪ノ如ク青松点綴シテ稀ニ見ル景勝ノ地ナリ、古來名勝トシテソノ名高ク詩歌頗ル多シ、數年前マデハ硝子製造ノ原料トシテ盛ニ白砂ヲ採集セシガ現時ソノ採集ヲ禁止セルハ喜ブベキコトナリ、今詩歌ノ二三ヲ列記セン

催馬樂 紀伊國

紀の國の 白良の濱の ましろの濱に 來てゐるかもめ ハレその玉もてこ 風しも吹いたれば なごりもたてれば 水底きれて ソレその玉見はず

扶木抄 百首歌千鳥

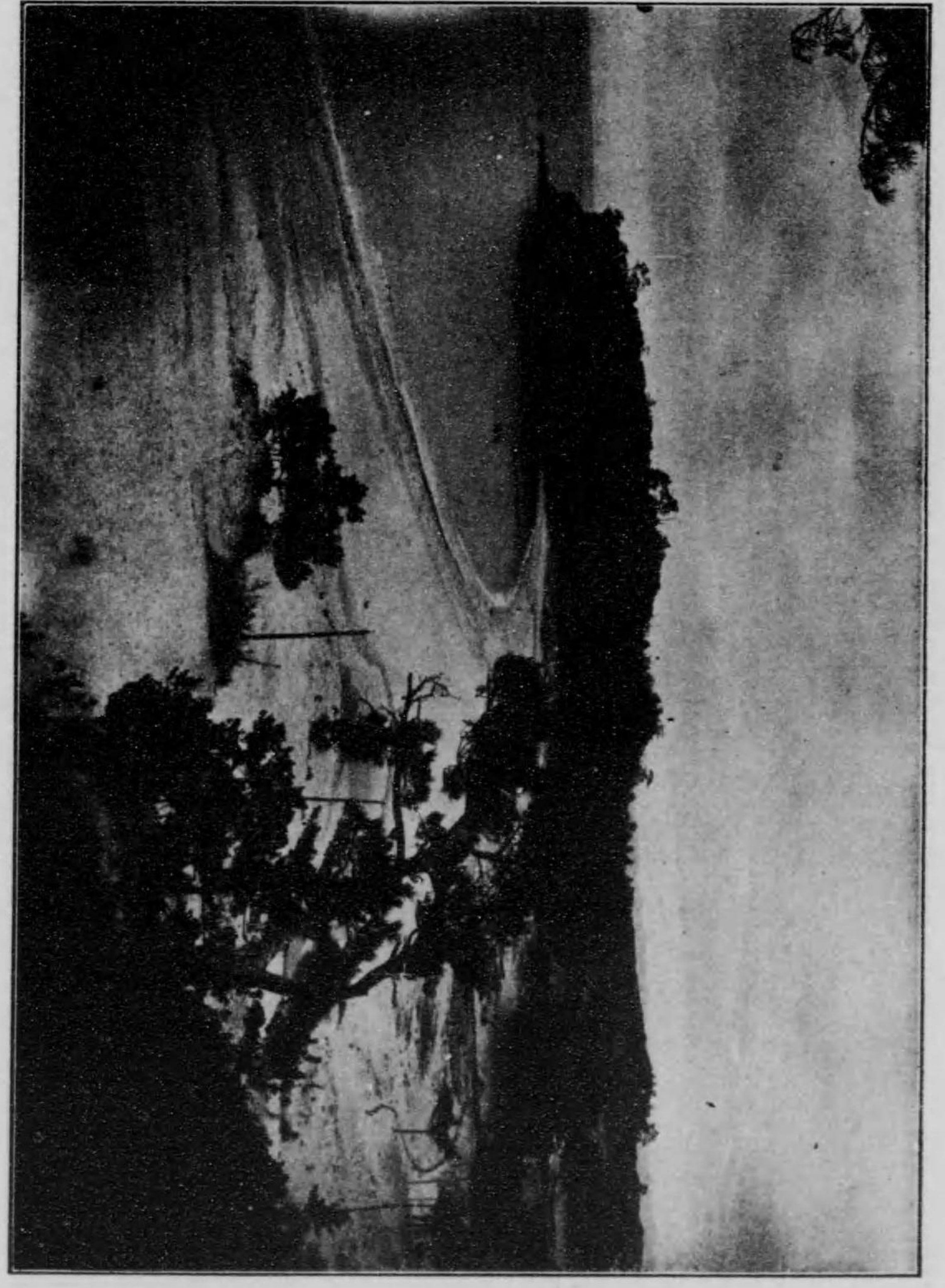
寂念法師

雪のいろに同じ白良の濱千鳥

聲さへさゆる曉の空

同 天祿三年五月資子内親王家歌合 よみ人不知

心あてに白良の濱に拾ふ石の



濱 良 白



いはほとならん世をしこそまで

永久四年百首歌

仲實朝臣

いく夜寝ぬ白玉よする眞白良の

濱松がねに松葉かたしき

後鳥羽院熊野御幸の時瀧尻王子御會濱月似雪

右馬助源朝臣家長

冬來てもまた降りそめぬ雪の色に

同じ白良の夜半の月影

扶木抄

能宣朝臣

並立てる松はみごりの色なるを

いか、白良の濱といふらむ

山家集 月

放れたる白良の濱のからす貝

拾ひやすくもおもほゆるかな



祇南海ノ撰シタル湯崎七景詩ノ中ニ

六二

銀沙步

一望銀沙地 海潮洗更白 秋霜長不消 夏雪亦疊尺 不見眠鷗鳥 唯看數篆跡  
一保存ノ要件 古來天下周知ノ名勝ナレバ國定ノ名勝トスル價值アルモノト認ム

### 三 扇ヶ濱ノ松林

委員 宇井縫藏報告

一所在地

甲 西牟婁郡田邊町大字湊字川原場一七六四

乙 西牟婁郡田邊町大字上屋敷町一一九ノ一

丙 西牟婁郡田邊町大字上屋敷町一九三

一地

目

甲 風潮除松林

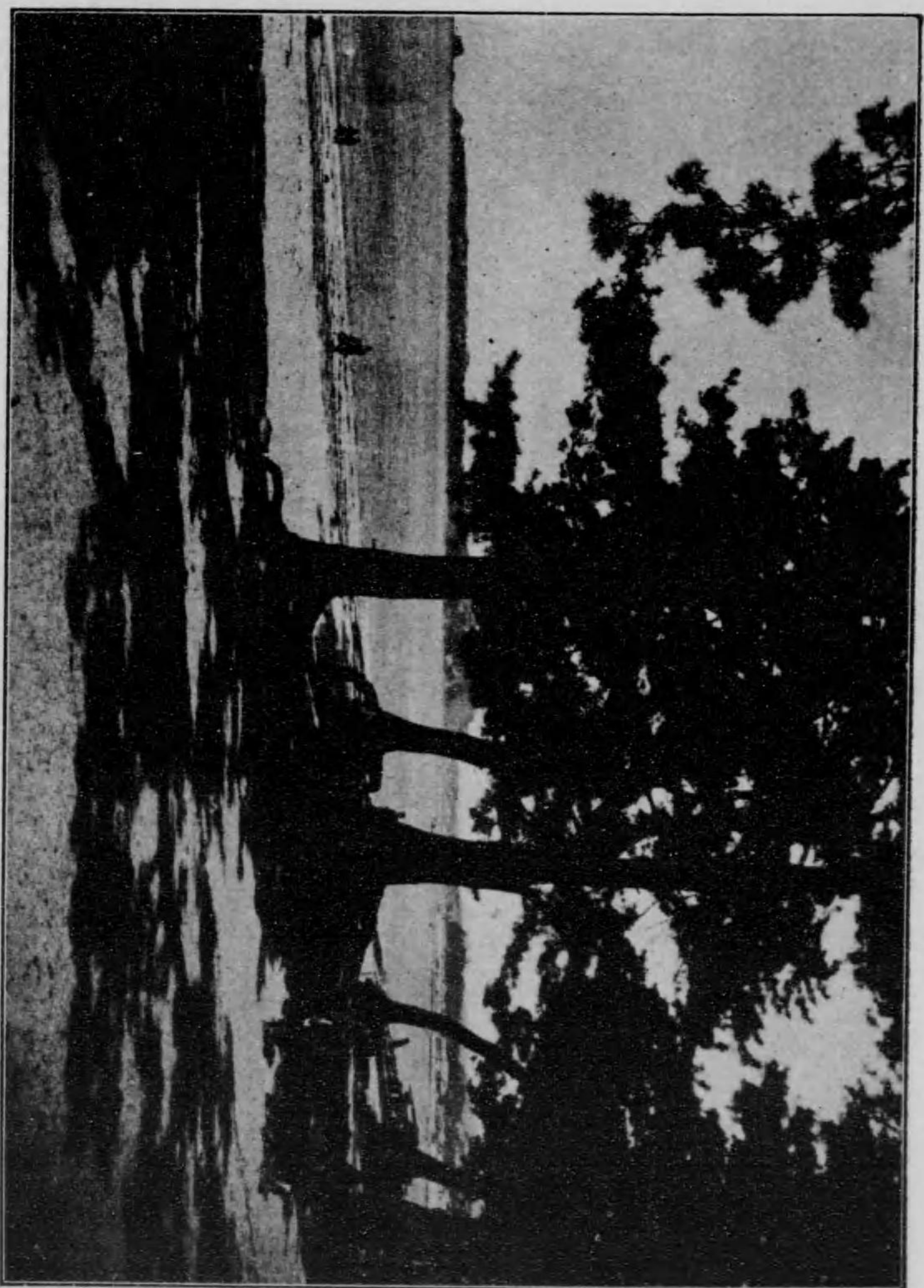
乙 風潮除松林

丙 潮害防備林

一地

積

甲 七町七段九畝二十一歩



部一ノ濱ヶ扇



乙 九段九畝四步

丙 一段三畝二十步

一所有者 甲 官有地

乙 大阪市南區鹽町四丁目五〇番地 栗山善兵衛

丙 西牟婁郡田邊町

一現 狀 田邊町一帶ノ海岸ニアリ老松鬱蒼トシテ生ヒ茂リ稀ニ見ル景勝ノ地タリ

一保存ノ要件 現狀ノマ、ニ放置センカ漸次老松ノ枯死ヲ來シ、アタラ天下ノ名勝ヲ害スルノ虞

ナシトセズ、サレバ濫リニ松樹ヲ害スル人工的設備ヲ禁ズルト同時ニ空地枯跡ナドニ松苗ヲ補

植シテ相當保護ヲ加フル必要アルモノト認ム

#### 四 與根河ノ池

委員 小野芳彦報告

一所在地 東牟婁郡下太田村大字市屋字與根河

一池塘



一所有者 東牟婁郡下太田村大字市屋區

六四

一現 狀 熊野最大ノ池塘ト指目セラレ深碧姍々小湖ノ觀ヲ呈セリ

元池 面積二町九段八畝二十五步 堤塘 三段二畝十六步 長 上部五十九間、下部四十六間  
高 十五間二尺(増築前十四間) 天幅 一間(増築前三間) 溝洫 幹線二千七百間  
寶永五年(二三六八年)ノ春起工シ正徳元年(二三七一年)正月十五日竣工壯年庄屋引地嘉左衛門  
指揮督勵ノ下ニ十六戸ノ居民協力築成ス

新池 三町餘、上流ニアリ 面積 一町四段八畝步 堤防 二段二十步安政四年(二五二七年)  
ノ春剩水給與ヲ約諾シ下里區ト協力シテ築成ス

灌水耕地 市屋區 二十一町步餘 下里區 四十町步餘

下流 與根河川トナリ半里餘ニシテ森浦灣ニ注グ兩岸ニ老椿斷續相連リ又御綱柏ノ木少カラズ  
一由來、紀念碑 上記與根河元池ハ今ヲ距ルコト二百十五年前區ノ恩人引地嘉左衛門翁ノ庄屋時  
代(翁ハ二十五歳ノ若年ヲ以テ庄屋職ニ推サレ勤績三十七年還曆ノ年ヲ以テ職ヲ辭シ悠々晩年  
ヲ送り寶曆十二年五月高齡ヲ以テ歿シ法號ヲ湛然淨水居士トイフ池ヲ築キ成セルハ三十歳前後  
ノ比ニテアリシナリ)ニ築キ成セルモノナリ當時市屋區ノ家數ハ僅々十六戸ニ過ギズ翁ハ飯小

舍ヲ與根河ノ溪畔ニ建テ其處ニ寢食シテ指揮督勵シ區民ハ家業ヲ舉ゲテ婦女ノ手ニ一任シ男子  
ハ老幼ヲ問ハズ専ラ工役ニ從フコト三星霜ヲ累ネ一時區ノ疲弊困憊名狀シ難キ程ナリシモ翁ノ  
不屈不撓ノ意氣ニ激勵セラレテ努力ヲ續ケ竟ニ能ク之ヲ完成セルモノニテ池塘成リ溝洫通ズル  
ヤ効果著大ニシテ炎天數旬ニ亘ルモ復タ早魃ノ患ヲ知ラズ區民ハ深ク翁ノ功勞ヲ德トシ爾來每  
歲正月十五日ニハ溝祝ヲ爲シ盂蘭盆會ニハ爲シ水施餓鬼ヲ爲シツ、アルコトナルガ新ニ又遺德  
碑ヲ建立スルコト、ナリ已ニ工事中ニテアルナリ

六五



## 天然記念物

### 一 三寶蜜柑ノ原木

委員 小川由一報告

一所在地 海草郡東山東村大字木枕字中垣内三六一ノ二

一地目 畑地

一地形 積 三株ニテ占ムル地積約一畝歩

一所有者 海草郡東山東村大字木枕三二七 上野貫一

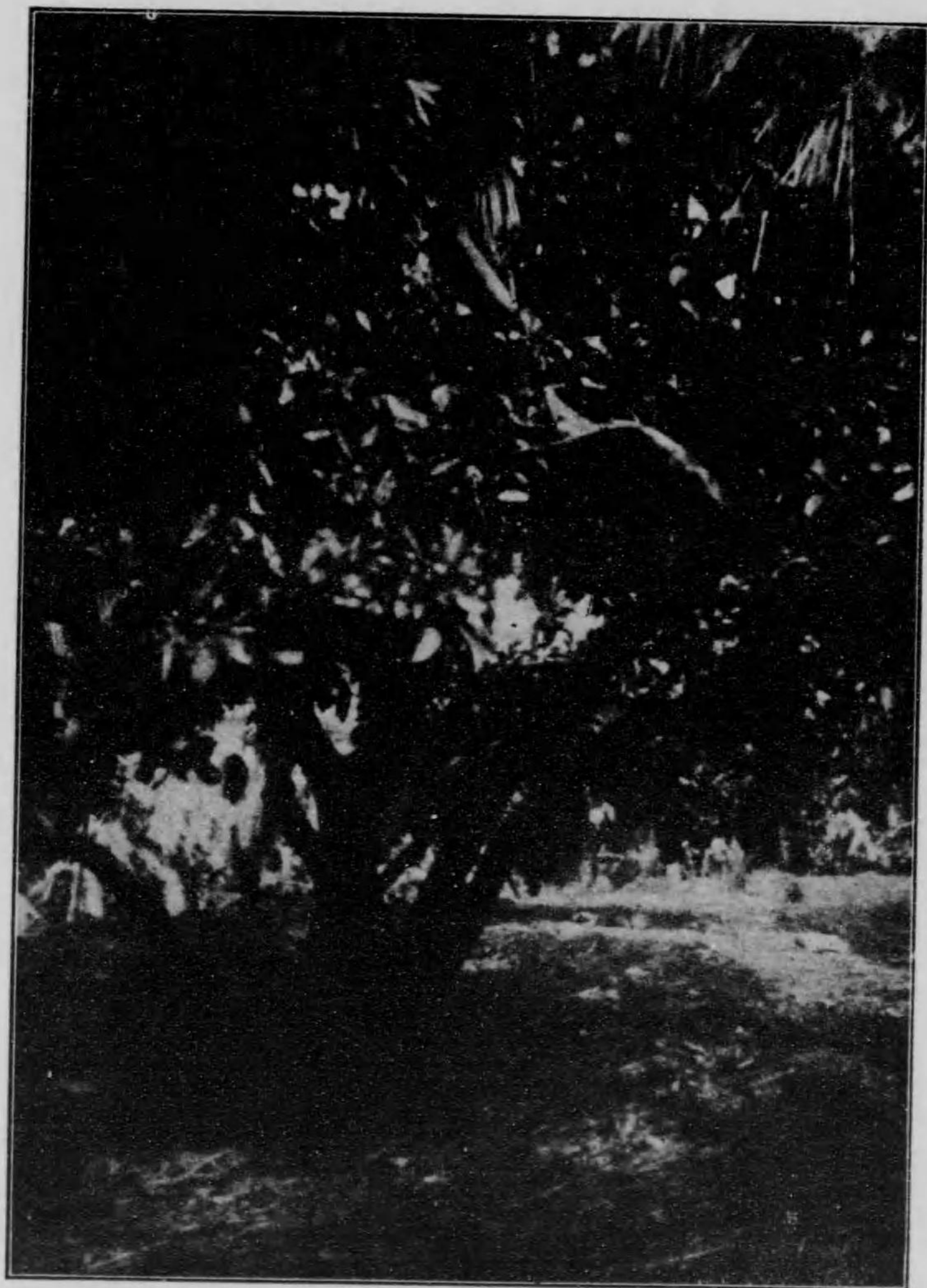
一形状、構造、大小、數量 三株ノ中ニテ其ノ最大ナルモノニツキ測定セシ所次ノ如シ本幹ノ周

圍三尺、地上凡ソ一尺餘ノ所ニテ四本ニ岐ル、其ノ周圍ハ夫々一尺六寸五分、一尺二寸五分、

一尺一寸、九寸ナリ、樹高凡ソ二間半、枝ノ廣ガリ凡ソ七坪許、樹齡ハ凡ソ五十餘年ナリトイ

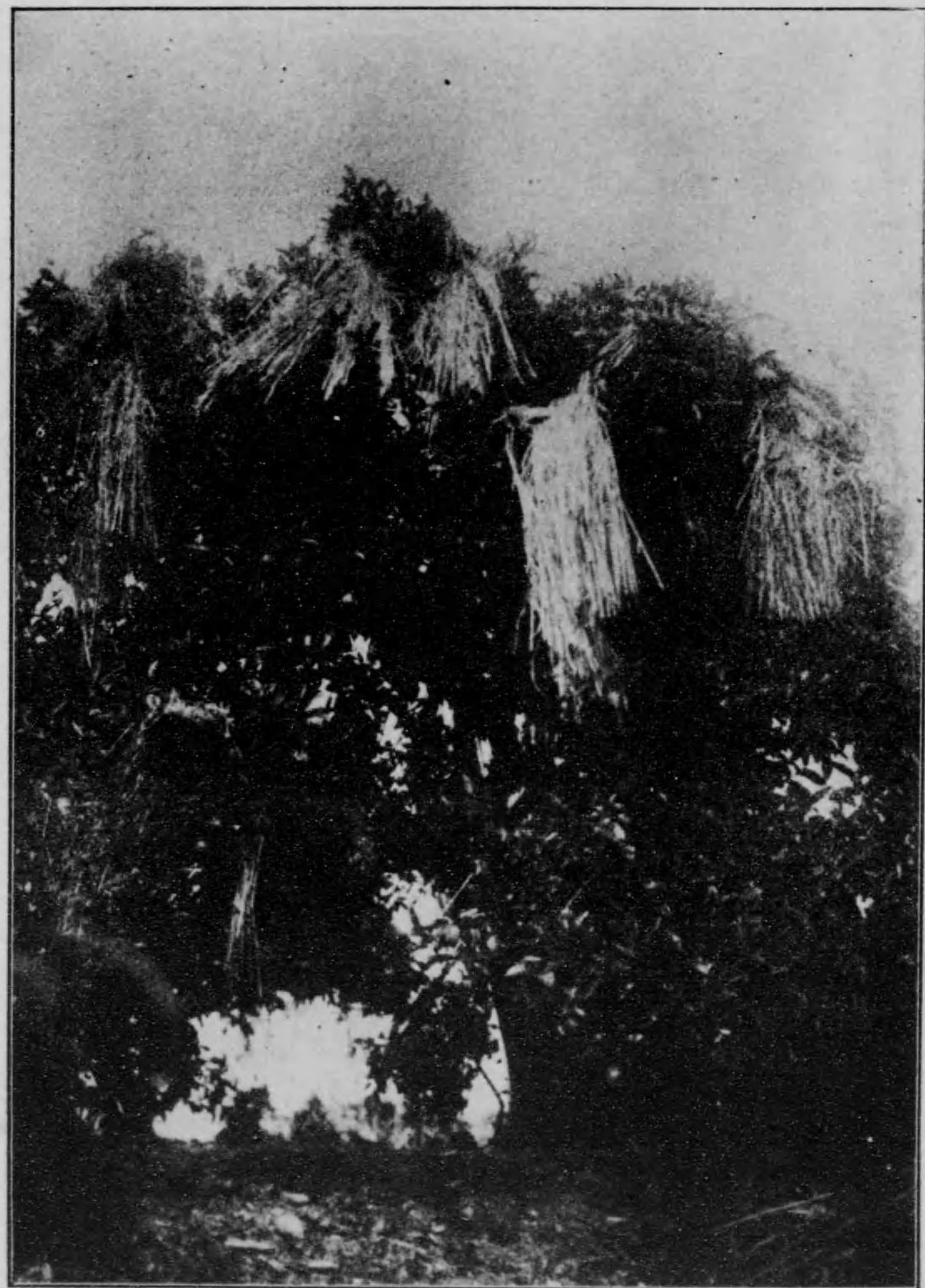
フ。他ノ二株ハ之レヨリモ稍小ナレドモ甚ダシキ徑庭ナシ

一現狀 前記畑地内ニ十年生位ノ若樹ト共ニ栽植セラレ所有者ノ熱心ニシテ周到ナル保護



(一其) 木原ノ柑蜜寶三





(其二) 木原ノ柑蜜寶三



管理ニヨリ發育甚ダ旺盛ニシテ結果狀態モ亦良好ナルヲ見ル

一從來ノ狀況　本樹ハ三寶蜜柑ノ原木トシテ恩田學士其他ニヨリテ既ニ公ニセラレシモノニシテ所有者上野氏ハ家寶トシテ大イニ之レヲ尊重シ其ノ保護管理ニ關シテハ十分ノ力ヲ盡シ來リシモノ、如シ

一其　他　三寶蜜柑ハ本縣特有ノ柑橘ニシテ舊藩ノ頃市外今福(今ハ市ニ編入セラル)野中某方ノ園内ニ新生セルモノナリトイフ、蓋シ雜交ニヨリ生ジタル天然間種ナラント云ハル。後和歌山市内新堀ニ居住シタル舊藩士林角右衛門ナル者接木ニヨリテ之レヲ自宅ニ移シテ栽植シタリシガ明治七年頃林家ノ知人中村助四郎ナル者同家ヨリ接穂ヲ讓受ケテ居村東山東村大字木枕字中垣内ニ持歸リテ接木セシガ後上野貫一氏ノ有ニ歸セリ、之レ即チ予ガ三寶蜜柑ノ原木トシテ茲ニ報告スル所ノモノナリ。現時坊間ニ流布セル三寶蜜柑ノ樹ハ殆ンドスベテ直接間接ニ此ノ原木ニ源ヲ發セルモノニシテ所有者上野氏ガ敢テ自ラ三寶蜜柑ノ元祖ヲ以テ任ゼラル、モ亦故ナキニアラズ。而シテ今福及ビ新堀ニアリシトイフモノ今ハ其ノ消息ヲ明カニセズ本柑橘ハ實ニ果形ニ一種特異ナル點アリ且ツ味ノ美ナルノミナラズ他ノ柑橘ノ貯藏期ノ既ニ過ギテ生果ノ存セザル季節ニ市場ニ現ハレ獨リ其ノ盛名ヲ恣ニスルモノニシテ此ノ一事既ニ他ノ



追隨ヲ許サザル所タリ、而シテ天然間種トシテ近世現ハレタルノ點亦注目ニ値ス、凡ソ世ニ主要ナル果實トシテ知ラレタルモノ少ナカラズ、サレド本柑橘ノ如ク其ノ來歴ノ明カナルモノハ其例多カラザルベク、其ノ原木ノ儼トシテ今猶存スルガ如キニ至ツテハ蓋シ他ニ其ノ比ヲ見ザル所ナルベシ、眞ニ天下ノ名木、果樹界ノ珍寶トシテ永久ニ保存スベキモノ、本委員ガ茲ニ之レヲ報告セル所以亦是ニ存ス

大正四年朝香宮殿下和歌山歩兵第六十一聯隊ニ御在任ノ砌、畏クモ 聖上陛下へ御献上用トシテ特ニ縣農會ノ指定ニヨリ前記上野氏經營ニ係ル農園産ノ三寶蜜柑ヲ御嘉納セラル、ノ光榮ニ浴シタリトイフ

一保存ノ要件 所有者上野氏ハ篤農ノ士ニシテ又地方ノ豪家ナリ果樹界稀ニ見ル此ノ名木ヲ保護スルコトノ必要ヲ十分ニ自覺セラレ銳意其ノ保全ニカメラレツ、アリ而シテ其ノ樹勢ノ旺盛ナルコト前記ノ如シ故ニ今特別ニ他ヨリ之レガ保護施設ヲ要求スルノ必要アルヲ見ズ、サレド果樹界ニ於ケル稀有ノ名木タルコトヲ認メ天然記念物トシテ之ヲ指定シ此ノ名譽アル原木ノ存スルコトヲ廣ク宣揚スルコトハ農事振興ノ上ニモ亦極メテ有効ナルコト、思ハル

### 二 椿ノ巨樹

委員 小川由一報告

- 一所在地 海草郡東山東村大字木枕字中垣内三三六
- 一目的地 畑地
- 一積 本樹ノ占ムル面積ハ約十坪餘
- 一所有者 海草郡東山東村大字木枕字中垣内 吉田良一
- 一形狀、構造、大小、數量 一株アリ、本幹ノ周圍地上五尺ノ所ニテ五尺六寸、地上約七尺ノ所ニテ二本ニ分岐ス、一ハ周圍四尺三寸、他ハ周圍三尺六寸五分アリ、樹高凡ソ五間、樹齡三百年以上ト推定ス

一現狀 前記畑地ノ畦畔ナル急斜面ノ上部ニ孤立セリ、樹勢旺盛ニシテヨク繁茂シ予ガ調査ニ赴キ際ハ正ニ滿開時ニテ美觀ヲ呈セリ

林學博士本多靜六氏編大日本老樹名木誌ニヨレバ日本第三位ノ椿ノ巨樹ハ大阪府中河内郡川俣神社境内ニ存スルモノニシテ地上五尺ノ所ニテ六尺ノ周圍ヲ有ス。而シテ之レニ次グモノハ愛



媛縣宇摩郡常福寺境内ニ存スルモノニシテ周圍五尺ナリトイフ。而シテ吉田氏所有ニ係ルモノハ實ニ周圍五尺六寸ニシテ前記川俣神社境内ノ大椿ニ次ギ日本第四位ニ位スベキ有數ノ巨樹老木ナリトイフヲ妨グズ

一從來ノ狀況 畦畔ニ立テル平凡ナル一ノ立木トシテ尋常視シ別ニ注意ヲ拂ハレザリシガ如シ  
一保存ノ要件 現在ノ狀況ニヨレバ今直チニ伐採セラル、ガ如キ模様モナク枯死スルガ如キ憂モナシ、サレド私有地ナルガ上、里人ハ本邦有數ノ大樹ナルコトヲ解シ居ラザルヲ以ツテ將來或ハ何等カノ事情ノ下ニ斧ヲ加フルガ如キ事ナキヲ保セズ、故ニ所有者及ビ里人ヲシテ日本有數ノ大樹タルコトヲ解セシメ之レガ保全ニカムルヤウ心掛ケシムルコトヲ要スベシ

### 三 かぎかづらノ北限及ビ其ノ群落

委員 小川由一報告

一所在地 那賀郡麻生津村大字中宇宮ノ原四〇

一地目 宅地(宅地ニ接續セル懸崖)

一地積 約二十坪(群落ノ占ムル地積)



樹 巨 ノ 椿



一所有者 那賀郡麻生津村大字中字宮ノ原 林辰之助

一形状、構造、大小、數量 前記ノ場所ニ多數自生シ一續ノ著ルシキ純群落ヲナス

一現 狀 前記宅地ノ東側ハ溪流ノ浸蝕及ビ之レニ起因スル崩壊ニヨリテ生ゼル深キ谷間ニ

シテ谷ノ兩側ハ絶壁ヲナス、土質ハ崩積性ノ赤褐色粘土ナリ、かざかづらノ群落ハ此ノ谷ノ西側ナル絶壁ノ上縁附近ニ生ジ發育甚ダ旺盛ニシテ他植物ヲ壓シ顯著ナル純群落ヲ形成セリ、夏時ニ至レバ横走セル根ハ隣接セル畑地宅地等ニ侵入シテ隨所ニ莖ヲ出シテ蔓ルヲ以ツテ里人ハ容赦ナク之レヲ除去スト雖何等衰退ノ兆ヲ現ハスヲ見ズ

一從來ノ狀況 聞ク所ニヨレバ從前ハ現在ニ數倍セル廣キ地域ニ蔓延シタリシガ發育盛ンニシテ附近農作物及ビ往來ヲ害スルコト少ナカラザリシヲ以ツテ之レガ根ヲ掘取リテ捨テタルガ爲メ現時ハ唯ソノ一小部ヲ現存スルニ過ギザルニ至レルナリト云フ、曩日ノ盛況蓋シ想像スルニ餘アリト云フベシ

里人亦之レヲかざかづらト呼ビ從來民間藥トシテ其ノ煎汁ヲ内用スルノ俗アリ、風邪ニ卓効アリトイフ、里人ノ言ニヨレバ此ノ植物ハ前記ノ地ノ外向安樂川村外一ヶ所都合三ヶ所ニ自生スト云フ、サレド予ハ未ダ他ノ二ヶ所ノ果シテ何處ナルヤ又今尙存スルヤ否ヤヲ詳カニセズ。然



レドモ是等ノ事實ヨリ考フルモ此ノ植物ガ特殊ナル一品トシテ里人ノ間ニ注目セラレシモノナルコトヲ察スルニ足ル

七二

一、其 他 かざかづらハ學名ヲ *Ourouparia rhynchophylla*, Maxim. トイヒあかね科ニ屬スル蔓性ノ灌木ナリ、其ノ對生セル葉ノ腋ヨリ生ズル花梗ノ中、花ヲ着ケザルモノハ變態シテ著ルシク彎曲セル鈎トナリテ他物ニ懸リ莖ヲ支ヘ攀縁上昇スルコトヲ以ツテ此ノ植物ノ特異ナル一標徴トナス

本邦暖地ニ多ク自生スルモノニシテ理學博士中井猛之進氏ニヨレバ本州(安房、大和、紀伊、周防)四國、九州ニ分布シ臺灣ニハ近似ノ一種ヲ産スト云フ、而シテ本縣南部ニテハ比較的普通ナルモ北部ニ遷ルニ從ツテ次第ニ稀ニ有田郡箕島附近ニ僅カニ之レヲ産シ、ソレヨリ以北ノ地ニテハ全ク影ヲ潜メテ之レヲ見ルヲ得ズ。然ルニ麻生津村ノ一部ニ於テハ前記ノ如ク甚ダ著ルシキ群落ヲナセルノミナラズ其ノ發育ノ旺盛ナル點ニ於テ本縣南部ノモノニ比シ遙カニ優レルモノアリ、植物分布學上興味アル一事タルヲ失ハズ。而シテ本群落ハ獨リ本縣ニ於ケル分布ノ北限タルノミナラズ實ニ本邦ニ於ケル該植物分布ノ顯著ナル北限ノ一タルベキコトハ更ニ注目スベキ所ナリ、カ、ル見地ヨリセバ之レヲ保護スルノ價值十分ナリト認メラル。



落群ノらづかざか



本村ニ鎌倉谷ト稱スル溪谷アリ結晶片岩ノ特異ナル節理ニヨリテ生ジタル一峡谷ニシテ紀北地方ニテハ他ニ絶エテ之レヲ見ザルるりみのき、ぬりごらのを等自生ス、之レ亦植物區系上興味アル地ノ一タルヲ失ハズ

一保存ノ要件　かざかづらノ群落ハ現時ハ人ノ近ヅクニ危険ヲ感ズルガ如キ絶壁ニ生ゼルモノナルヲ以ツテ人爲ニヨル厄ヲ受クルガ如キコトハ之レ無カルベキモ前記ノ如キ地形及ビ土質ナルヲ以ツテ大雨ノ際ナドニハ崩壞ヲ來ス懼ナシトセズ。故ニ此ノ點ニ付キ適當ノ處置ヲナシ以ツテ保全ノ途ヲ講ズルヲ要ス

#### 四　しらかしの巨樹

委員　小川由一報告

一所在地　那賀郡麻生津村大字中字宮ノ原一　九頭神社社叢

一地目　村有林

一地積　一段七步

一所有者　那賀郡麻生津村



一 形状、構造、大小、數量 二株ノ内甲ハ地上五尺ノ所ニテ周圍一丈二尺八寸、高サ凡ソ十五間  
 地上七尺ノ所ニテ等大ノ二幹ニ分岐ス、恐ラク二株ノ癒着セルモノニハアラザルベシ。乙ハ甲  
 ヨリモ少シク北方ニ位置シ周圍一丈二尺二寸、高サ凡ソ十間ニ達ス、地上凡ソ三間ノ所ニテ本  
 幹ハ腐朽消失シ、ソノ附近ヨリ細キ數本ノ枝側生シテ樹容ヲ繼承セリ、二株共樹齡ハ少ナクト  
 モ五百年以上ナラント考ヘラル。林學博士本多靜六氏編大日本老樹名木誌ニハ楮類ノ巨樹數多  
 載セラレタレドモ楮類ヲ一括シテ掲ゲラレタルノミナラズ種名ノ明記セラレザルモノアリ、故  
 ニ各種別ノ序位ヲ判定スルヲ得ズ、茲ニ報告スル所ノモノハ全楮類中ニテハ全國ニテ凡ソ十六  
 七位ニ相當スルガ如キモ若シ單ニしらかしノミニツイタイヘバ之レヨリモ遙カニ優位ヲ占ムベ  
 キモノタルヤ疑ナシ

一 現 狀 二株共九頭神社背後ノ急斜地ニ繁茂セル常綠闊葉樹林中ニ存スルモノニシテ其ノ  
 大キサ遙カニ他樹ヲ抽ケリ、其ノ中甲ハ腐朽ノ模様ナク樹勢盛ナレドモ乙ハ前記ノ如ク木幹既  
 ニ朽チ果テ、之レヨリ生ゼル數本ノ側枝ニヨリテ漸ク樹容ヲ維持セルノ現狀ナルヲ以ツテ腐朽  
 作用ノ或ハ更ニ内部ニマデ進ム懼ナキヲ保シ難シ

一 從來ノ狀況 九頭神社ハモト現今ニ數倍スル社叢ノ中ニ鎮座シ、神嚴ノ氣眞ニ人ニ迫ルモノア

リシガ維新後現在ノ一段七步ヲ殘シ他ハ之レヲ個人ニ賣却セシヲ以ツテ幾多ノ老木巨樹ハ伐採  
 セラレ、ソノ跡地ハ畑ト化シ昔日ノ面影ヲ留メズ境内ノ風致之レガ爲メニ甚ダシク減殺サレタ  
 リトイフ。サレド近時村民間ニハ痛ク之レヲ惜シミ舊態ニ復セシメントヲ唱フルモノ次第ニ  
 多キヲ加ヘ多額ノ資金ヲ寄附センコトヲ申出ヅルモノスラアリトイフ。吾人ハ村民ノ益々自覺  
 シ之レガ實現ノ一日モ早カラシコトヲ切望シテ止マズ

一 保存ノ要件 事情上記ノ如クナルヲ以ツテ彼ノ巨樹ノ如キモ將來伐採ノ厄ニ遭フガ如キコトナ  
 カルベシト信ズ、サレド有數ノ巨樹老木ナルコトヲ村民ニ知ラシムルト共ニ腐朽ソノ他ノ危害  
 ニツキ相當豫防ノ途ヲ講ズルコト必要ナルベシ

五 くろがねもちノ巨樹

委員 小川由一報告

- 一 所在地 那賀郡岩出町大字岡田字上野七三六及七三七 共同墓地
- 一 地 目 墓地
- 一 地 積 二段二畝二十八步



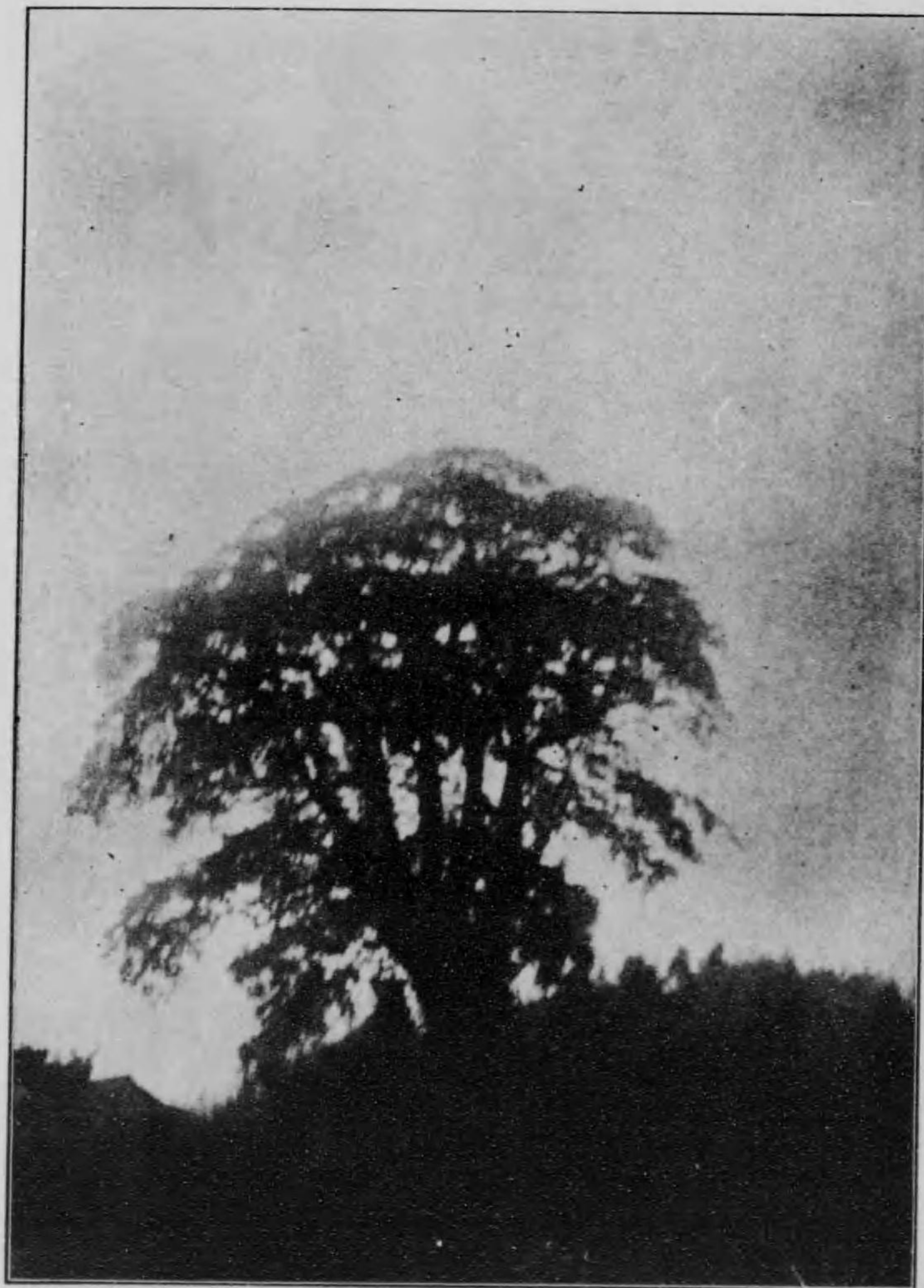
一所有者 那賀郡岩出町

七六

一形状、構造、大小、數量 一株、地上五尺ノ所ニテ周圍一丈四尺三寸アリ高サ十間餘、枝張リノ廣サ之レニ適フ、地上凡ソ八尺ノ所ニテ三幹ニ岐ル、周圍ハ夫々一丈三尺、八尺及ビ六尺許、而シテ其ノ最大ナルモノハ第一次分岐點ヨリモ凡ソ五尺許上方ニテ更ニ周圍八尺位ト見ユル三本ノ枝ニ分ル、樹齡ハ分明ナラザレドモ恐ラクハ三百年位ナランカ

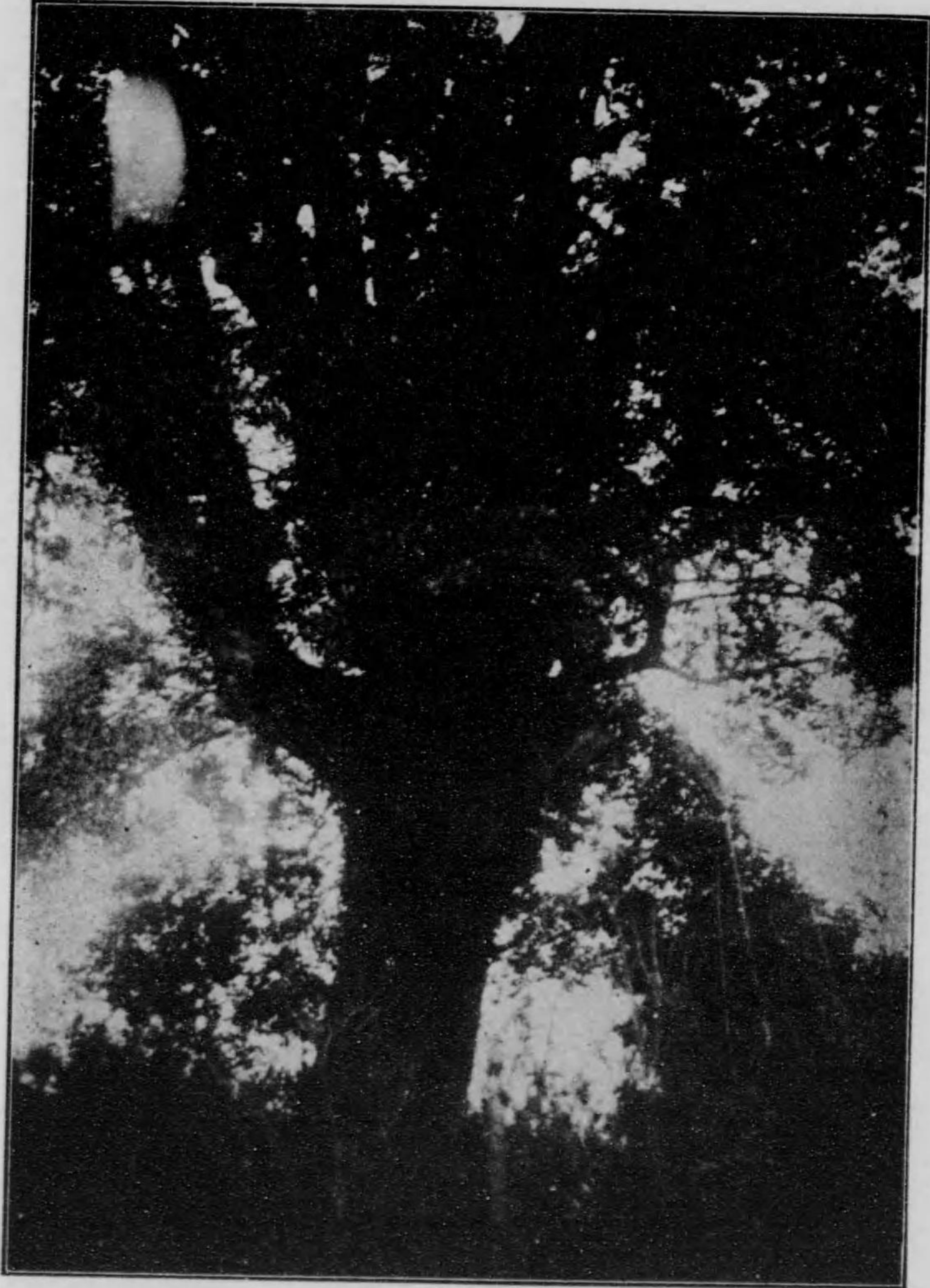
林學博士本多靜六氏編大日本老樹名木誌ニヨレバ日本第一ノくろがねもちハ愛媛縣愛知郡天白村ニ存スルモノニシテ地上五尺ノ所ニテ周圍一丈八尺ヲ算セリ、而シテ予ノ茲ニ報告セルモノハ前記ノ如ク周圍一丈五尺ニ近シ、正ニ之レ同種中日本第二位ニ配スベキモノニシテ該名木誌中ニ第二位ニ舉ゲラレタル廣島縣御調郡八幡村ノモノ、周圍僅カニ八尺五寸ニ過ギザルモノ、如キハ本樹ノ最大ナル一枝ニダニ及バザルコト遠シト云フベキナリ、而モ本樹ハ樹勢隆々枝葉繁茂シ近圍數箇村ヨリ能ク之レヲ望ムベク其ノ一枝スラ優ニ一箇ノ大樹タルノ大キサヲ有ス、實ニ稀有ノ巨樹ト云フベキナリ

一現 狀 前既ニ記セルガ如ク本樹ハ樹勢甚ダ盛ニシテ草叢ノ間ニ高ク孤立ス俗間「三昧ノ青木」ト稱ス。蓋シ三昧トハ埋葬地ノ謂ニシテ青木トハななめのき、くろがねもち、そよご等



(一其) 樹巨ノちもねがろく





(二共) 樹巨ノちもねがろく



ニ對スル俗稱ナリ。里人ハ此ノ樹ニ觸ル、コトヲ縁起惡シトナシテ大イニ之レヲ忌ミ之レヲ切レバ鮮血流レ出ヅト稱ス或ハ深夜ニ至レバ大蛇現ハルトイヒ或ハ他ニ絶エテ之レヲ見ザル稀有ナル樹木ナリト誇稱スルモノアリ

一從來ノ狀況 前項ニ記スル所ニテ畧々之レヲ盡シタレバ重ネテ記セズ

一保存ノ要件 現狀及ビ來歴ハ以上ノ如クナルヲ以ツテ之レヲ伐採スルガ如キコトハ之レアラザルベシト信ズ。サレド同町ニテハ近ク舊墓地内ニ火葬場設置ノ議アリ、故ニ日本稀有ノ巨樹ナルコトヲ里人ニ知ラシムルト共ニ之レガ伐採ヲ禁ズル旨ヲ明示スルコト必要ナルベシ

## 六 桂 樹 (雄桂及雌桂)

委員 重田重一報告

一所在地 那賀郡麻生津村字麻生津中桂三九五番地

一地目 山林(目下保安林ニ編入)

一地積 共有飯盛山一八五町三段三畝二〇步ノ中

一所有者 麻生津村、名手町、狩宿村、王子村ノ共有山



一 管理者 那賀郡麻生津村長 畑野誠一

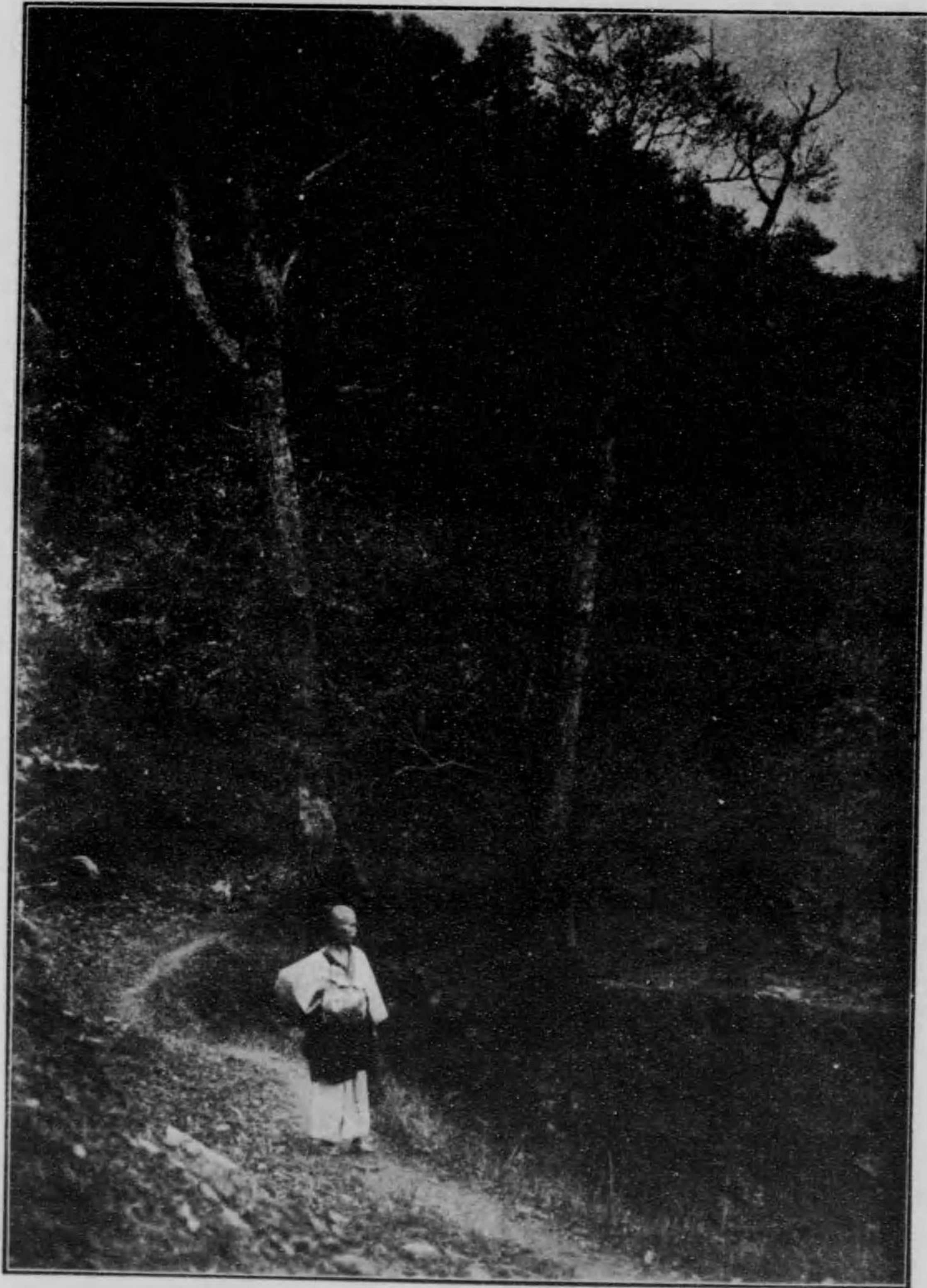
一 現 狀

名手驛ヨリ南十町許紀ノ川ノ南岸鎌倉谷ト稱スル結晶片岩ノ削立セル一斷層溪流アリ此處ヨリ飯盛嶺山ヲ經テ東南ニ山路ヲ登攀スルコト約一里許、飯盛山西方所謂桂峠ニ達スル數町西下ニ約一町ヲ隔テ、二株ノ桂樹アリ

西ニアルモノ(清水流ル、溪ノ側ニアリ)周圍約八尺許ノ大幹四本、同一根元ヨリ分岐シテ恰モ本幹ノ倒レタル後へ蘖ノ成長セル如キ觀アリ、四本ノ合セル根本ノ周圍ハ約二十尺餘、斯ル株一間許ヲ隔テ、二株對立シ更ニ風害ノタメ溪ノ上ニ倒レテ枯レタル材アリ  
東ニアルモノハ大幹二本ニテ周圍各十二尺、幹ノ長約六十尺、其ノ中一本ノ下部ハ一部分燒失セル炭化ノ跡殘レリ

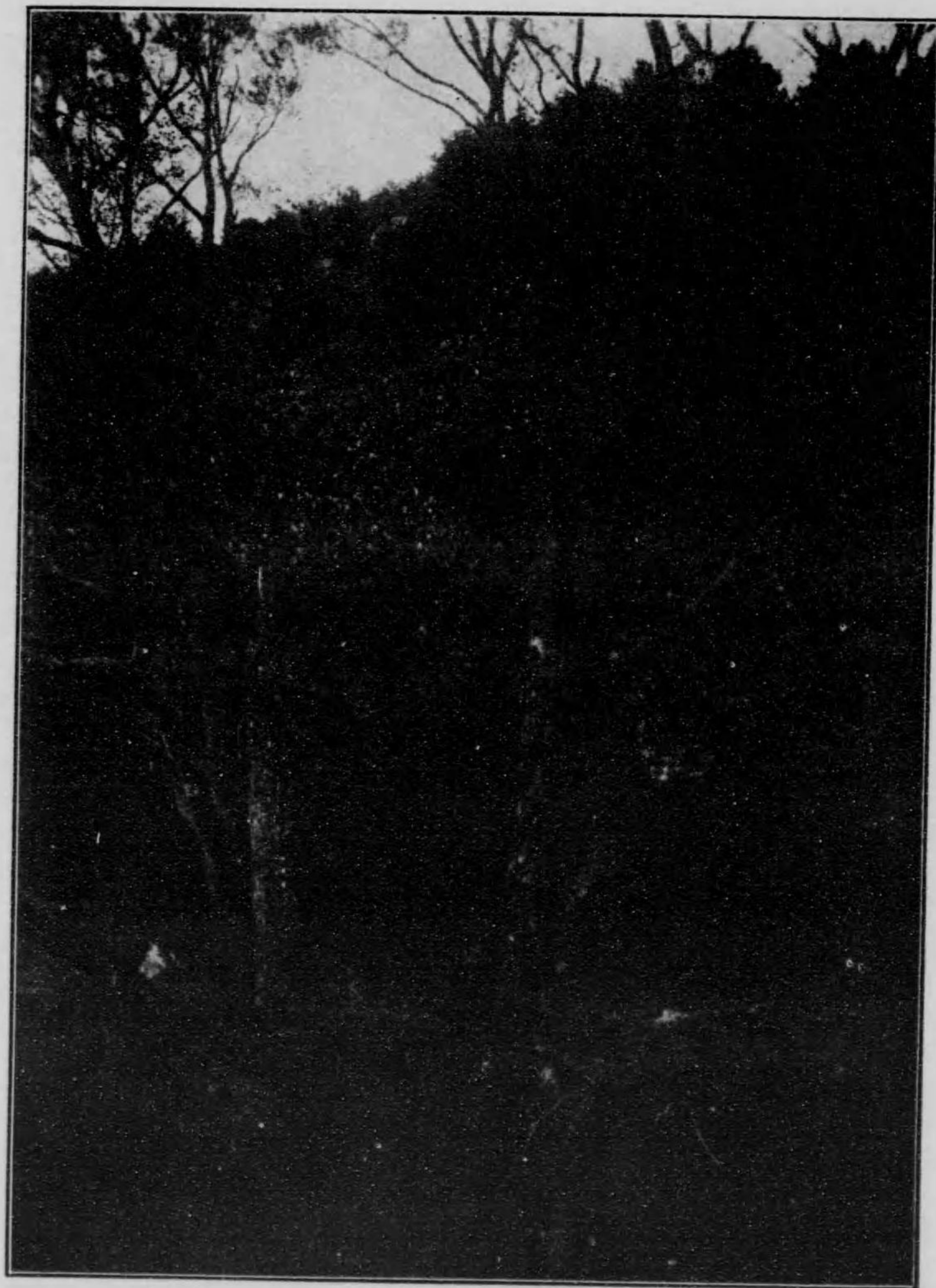
かつらハ落葉喬木ニシテ和名抄ニハ平加豆良ト訓ス又かもかつら かつらぎ たまかつら かうのき あかき しつかつら ナドトイヒアイヌ名ヲらんご(Rainco)トイフ。富士、日光及ビ北海道等ノ山中ニ産ス(日本百科大辭典)トアリ。大日本老樹名木誌ニハ鳥取縣ニ桂ノ大樹アルコトヲ記セリ。本縣ニ於テハ高野山ノ森林中ニ散見スレドモ其ノ他ニハ稀ナリ

一 由來傳説 那賀郡誌下卷三一〇頁稱淵八幡神與ノ由來ノ條下ニ此ノ桂ハ當時(後堀河天皇安



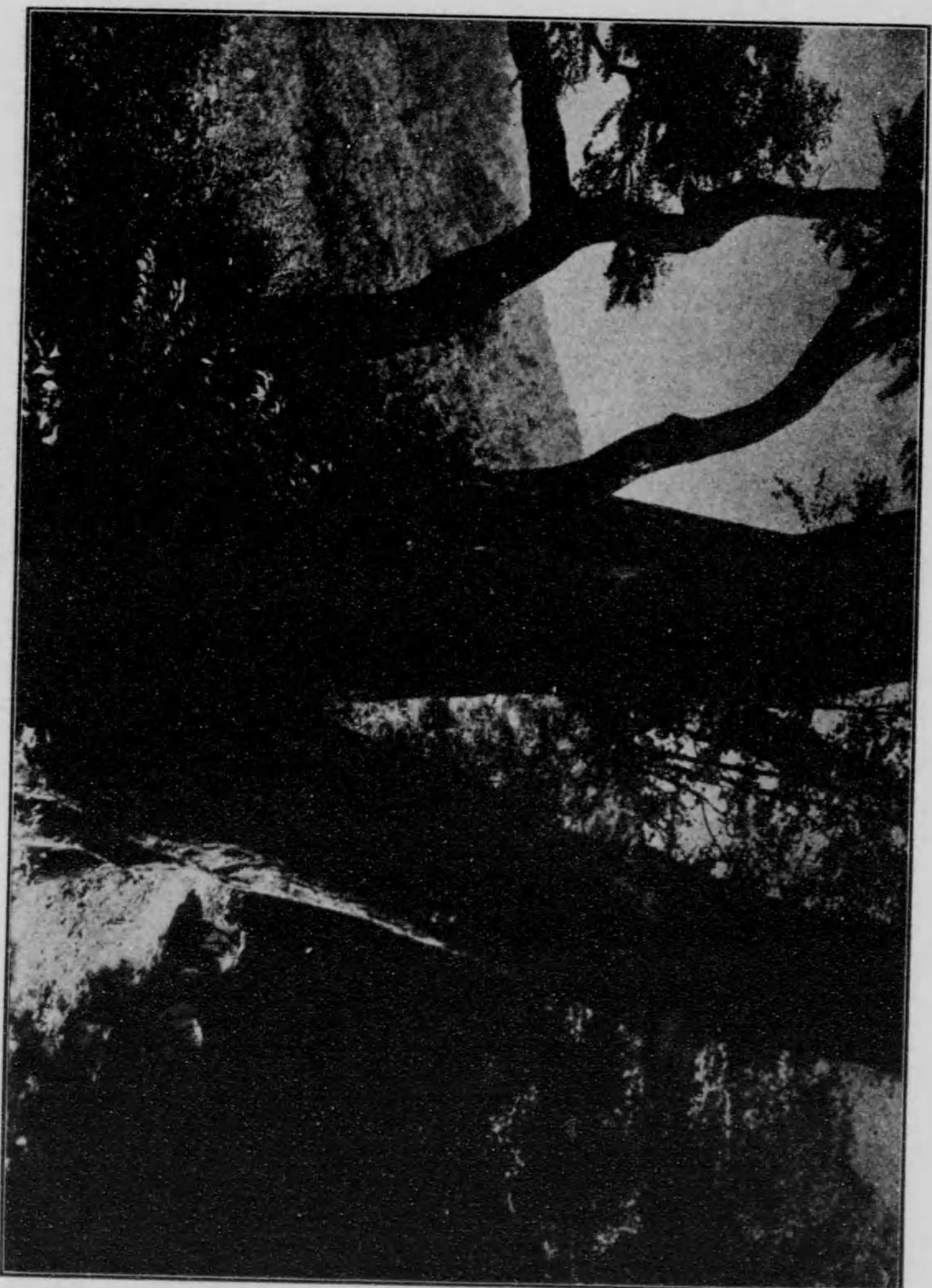
(ノモルアニ東) 樹 桂





(ノモルア=四) 樹 柱





(モルブニ四) 樹 桂





貞二年一八八八年）植エラレタルモノ、如ク記セルヨリ見レバ約七百年以前ノモノニシテ曾テ  
暴風ノタメ倒レタル桂樹ヲ入札セシコトアルモ買受人ハ此ノ木ヲ持歸ル時ハ己ガ家火災アルヤ  
ウニ見ユト聞キテ遂ニ遺棄セリト、現在一本ノ大幹空シク倒レテ朽チ居ルモ一人ノ手ヲ下スモ  
ノナシ

鎌倉谷東峰見雌雄桂

神易興

自註云 里俗曰此木無花實

天謫雙桂樹居之鎌壑東

因憂廢花節相對哭金風

百藥抽丹嶂千枝摩碧空

妙姿人自賞莫想月宮中

同じをりよめる歌

諸平

兄の山は 妹をし思ふと 妹山は 兄をししぬぶと 路の邊に 並ばひ居れば 妹も兄も  
類よろしみ 皆人の 賞でつ、行くを をしねかる 鎌倉谷のこちごちの 雌雄の桂は松  
だにも 生ひぬみ谷に 杉だにも 生ひぬ御由に 年久に 茂さびたてど 五百枝刺し



千枝刺し覆ひ珍しく、並び居れども、山高み、ほき路さがし、人の見ぬ事ぞ悔しきはれ、是のめかつら妹山に、植ゑんよしもが、目細しき、是の雄かつら兄の山に、植ゑん由もが、麻蔭かんゆは

一保存ノ要件 鞆淵村ニ通ズル路傍ニアリテ行人ノ休息場所トナルヲ以テ焚火ノ災害又ハ樹幹ノ損傷ヲ受クル虞多シ宜シク適當ナル圍柵ヲ作りテ安ニ接近セザルヤウノ方法ヲ講ゼラレタシ

備考

雄桂雌桂ノ名稱ニ就テ

かぐら、*Cercidiphyllum japonicum*, Sieb. et Zucc. 雲葉科ニ屬シ雌雄異株ノ喬木ナリ。紀伊名所圖繪及那賀郡誌ニハ其ノ西ナルヲ雌桂、東ナルヲ雄桂トシ、陸地測量部二万分之一地圖(龍門山)及ビ紀伊續風土記ニハ其ノ反對ヲ記セリ、余ハ明春花期ニ於テ更ニ實地ヲ觀察ノ上其ノ眞偽ヲ報告セントス  
桂樹ノ花ハ早春新葉未ダ生ゼザル前ニ開キ紅色ニシテ頗ル美ナリ 雄花ニハ四枚ノ苞アリ 開花ニ先チテ脱落ス無被ニシテ多雄蕊其ノ長サ一ナラズ 雌花ニモ四枚ノ苞アリ子房ハ四個アリテ各々單室ヲナス 花柱ハ長キ線形ニシテ子房ヨリモ長シ果實ハ蒴莢ニシテ彎曲シ

長サ四五分熟スレバ開裂ス 種子ハ長サ一分バカリニテ二列ニ着生シ其ノ數二十餘個アリ

### 七 龍門山ノ磁石巖

委員 重田重一報告

- 一所在地 那賀郡龍門村大字杉原字龍門山一〇七番ノ一二三
- 一山地 山林
- 一積積 二十六町九段五畝三步ノ内
- 一所有者 那賀郡龍門村大字杉原、長田村大字上田井共有
- 一管理者 那賀郡龍門村長 柑本政太郎
- 一現狀 高サ約四米、周圍約十七米大ノ一大岩塊ニシテ龍門山頂東部ノ突角ニ露出セリ、コレ所謂磁石岩ナリ、既成磁石ヲ此ノ岩上ニ置クトキハ磁針ハ殆ド東西ヲ指シテ靜止シ之ヲ各部位ニ就キテ檢スルトキハ岩塊ノ北半ハ概ネS極ヲ吸引シ南半ハN極ヲ牽引ス試ミニ小石片ヲ採リテ檢スルニ固定ノ磁極ヲ有ス 岩質ハ蛇紋石ナリ
- 一磁性ノ原因 鐵ハ一般磁性化シ易キ金屬トシテ知ラレ居ルモ鐵以外ニモ磁性ヲ附與シ得ルモノ



アリ「ニッケル」「コバルト」「ビスマス」及「アンチモニー」ノ如キモ微弱ナル磁化性ヲ有シ近年「フューズラー氏合金」Housler alloys トテ銅六五「マンガン」二七「アルミニウム」八ノ割合ニ合金トセルモノハ十分強力ナル磁石トナシ得ラルベキヲ知レリ 蛇紋岩の serpentine ハ苦土及鐵ノ含水硅酸塩ニシテ  $2\text{H}_2\text{O}_3 (\text{Mg Fe}) 0.25\text{SiO}_2$  ヲ以テソノ化學符號トス

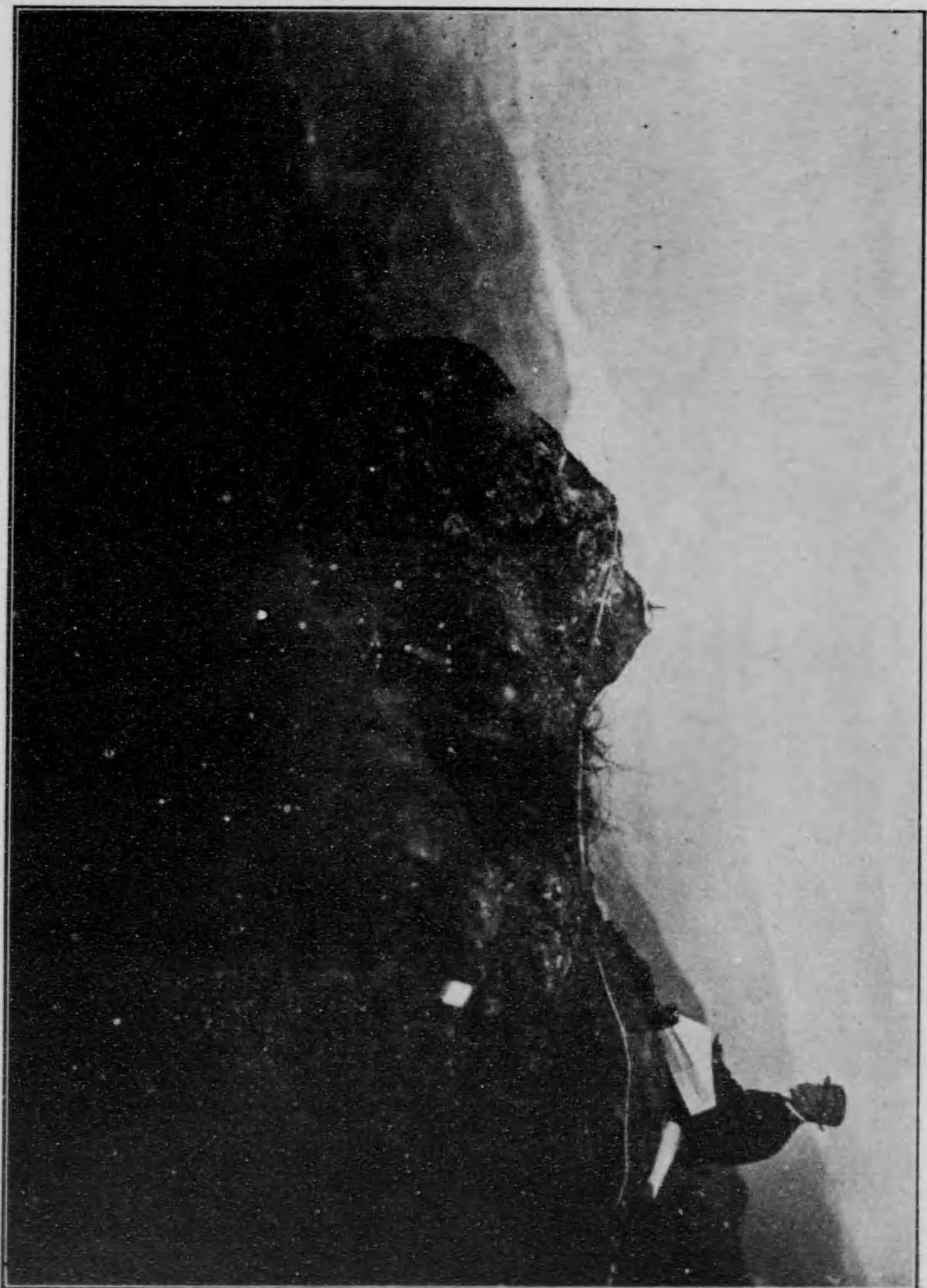
本山ニ産スル蛇紋岩ハ單ニ山頂ノ世人ニ知ラレ居ル一塊ニ限ラズシテ其ノ附近及ビ峠（六三二米）中腹一本松（二九一米）等ノ路傍ニ露出セルモノモ皆多少ノ磁性ヲ有スルコトヲ發見セリ

一保存ノ要件 學術研究上ノ好資料トシテ甚ダ重要ナルモノナレバ安ニ破壊採集スルコトヲ取締ラレタシ

### 八こがさはら

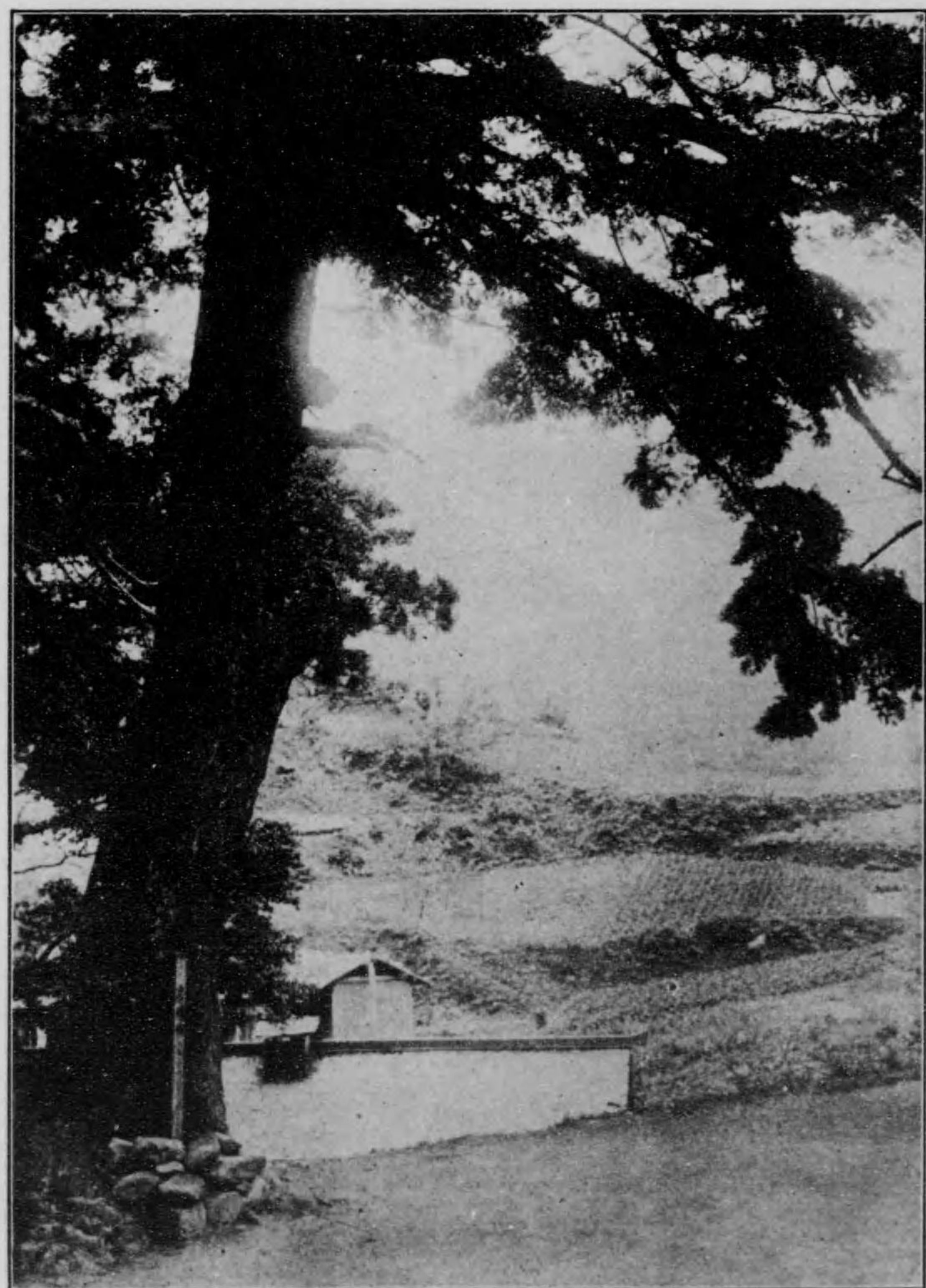
委員 榎本佳樹報告

- 一所在地 伊都郡高野村大字相浦字堂垣内三百三十五番地
- 一地目 丹生神社境内
- 一地積 二十五坪



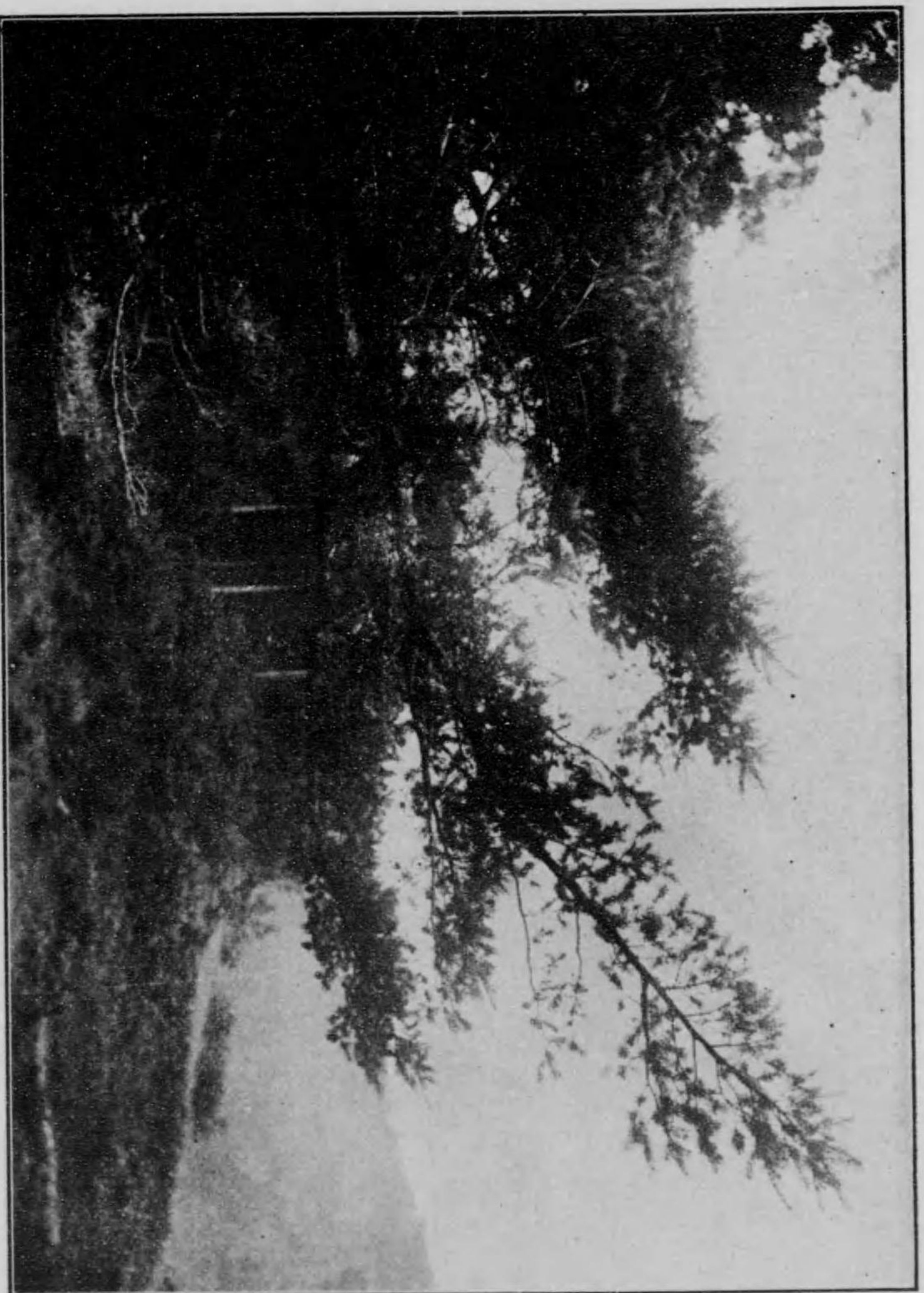
（左方ヨリ右ノ方ニ北） 巖石磁山門龍  
（ス影撮テシ面ニ北）





ら は さ が と





葉枝ノらほさがと



一所有者 伊都郡高野村 丹生神社

一大小形状等 樹幹ハ地上約五尺ノ所ニテ周圍一丈二尺、樹高約十七間、枝ノ擴張約七間

一現 狀 本樹ハ丹生神社境内廣場ト相浦小學校運動場トヲ兼ネタル場所ノ一隅ニアリ、附

近ニ杉ノ大樹數本叢生シ殊ニ其中ノ一本ハ本樹ニ接近シテ僅ニ一間半ヲ出デザル所ニアリ從  
テ本樹ノ枝ハ此等樹木ト反對ノ方向ニ發達セルモノ多シ、樹勢未ダ著シキ衰弱ヲ認メザルモ枝  
ノ中ニハ枯死セントスルモノナキニアラズ

一指定ノ事由 本種ハ我邦特有ノ植物ニシテ殊ニ其ノ分布モ極メテ局限セラレ且ツ從來濫伐ノ結  
果現今其ノ數著シク減少シ當地方ニテモ未ダ他ニ發見セラレズ頗ル珍稀ノモノナリ

又本種ハ幹ノ直徑三尺、樹高九十尺ヲ普通ノ最大限トセラル、モノナルニ本樹ハ幹ノ直徑ニ於  
テ約一尺、樹高ニ於テ十餘尺此ノ限度ヲ超越シテ實ニ稀有ノ老大樹ナリ、此等稀少並ビニ老大  
ノ点ニ於テ保存ノ價值充分ナルモノト認ム

一保存ノ要件 周圍ニ木柵ヲ繞ラシ露出セル根部並ニ樹幹ヲ毀損セザルヤウ保護ヲ加ヘ枯死セル  
枝條ヲ除去シテ其ノ截口ニ防腐劑ヲ塗リ又最も接近セル杉樹一本ヲ取り去リ（根ヲ掘開カザル  
コト）尙和名及ビ學名 *Pseudotsuga Japonica* SIRASAWA ヲ記シタル立札ヲ設クル等ナリ



九高野ぐみ

八四

委員 榎本佳樹報告

一所在地 伊都郡高野村大字相浦字松尾第十二番ノ三十二號

一地目 山林

一積 九坪(樹ヲ中心トシテ前後左右各一間半)

一所有者 伊都郡高野村大字相浦 森本竹松

一形状、大サ 本樹ハ胡頹子科胡頹子屬ノ落葉灌木ニシテ樹幹ハ直立性ヲ有シ枝ハ褐色ナルモ幹

ハ灰色ヲ帶ブ葉ハ互生ニシテ長キ倒卵形ヲナシ全縁ニシテ上端尖リ長サ六分乃至八分三厘、幅三分乃至四分、表面ハ綠色ナルモ裏面ハ地色帶銀光淡綠色ニシテ茶褐色ノ小斑点密在ス、花ハ腋生ニシテ通常單生ナルモ間々双生ノモノアリ色ハ黃白色ナルモ無數ノ赤褐色小斑アルタメ黃褐色ニ見ユ花被ノ管狀部ハ裂片ヨリ長シ、果實ハ六月下旬乃至七月上旬ニ熟シ卵形赤黃色ニシテ長サ約一分七厘徑約一分三厘アリ、樹幹直立性ヲ有シ葉花及ビ果實ノ小ナルコト等ハ他ノぐみト異ナル特徴トス



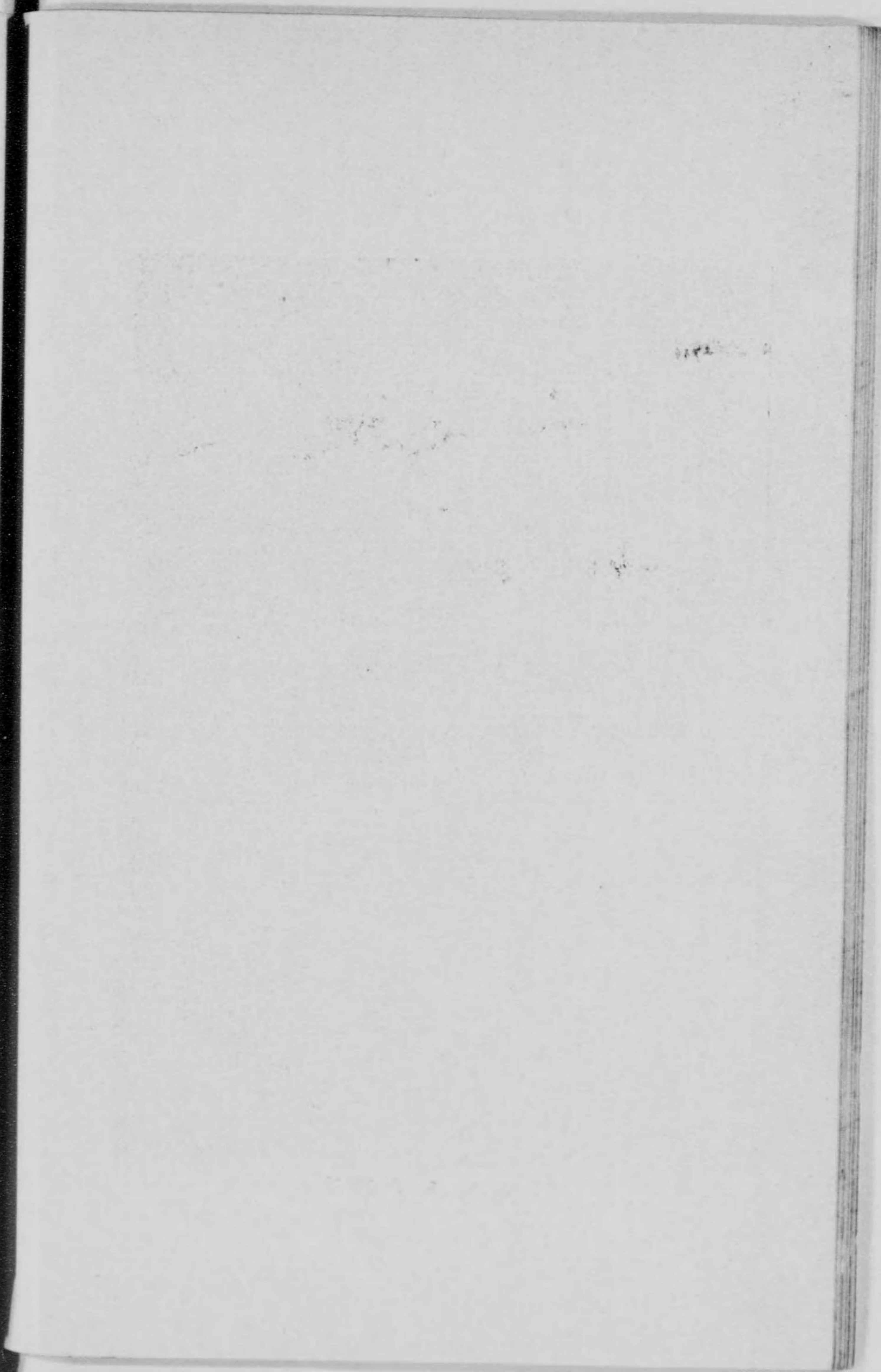
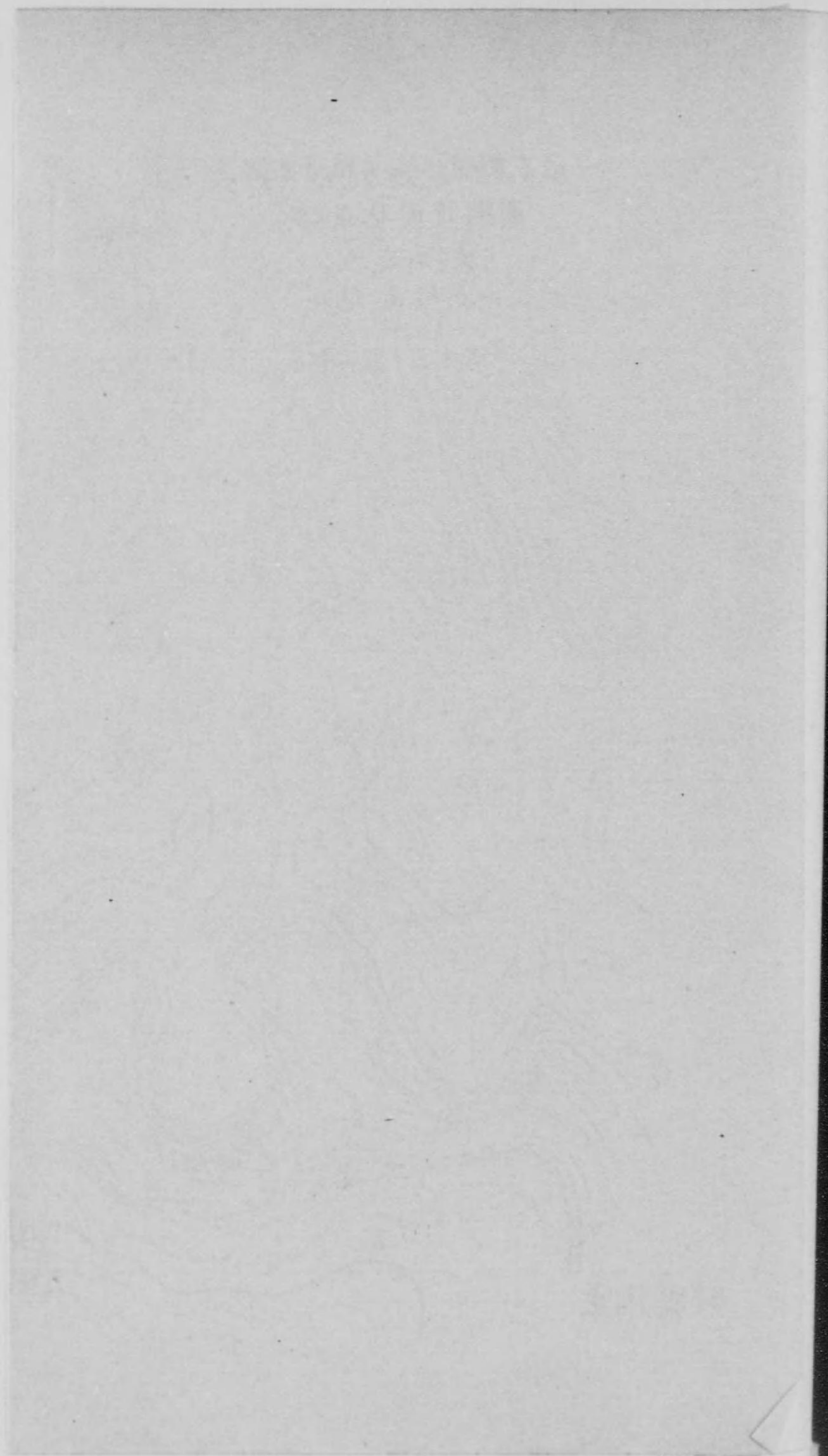
高野ぐみ





高野みぐノ枝葉







みぐ野高ニ並らはさがと  
 圖略近附地在所  
 らはさがと A  
 みぐ野高 Q  
 号二十三、番二十A



野高至

△ 946.5



村園花至

1 / 10000



一現

狀

所在地ハ高野ヨリ約二里二十五町相浦小學校ヨリ約二十町相浦ヨリ花園村ニ通ズル道路(幅約四尺)ヨリ東南へ約一間半登リタル所ニシテ樹ハ雜木雜草ノ中ニアリ本樹ハ特ニ人目ニ觸レ易キ形態若クハ色彩ナク且ツ附近ニ之ヨリモ大ナル雜木尠カラザルヲ以テ發見困難ナリ、ぐみトシテハ稀有ノ老大樹ニシテ地上約三尺ノ處ヨリ二肢ニ分レ双肢共數多ノ枝梢ヲ出シ幹ノ周圍根元ニテ四尺、二肢ニ分ル、處(地上ヨリ約三尺)ニテ三尺六寸樹高及ビ枝ノ擴リハ何レモ二間半餘アリ、樹齡ハ頗ル古キモノナランモ枝葉繁茂ノ有様ヨリ見レバ勢力尙旺盛ナリト認メ得ベシ

一保存ノ要件

周圍ノ雜木雜草ヲ除去シ杭ヲ建テ之レニ鐵條ヲ張リ尙該植物ノ科名種名(和名)及學名ヲ記シタル立札ヲ設クルヲ可トスベシ

備考

高野ぐみハ和歌山縣史蹟名勝天然記念物調查會報告第三輯天然記念物第二ニ登載セシモ此ノ分其ノ後伐採セラレ而シテ新ニ此ヨリ更ニ大ナルモノヲ同村同大字ノ別ノ字ニ於テ發見セラレシガ本報告即チ此ナリ



## 一〇 高野山植物目錄

委員 小川由一 報告

八六

過グル明治四十二年六月當時本縣師範學校在學中同級生五十餘名ト共ニ高野山ニ登リ恩師中島教諭指導ノ下ニ植物ノ採集ヲ行ヒシガ此レ實ニ余ガ同山ノ植物ニ接シタル初ニシテ爾來十有五年毎歲必ズ數回ノ登山ヲナシ同山ノ各方面ニ亘リテ採集調査ヲ繼續シタル結果他ヤ略々同山植物帶ニ通ズルヲ得タリ、本目錄ハ叙上ノ如ク余ガ十五年間採集又ハ觀察シタル所ヲ基礎トシテ作製シタルモノナリ

高野山ハ面積廣汎地勢複雜ニシテ雨量豐富密林幽谷至ル所ニ存シ加之古來天下ノ靈山トシテ斧鉞ヲ加フルコトナカリシタメ植物ノ種類數量共ニ頗ル豐富ニシテ珍種亦尠カラズ、サレバ同山ノ全植物ヲ調査シテ其ノ目錄ヲ完成スルハ蓋シ容易ノ業ニアラズ況ンヤ淺學余ノ如キモノガ公務ノ餘暇ヲ以テ之ニ當ルニ於テヲヤ隨ツテ其ノ成果ハ固ヨリ不完全ナルヲ免レザルモ又大ナル遺漏過誤ナキモノト斷言スルニ躊躇セザルナリ

本縣田邊中學校教諭宇井縫藏氏ハ植物學ノ造詣深ク多年力ヲ本縣ノ植物調査ニ致シ先年「紀州植物」

ナル一編ヲ公刊セラレタリ同書中收ムル所ノ高野山植物ニシテ余ガ未ダ同山ニテ目撃シ得ザルモノ若干アリ本目錄中ニモ之ヲ採録セシガ種名ノ下ニ(紀)ナル文字ヲ添ヘ置キタリ

大正九年八月本縣教育會並ニ本縣博物學會聯合シテ牧野富太郎氏ヲ聘シ高野山ニ植物學講習會ヲ開キタル際余モ亦講習員ノ一人トシテ牧野講師指導ノ下ニ採集ヲ行ヒシガ講師並ニ講習員ノ努力ニ依リ新ニ若干ノ同山植物目錄ニ加フルニ至リタリ本目錄中種名ノ下ニ(博)ナル文字ヲ記シテ其ノ出所ヲ明カニセリ

高野山中學教諭沼尻好氏ハ學殖深ク且篤學ノ士ニシテ常ニ高野山ノ植物ヲ採集シ最モ精密ナル調査ニ盡瘁セラル本目錄中種名ノ下ニ(沼)ト記セルハ同氏ノ好意ニヨリテ加フルコトヲ得タルモノナリ余ハ今後自ラ調査ヲ進ムルト共ニ更ニ同氏ノ援助ヲ得テ本目錄ノ完成ヲ見ンコトヲ期待セリ

本目錄ニ收ムル所ハ山麓ヨリ山上一帶ニ亘ル地域ニ産スル羊齒植物門以上ノモノニシテ之ヲ自然分科ノ序位ニ排列シ更ニ和名頭文字ノ五十音順ニ從ヒテ之ヲ記載シタリ但シ簡單ヲ期スルタメ和名ノミニ止メ學名ハ凡テ之ヲ省キタリ

本目錄ニ收ムル所ノ植物ハ其ノ總數一一九九種ニシテ之ヲ表示スレバ左ノ如シ

羊齒植物……………一四四

八七



裸子植物……………二〇

被子植物……………一〇三五

雙子葉類……………七五九

離瓣花區……………四七六

合瓣花區……………二八三

單子葉類……………二七六

備考

本縣史蹟名勝天然記念物調査會報告第三輯天然記念物第三高野山ノ植物群參照

第一 羊齒植物群

(甲) 羊齒類

はなやすり科 (瓶爾小草科)

オホハナワラビ

ハナヤスリ

ナツノハナワラビ(沼) フユノハナワラビ

うらじろ科 (裏白科)

ウラジロ

コシダ

つるしのぶ科 (海金砂科)

ツルシノブ

せんまい科 (薇科)

ゼンマイ

ヤシヤゼンマイ

ヤマドリゼンマイ

こけしのぶ科 (苦苣科)

ウチハゴケ

カウヤコケシノブ

コガネシノブ

コケシノブ

うらばし科 (水龍骨科)

アマクサシダ

アラガネシダ

アラネカヅラ

インカグマ

イヌシダ

イヌワラビ

イタチシダ

イハガネゼンマイ

イハデンダ(紀)

イハヒメワラビ(博)

イハヘゴ

イハヤシダ

イハトラノヲ

イハガネサウ

イヌガンソク

ウスヒメワラビ

オホバカナワラビ

オホキジノヲ

オニヤブソテツ

オホバ井ノモトサウ

オホバノハチジャウシダ

オホバノアマクサシダ

オホヒメワラビ(博)

オホクジヤクシダ(博)

オシヤゴジデンダ

オホヒロハノイヌワラビ

カタ井ノデ(博)

カウヤワラビ

カナワラビ

カラクサシダ

キジノヲシダ

キヨタキシダ



キヨズミヒメワラビ  
 クマワラビ  
 ゲジゲジシダ  
 コタニワタリ  
 サトメシダ(博)  
 ジウモンジシダ  
 シラネワラビ  
 チャセンシダ  
 ナラヒシダ  
 ノキシノブ  
 ハコネシダ  
 ヒトツバ  
 ヒメサジラン  
 フクロシダ(博)

クリハラン  
 クラガリシダ  
 コバノヒノキシダ  
 コガネワラビ  
 シシラン  
 シノブカグマ  
 シノブ  
 ツルデンダ  
 ナガミシシラン(博)  
 ノコギリシダ  
 ハカタシダ  
 ヒロハイスワラビ  
 ビラウドシダ  
 ベニシダ

クジャクシダ  
 クモノスシダ  
 コモチシダ  
 サジラン  
 シケシダ  
 シシガシラ  
 タニイスワラビ(紀)  
 ツヤナシ井ノデ  
 スカイタチシダ(博)  
 ハシゴシダ  
 ハクモウ井ノデ  
 ヒメカナワラビ  
 フヂシダ  
 ヘビノネゴザ

クサソテツ  
 クルマシダ  
 コバノイシカグマ  
 サイコクベニシダ(沼)  
 シケチシダ  
 シヨリマ  
 タチシノブ  
 トラノヲシダ  
 スリトラノヲ  
 ハリガネワラビ  
 ヒメワラビ  
 ヒメノキシノブ  
 フモトシダ  
 ヘラシダ

ホソバイスワラビ  
 ホテイシダ  
 ミドリカナワラビ  
 ミツデウラボシ  
 メシダ  
 ヤマイスワラビ  
 井ノモトサウ

ホウビシダ  
 ホラシノブ  
 ミヤマイタチシダ  
 ミヤマクマワラビ  
 ヤブソテツ  
 ワウレンシダ(博)

ホソバシケシダ  
 ホシダ  
 ミヅシダ  
 ミヤマシケシダ  
 ヤノネシダ  
 ワフビ

ホソバカナワラビ  
 マメヅタ  
 ミヤマワラビ  
 ミヤマノキシノブ  
 ヤハラシダ  
 井ノデ

さんせうも科 (槐葉蕨科)

アカウキクサ

でんじさう科 (蕨科)

デンジサウ

(乙) 木 賊 類

ごくさ科 (木賊科)

スギナ

イヌスギナ(沼)



(丙) 石松類

いはひば科 (卷柏科)

イハヒバ

カタヒバ

クラマゴケ

タチクラマゴケ

ひかげのかづら科 (石松科)

スギラン (博)

タウゲシバ

ヒカゲノカヅラ

ホソバタウゲシバ

マンネンスギ

ミヅスギ

第二 裸子植物群

いちのり科 (二位科)

イヌガヤ

イチ井

カヤ

マキ

まつ科 (松杉科)

アカマツ

ウラジロモミ (博)

カラヤマキ

クロマツ

コメツガ

ゴエフマツ

スギ

ツガ

トガサハラ (沼)

トウヒ

ヒメコマツ

モミ

ひのき科 (扁柏科)

アスナロ

サハラ

ヒノキ

ムロノキ

第三 被子植物群

(甲) 雙子葉類

(A) 離瓣花區

はんげしやう科 (三白草科)

ドクダミ

ハンゲシヤウ

ちやらん科 (金粟蘭科)

ヒトリシズカ

フタリシズカ

やなぎ科 (楊柳科)

イハヤナギ

キヌヤナギ

コゴメヤナギ

コリヤナギ

ジヤヤナギ

シバヤナギ

ネコヤナギ

ヤマナラシ



ヤマネコヤナギ

ヲノヘヤナギ

やまもも科 (楊梅科)

ヤマモモ

くるみ科 (胡桃科)

オニグルミ

サハグルミ

かばのき科 (樺木科)

アカシデ

イヌシデ

サハシバ

ダケカンバ (紀)

ヒメヤシヤブシ

ヤマハンノキ

かしは科 (殼斗科)

アカガシ

アベマキ

イチ井ガシ

ウラジロガシ

イヌブナ

クスギ

シラカシ

シヒノキ

ノグルミ

カハラハンノキ

ツノハシバミ

クマシデ

ハシバミ

アラカシ

オホナラ

クリ

ツクバネガシ

イマメガシ

カシハ

コナラ

ナラガシハ (博)

ブナ

ミヅナラ

にれ科 (楡科)

アキニレ

エノキ

ハルニレ (博)

ムクノキ

くは科 (桑科)

イスビハ

カウゾ

クハクサ

ヒメイタビカヅラ

いらくさ科 (蕁麻科)

アカソ

イラクサ

カラムシ

コアカソ

ヒメウハバミサウ (博)

ホンバイラクサ

ムカゴイラクサ

ヤブマヲ

びやくだん科 (檀香科)

カナビキサウ

エゾエノキ (博)

ケヤキ

カナムグラ

ヤマグハ

ウハバミサウ

カテンサウ

トキホコリ

ナガバヤブマヲ (博)

ミヅ

キミヅ (沼)

ヤマトキホコリ (博)

ヤマミヅ (博)



やどりき科 (解寄生科)

ヒノキバヤドリキ

マツグミ

ヤドリキ

うまのすゞくさ科 (馬兜鈴科)

ウスバサイシン

ウマノスズクサ

ウンモンカンアフヒ

カンアフヒ

フタバアフヒ

ホンバウマノスズクサ

た で 科 (蓼科)

イシミカハ

イタドリ

イヌタデ

オホイヌタデ

ギシギシ

サクラタデ

スイバ

タニソバ

ナガバノウナギツカミ

ニハヤナギ

ネバリタデ

ハルトラノヲ (沼)

ハルタデ

ハナタデ

ホンバミヅタデ (博)

ママコノシリヌグヒ

ミゾソバ

ミヅヒキ

ミヤマタニソバ

あかざ科 (藜科)

アカザ

ひ ゆ 科 (莧科)

イヌビユ

井ノコヅチ

やまごぐさ科 (大和草科)

ヤマトグサ

やまごぼう科 (商陸科)

マルミノヤマゴボウ

すべりひゆ科 (馬齒莧科)

スベリヒユ

なでしこ科 (石竹科)

ウシハコベ

オホヤマフスマ

オホヤマハコベ

カハラナデシコ

ツメクサ

ツルハコベ

ノミノフスマ

ハコベ

フシグロ

フシグロセンノウ

ミツモトサウ (沼)

ミミナグサ

ワチガヒサウ (沼)

ひつじぐさ科 (睡蓮科)

カハホネ

ジュンサイ

ヒツジグサ

ハス



オニバス

かつら科 (雲葉科)

カツラ

フサザクラ

ヤマグルマ

うまのあしがた科 (毛茛科)

アキカラマツ

イヌシヤウマ

イチリンサウ

オキナグサ (紀)

オホバシヤウマ

カザグルマ

カラマツサウ

キンボウゲ

キツネノボタン

シウメイギク

センニンサウ

セリバワウレン

タガラシ

ラツセン

トリガタハンシヤウヅル (沼)

ヒメウヅ

トウゴクサバノヲ (博)

バイクワウレン

ハンシヤウヅル

ミヤマハンシヤウヅル (博)

フクジュサウ (沼)

ボタンヅル

ミスミサウ (沼)

ミヤマハンシヤウヅル (博)

ヤマシヤクヤク

ヤマトリカブト

あけび科 (木通科)

アケビ

トキハアケビ

ミツバアケビ

めぎ科 (小蘗科)

イカリサウ (沼)

オホバメギ

ナンテン

メギ

つづらふち科 (防己科)

アラツヅラフヂ

オホツヅラフヂ

もくれん科 (木蓮科)

コブシ

シキミ

タムシバ

ビナンカツラ

ホホノキ

マツブサ

くす科 (樟科)

アブラチャン

アラガシ

イヌガシ

イヌグス

オホバクロモジ (紀)

カナクギノキ

クスノキ

クロモジ

ケクロモジ

シロダモ

シロモジ

ダンカウバイ

ヤブニクケイ

ヤマコウバシ

けし科 (罌粟科)

キケマン

クサノワウ

タケニグサ

ムラサキケマン

ヤブエンゴサク (沼)



なたね科 (十字花科)

イヌナヅナ  
 コンロンサウ  
 ユリワサビ(沼)  
 ワサビ  
 いしもちさう科 (茅薺菜科)  
 コモウセンゴケ  
 モウセンゴケ  
 イハタガラシ(紀)  
 ナヅナ  
 オホバタネツケバナ  
 ヤマハタザホ

べんけいさう科 (景天科)

キリンサウ(沼)  
 マルバマンネングサ  
 メノマンネングサ  
 ヨノマンネングサ  
 ツメレンゲ  
 ヒメレンゲ

ゆきのした科 (虎耳草科)

アワモリシヤウマ  
 イワガラミ  
 コガネネコノメ(博)  
 コチャルメルサウ  
 タチネコノメサウ(博)  
 ウツギ  
 ゴトウヅル  
 サハアチサ井  
 チヤルメルサウ  
 ガクウツギ  
 コアチサ井  
 ズ井ナ  
 チダケサシ

まんさく科 (金樓梅科)

ヅダヤクシユ  
 バイクワウツギ  
 ヤシヤビシヤク  
 トリアシシヤウマ(紀)  
 マルバウツギ  
 ヤハヅアチサ井  
 ネコノメサウ  
 ミヤマネコノメサウ  
 ユキノシタ  
 ノリウツギ  
 モクカウバナ

ばら科 (薔薇科)

イヌザクラ  
 ウハミヅザクラ  
 クマイチゴ  
 コバノフユイチゴ  
 ナナカマド  
 ハスノハイチゴ  
 マルバフユイチゴ  
 ヤマブキシヤウマ  
 ウラジロノキ  
 キンミヅヒキ  
 ケヤマザクラ(博)  
 ダイコンサウ  
 ナハシロイチゴ  
 ヒメバライチゴ  
 ミツバツチグリ  
 ヤマザクラ  
 ウラジロイチゴ  
 キイチゴ  
 コゴメウツギ  
 テリハノイバラ  
 ニガイチゴ  
 フユイチゴ  
 ミヤマフユイチゴ  
 ユキヤナギ  
 トサミヅギ  
 マンサク  
 ウシコロシ  
 クサイチゴ  
 ザイフリボク  
 ナンキンナナカマド  
 ノイバラ  
 ヘビイチゴ  
 ヤブイバラ  
 リンボク



ワレモカウ

ヲヘビイチゴ

まめ科 (豆科)

イヌエンジュ

ウマゴヤシ

クサネム

クズ

コマツナギ

ジヤケツイバラ

タンキリマメ

ツルマメ

ニハフヂ

ヌスピトハギ

ノササゲ

ハギ

フヂ

フヂキ(博)

マキエハギ

マルバハギ

メドハギ

ヤブマメ

ユクノキ

ふうろさう科 (風露草科)

フウロサウ(紅、白)

キハギ

ゲンゲ

センダイハギ(沼)

ナンテンハギ

ネムノキ

ヒロハヌスピトハギ

ホド

ミソナホシ

ヤハズエンドウ

かたばみ科 (酢漿草科)

オホヤマカタバミ

カタバミ

ミヤマカタバミ

イヌザンセウ

カラスザンセウ

キハダ

フユザンセウ

マツカゼサウ

ミヤマシキミ

サンセウ

へんろうだ科 (芸香料)

にがき科 (苦木科)

ニガキ

ひめはぎ科 (遠志科)

カキノハグサ

ヒメハギ

たかごうだい科 (大戟科)

アカメガシハ

エノキグサ

シラキ

タカトウダイ

ヒメミカンサウ

ヤマア井

せんだん科 (棟科)

コバンノキ

ナツトウダイ

ユヅリハ

コミカンサウ

ニシキサウ



チャンチン

ツゲ

つげ科 (黄楊科)

うるし科 (漆樹科)

ウルシ

ツタウルシ

ハゼノキ

フシノキ

ヤマウルシ

ヤマハゼ

もちのき科 (冬青科)

アラハダ

イヌツゲ

ウメモドキ

クロガネモチ

クロソヨゴ

ソヨゴ

タラエウ

ナナメノキ

にしきぎ科 (衛矛科)

クロヅル

コマユミ

サハダツ(沼)

ツリバナ

ツルマサキ

ツルウメモドキ

ニシキギ

ゴンズイ

みつばうつぎ科 (省沽油科)

ミツバウツギ

かへで科 (槭樹科)

イタヤカヘデ

ウリハダカヘデ

ウリカヘデ

エンカウカヘデ

オガラバナ(紀)

カヘデ

コハウチハカヘデ

コミネカヘデ(紀)

チドリノキ

ノグスリノキ

ごちのき科 (七葉樹科)

トチノキ

ほうせんくわ科 (鳳仙花科)

キツリフネ

ツリフネサウ(博)

あをかづら科 (清風藤科)

アワブキ

ミヤマハハソ

くろうめもごき科 (鼠李科)

クマヤナギ

ケンボナシ

コバノクロウメモドキ

ケケンボナシ(博)

ネコノチチ(博)

ぶだう科 (葡萄科)



エビヅル  
ヤブカラシ

サンカクヅル  
ヤラブダウ

ナツヅタ

ノブダウ

しなのき科 (田麻科)

カラスノゴマ

ボダイジュ

さるなし科 (獼猴桃科)

サルナシ

マタタビ

つばき科 (山茶科)

サカキ

シヤラノキ

ツバキ

ヒサカキ

おござりさう科 (金絲桃科)

アゼオトギリ

オトギリサウ

キンシバイ

コオトギリ

コケオトギリ

トモエサウ

ヒメオトギリ

ホンバオトギリ(紀)

すみれ科 (堇々菜科)

アフヒスミレ

アギスミレ(紀)

エゾスミレ

ケマルバスミレ

コスミレ

シハイスミレ

スミレ

タチツボスミレ

ツボスミレ

マルバスミレ

ミヤマスミレ(紀)

いぎり科 (椅科)

クスドイゲ

きふち科 (旌節花科)

キフデ

ぢんちやうげ科 (瑞香科)

コガンビ

ぐみ科 (胡頹子科)

アキグミ

カウヤグミ(博)

ツルグミ

ナハシログミ

みぞはぎ科 (千屈菜科)

エゾミンソハギ(紀)

キカシグサ

ミンソハギ

ミヅキカシグサ

うりのき科 (瓜木科)

ウリノキ

あかばな科 (柳葉菜科)